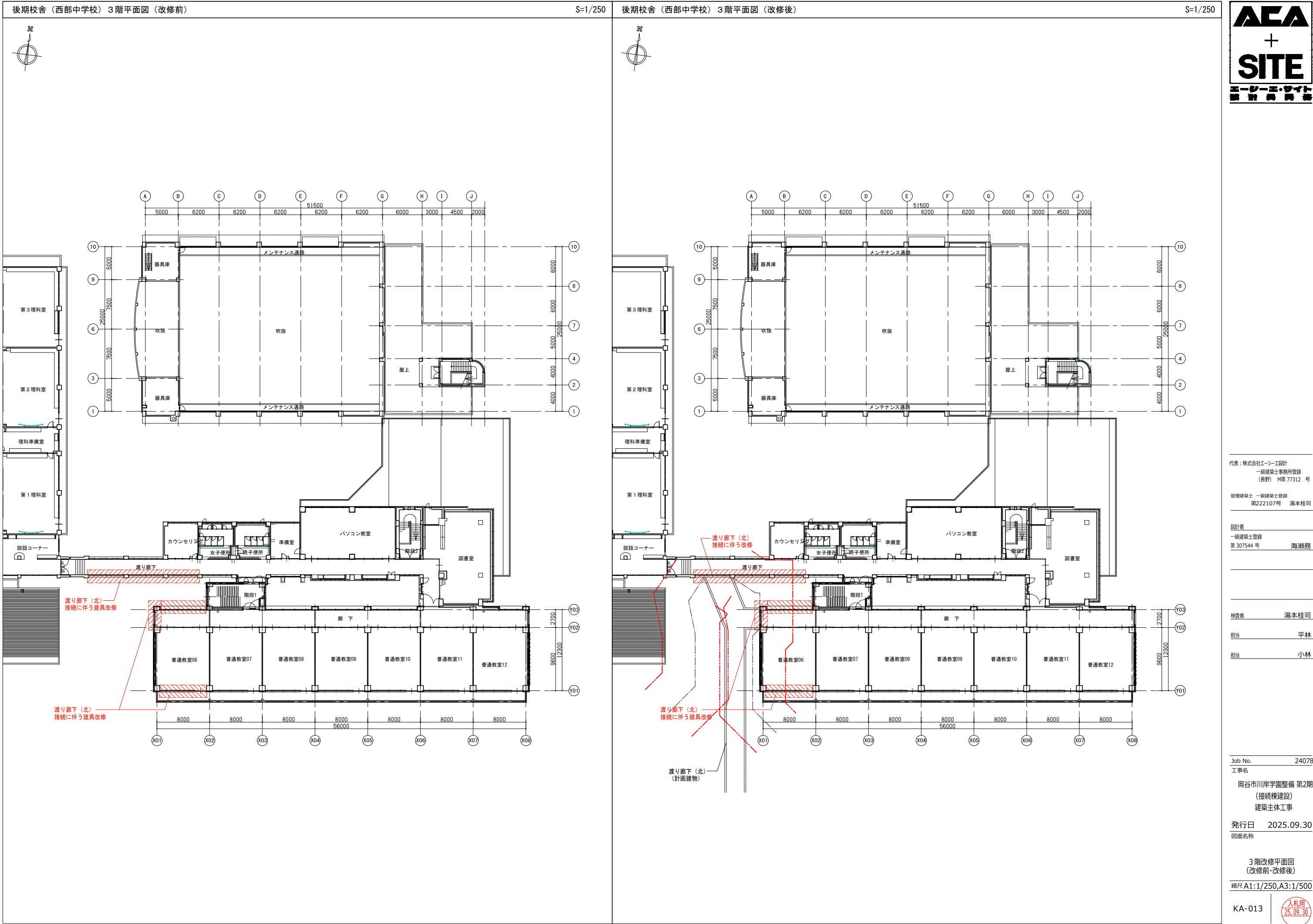
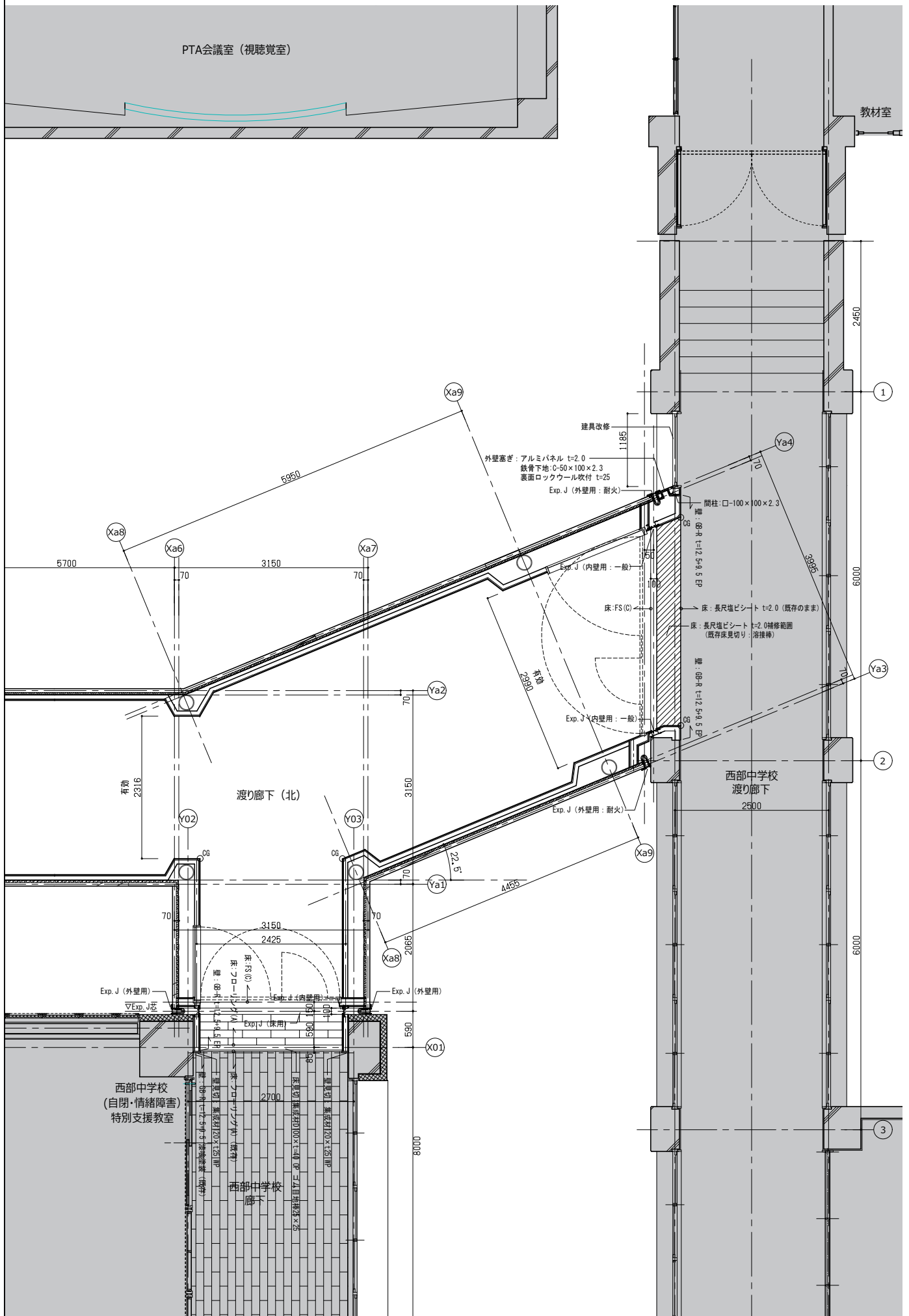
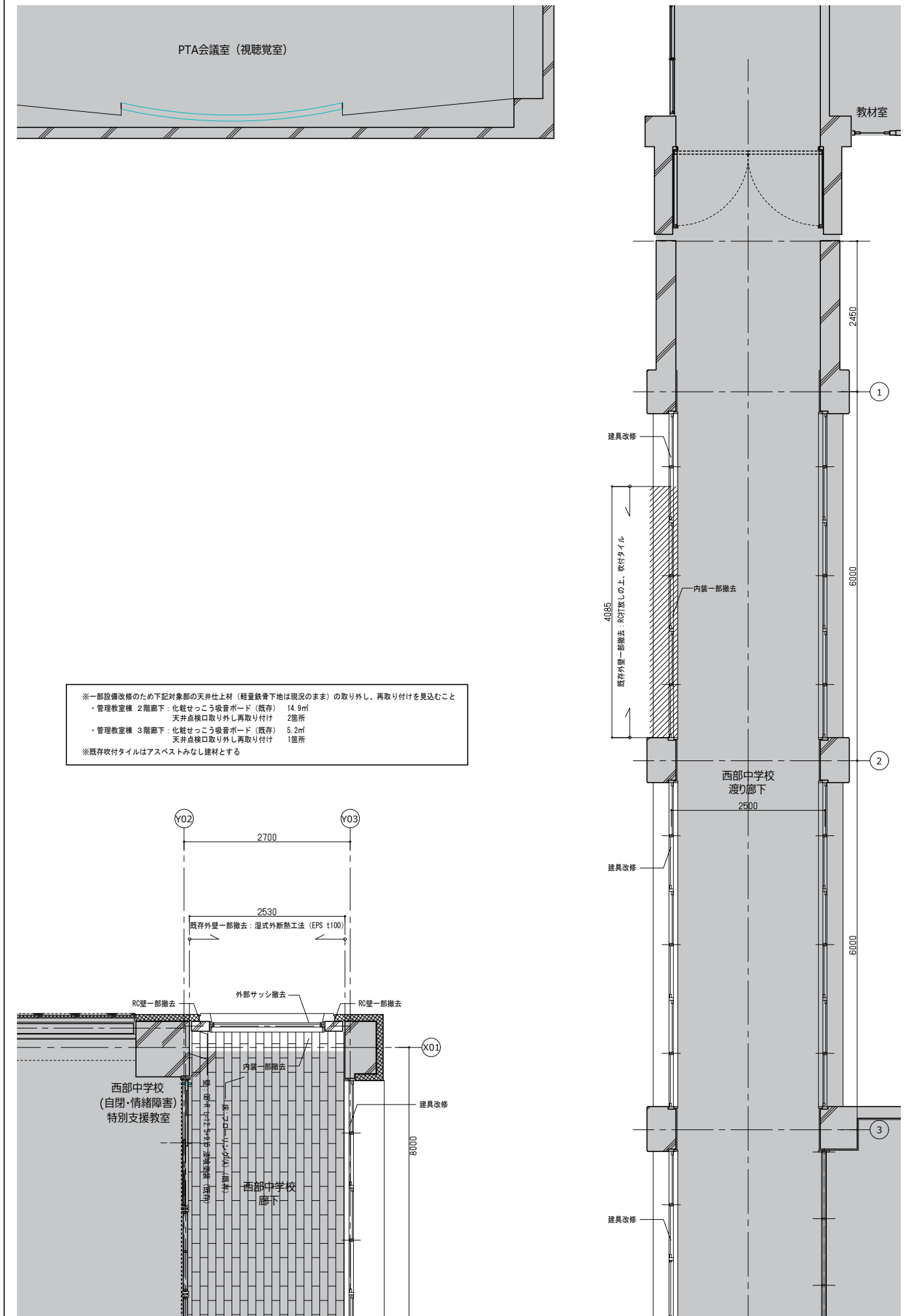






ACA
+
SITE
エーシーエー・サイト
設計事務所

代表：株式会社エーシーエー設計
一級建築士事務所登録
（長野） M第 77312 号

管理建築士 一級建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一級建築士登録
第 307544 号 海瀬務

検査者 湯本桂司

担当 平林

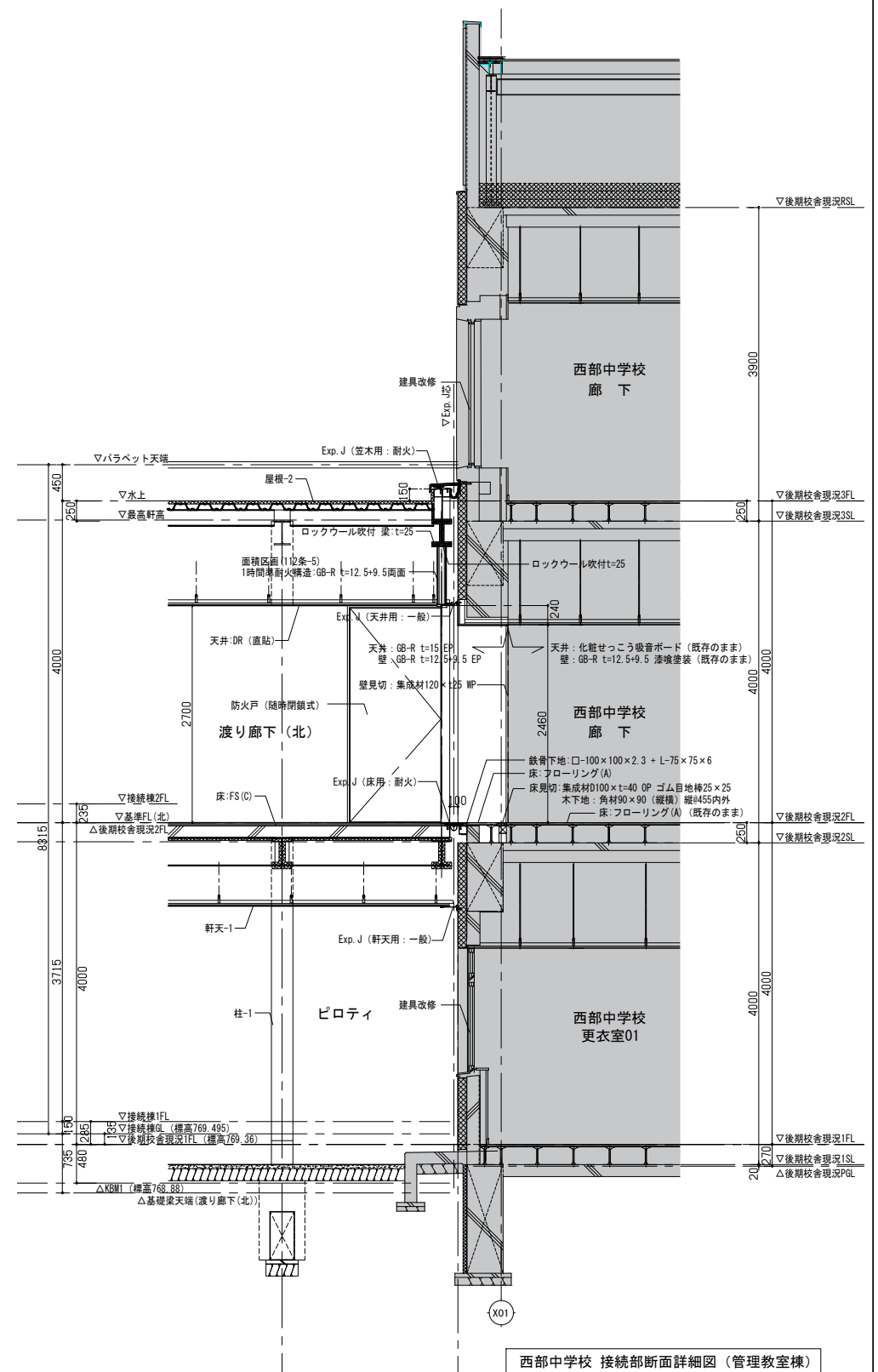
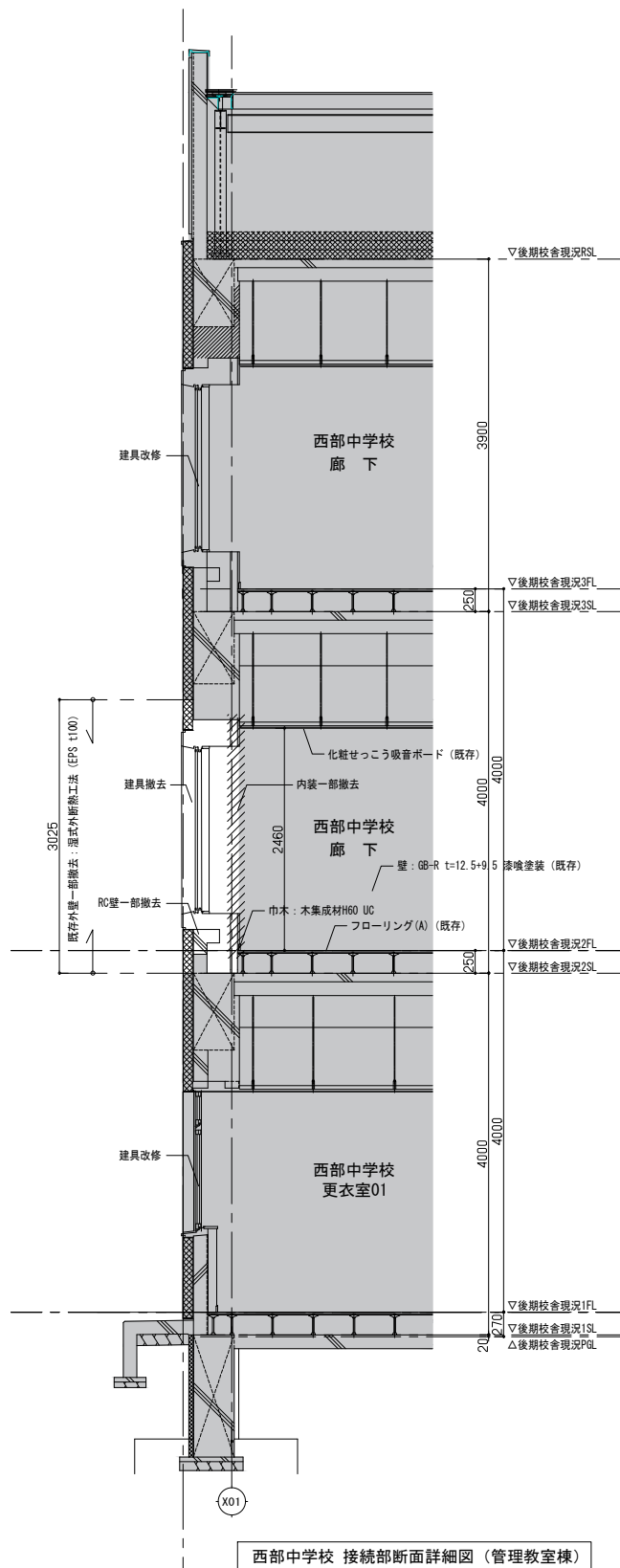
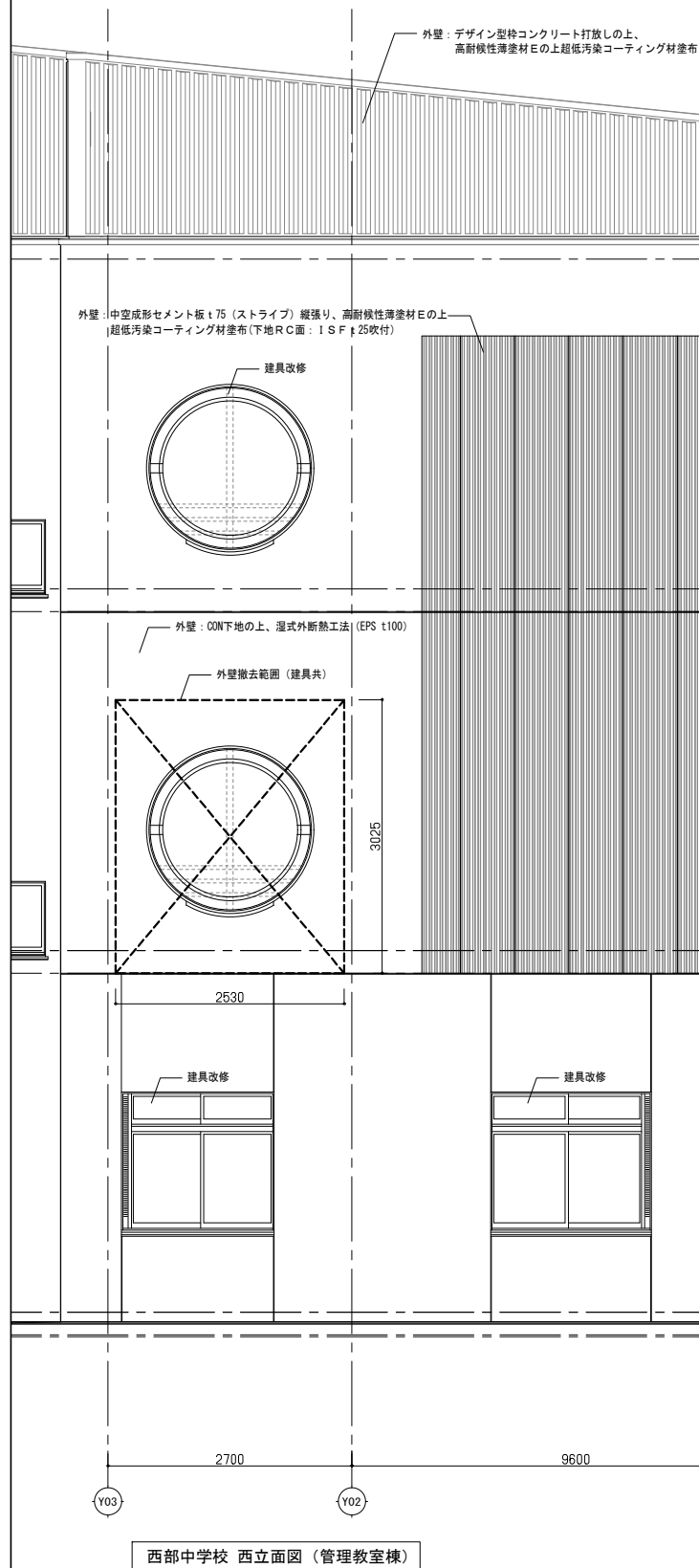
担当 小林

Job No. 24078
工事名 岡谷市川岸学園整備 第2期
（接続棟建設）
建築主体工事

発行日 2025.09.30
図面名称 【渡り廊下接続部】
2階平面詳細図
（改修前・改修後）

縮尺 A1:1/40,A3:1/80

KA-014 入札用
25.09.30



代表：株式会社エーシーエ設計
一級建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一級建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一級建築士登録
第 307544 号
海瀬務

検査者 湯本桂司

担当 平林

担当 小林

Job No. 24078

岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

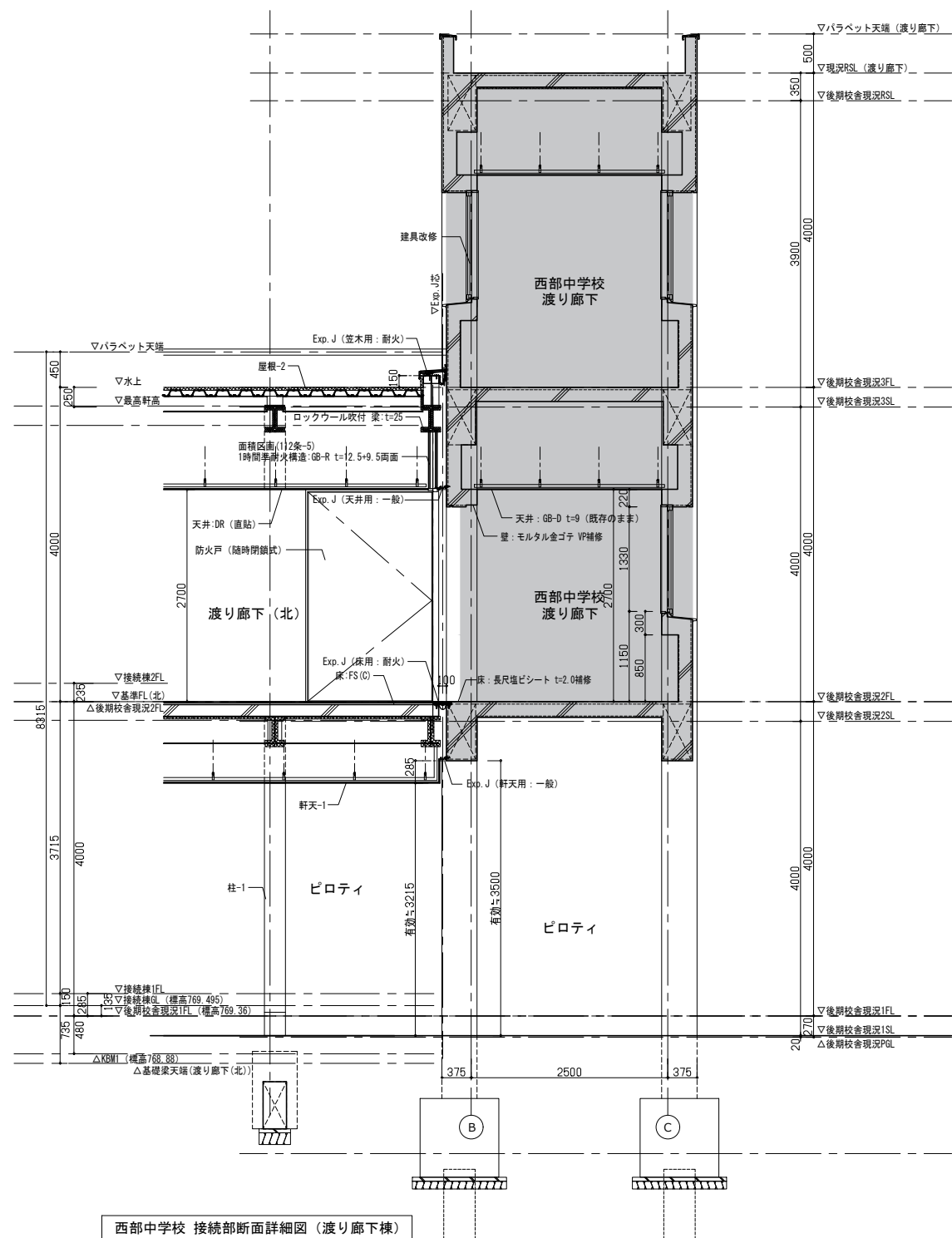
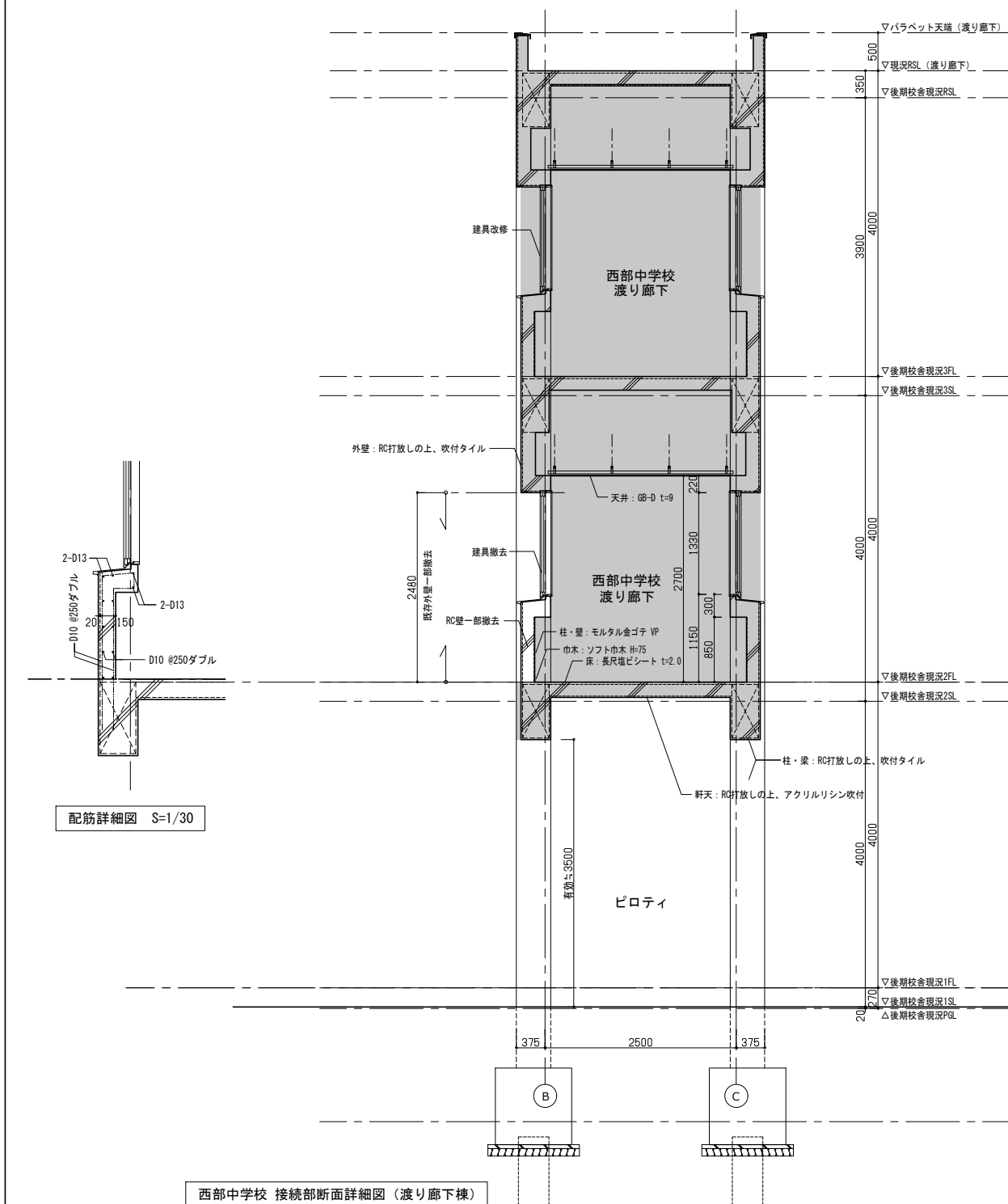
発行日 2025.09.30

図面名称

【渡り廊下接続部】
接続部詳細図（管理教室棟）
（改修前・改修後）

縮尺 A1:1/40,A3:1/80

KA-015



代表：株式会社エーシーエー設計
一級建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一級建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一級建築士登録
第 307544 号 海瀬務

検査者 湯本桂司

担当 平林

担当 小林

Job No. 24078
工事名

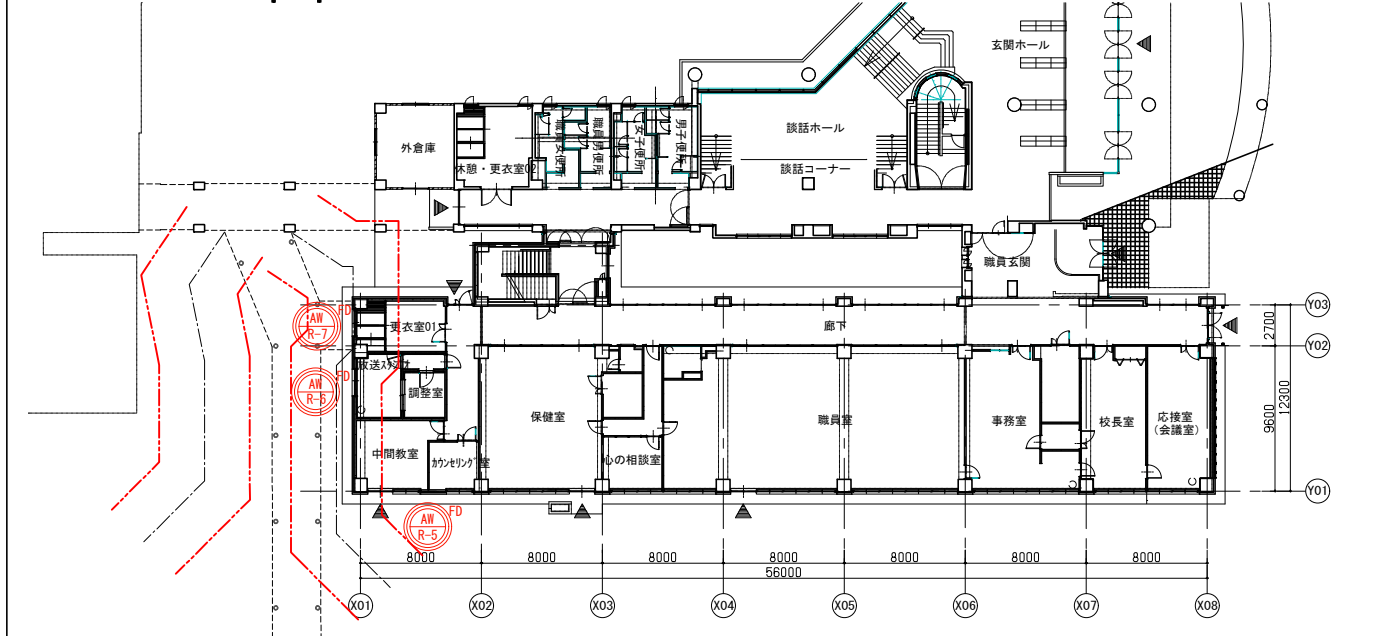
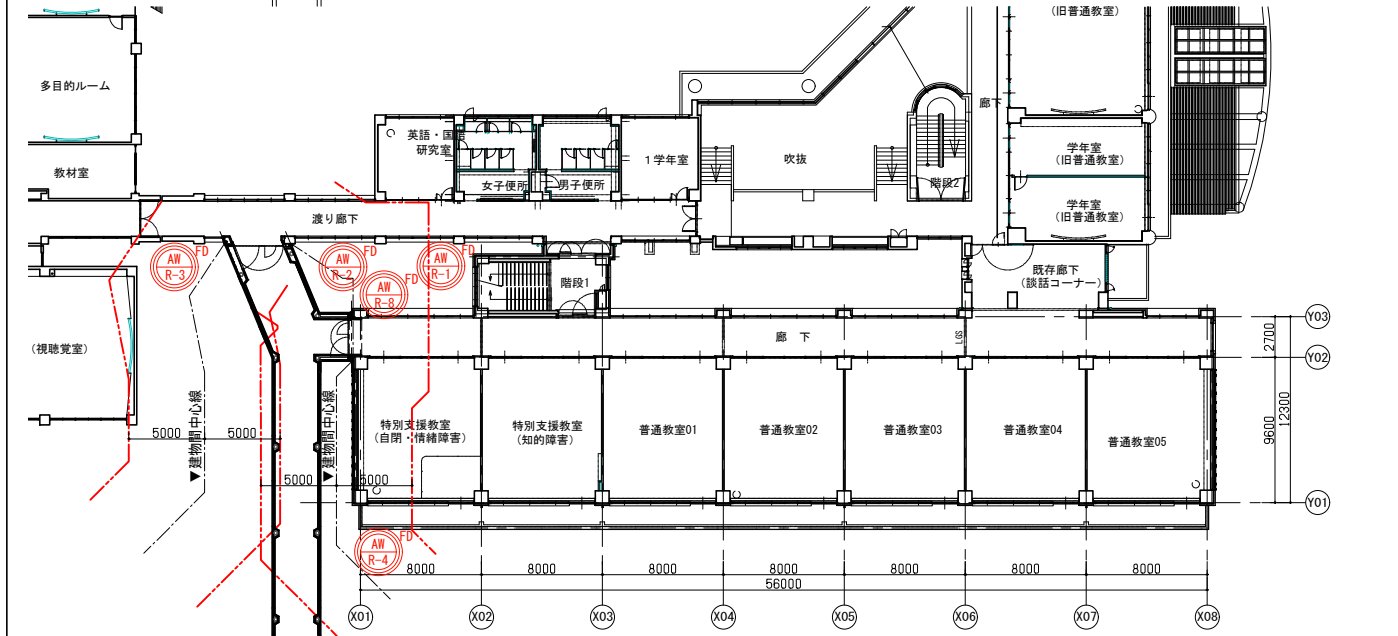
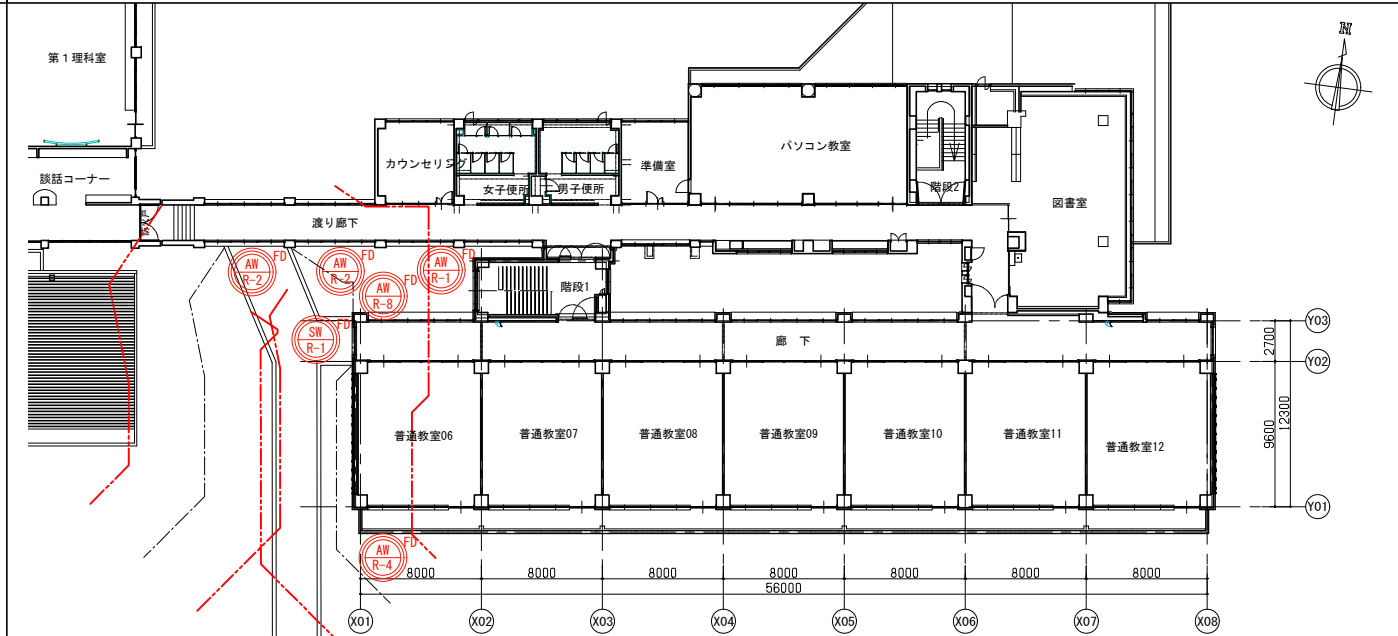
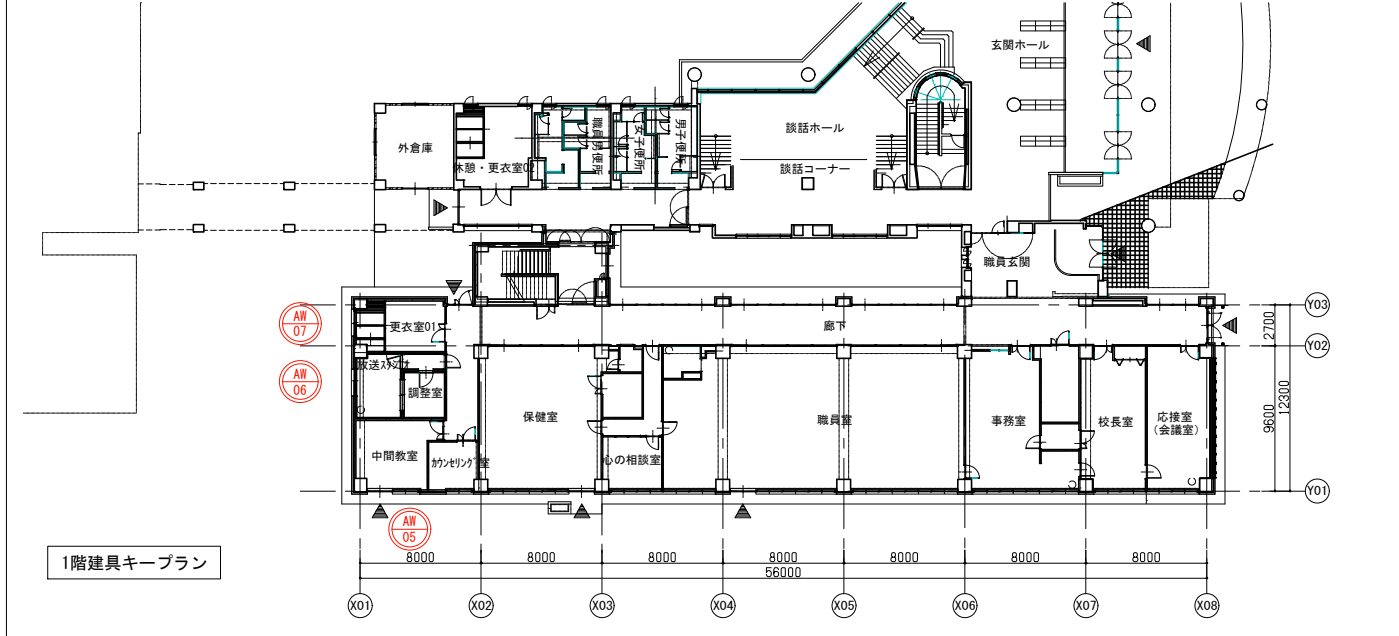
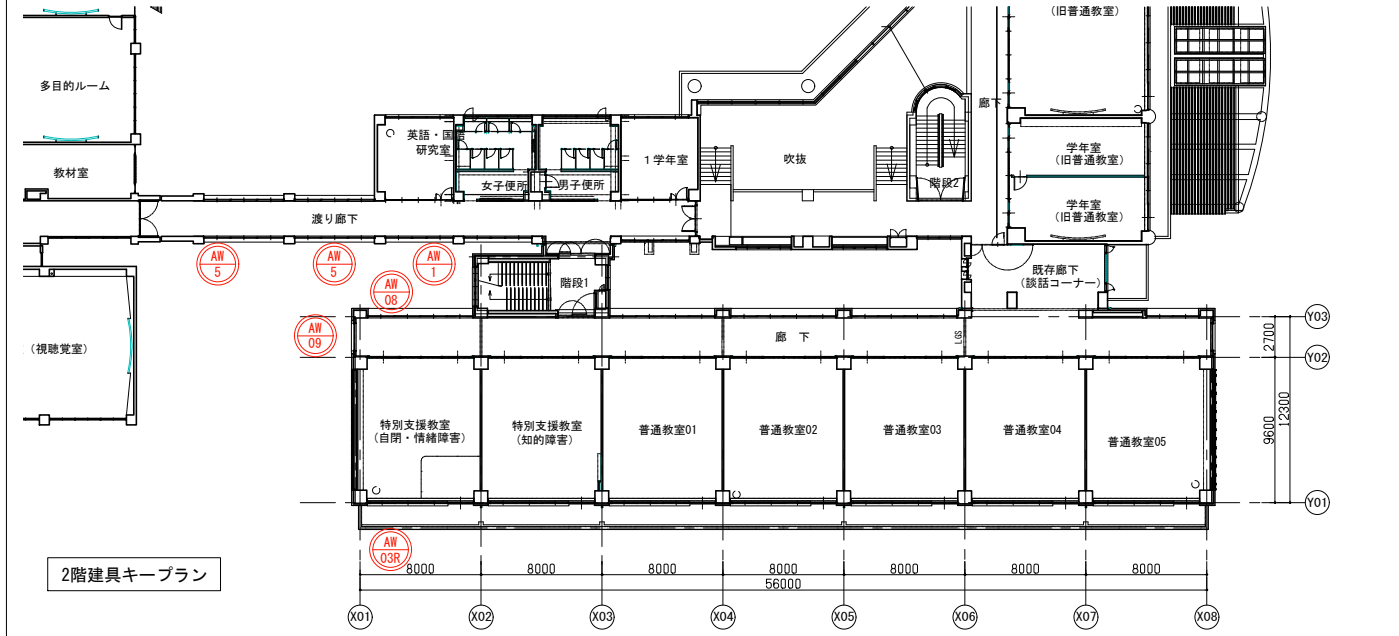
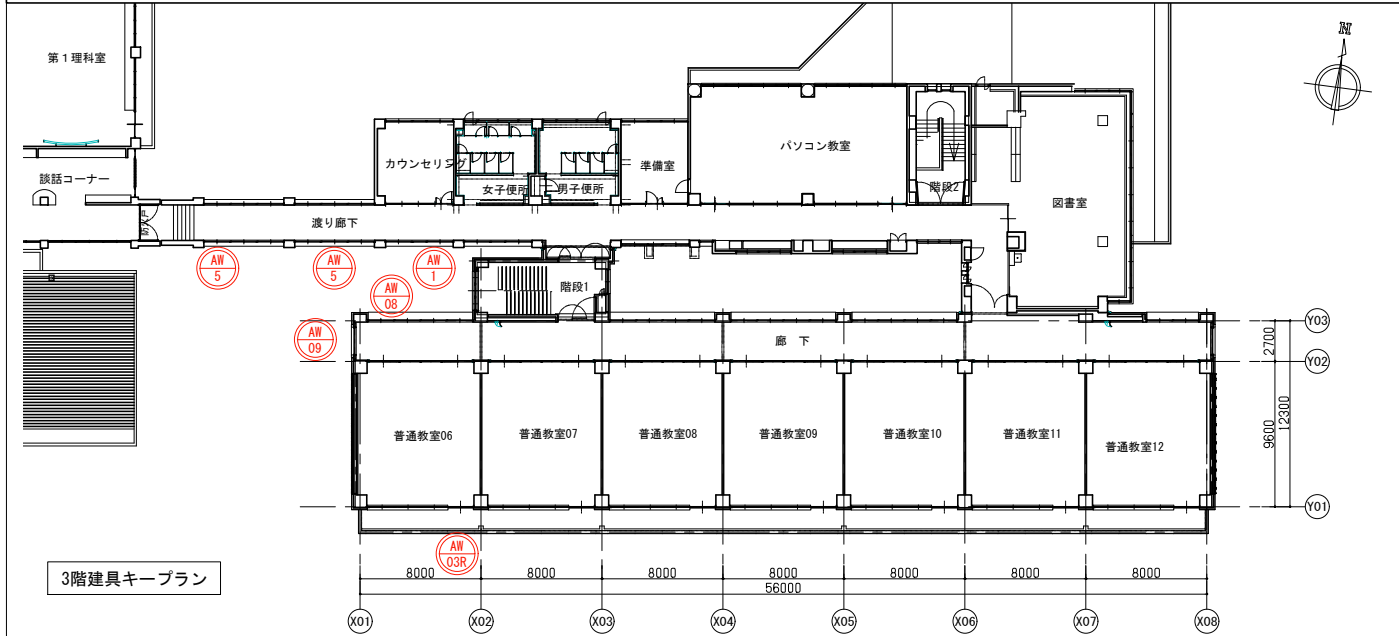
岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

発行日 2025.09.30
図面名称

【渡り廊下接続部】
接続部詳細図（渡り廊下棟）
(改修前・改修後)

縮尺 A1:1/40,A3:1/80

KA-016 入札用 25.09.30



代表：株式会社エーシーエー設計
一級建築士事務所登録
（長野） M第 77312 号

管理建築士 一級建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一級建築士登録
第 307544 号 海瀬務

検査者 湯本桂司

担当 平林

担当 小林

Job No. 24078
工事名

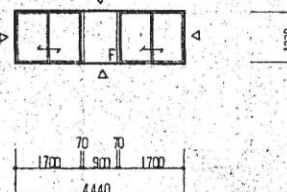
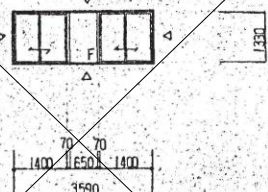
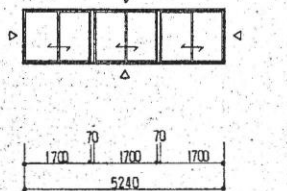
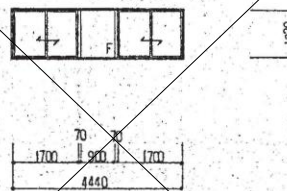
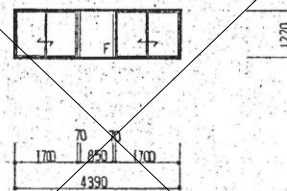
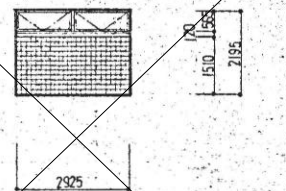
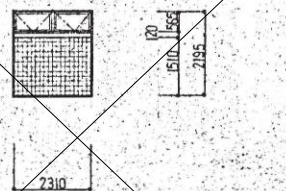
岡谷市川岸学園整備 第2期
（接続棟建設）
建築主体工事

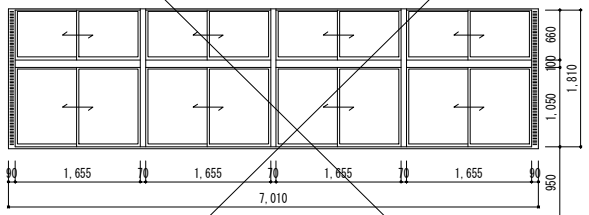
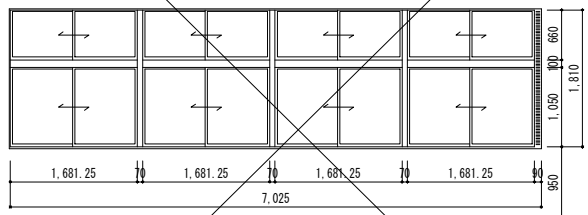
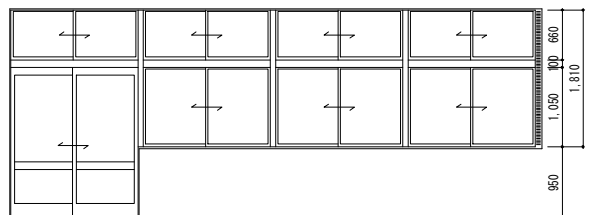
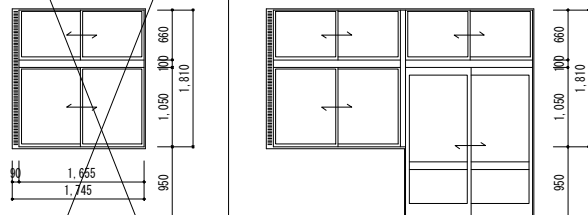
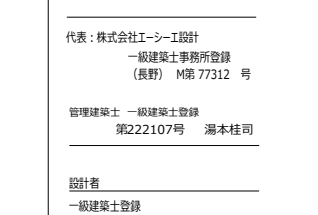
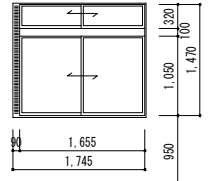
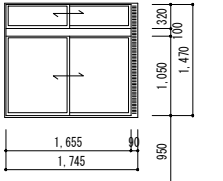
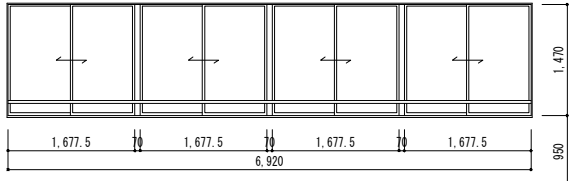
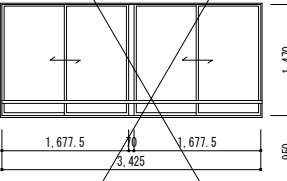
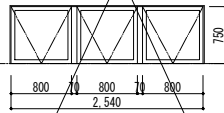
発行日 2025.09.30
図面名称

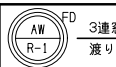
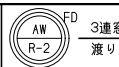
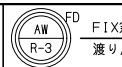
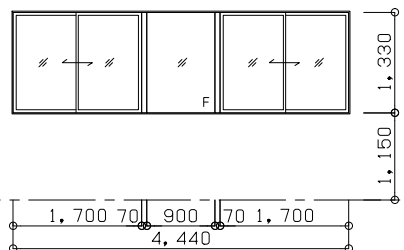
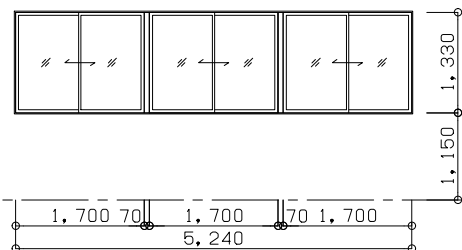
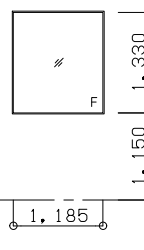
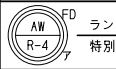
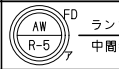
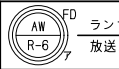
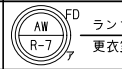
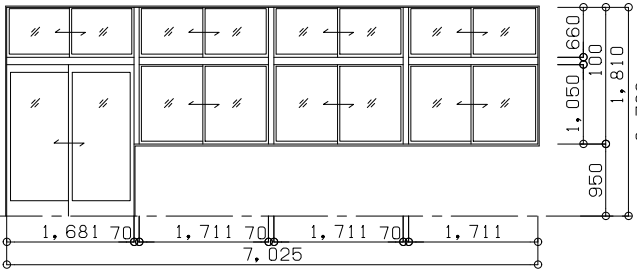
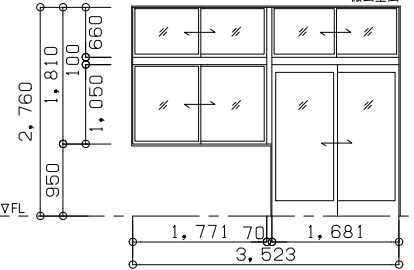
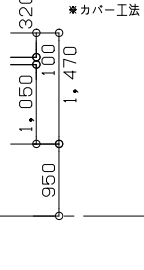
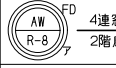
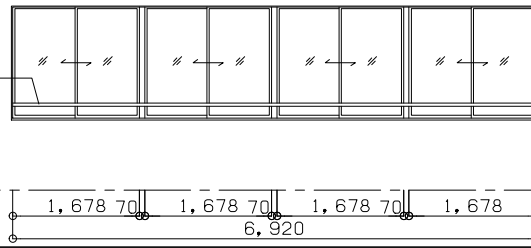
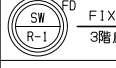
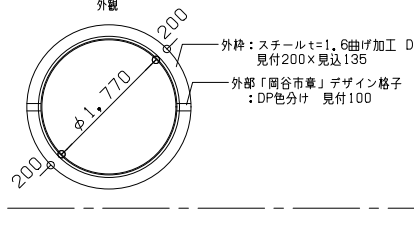
【渡り廊下接続部】
建具キープラン
（改修前・改修後）

縮尺 A1:1/250,A3:1/500

KA-017 入札用
25.09.30

						●カバー工法 			
型式	見込					①AW	②AW		
位置	数量					1F 2F 3F 廊下	1F 2F 3F 廊下、洗面		
積子	仕上					5割トーマイ	5割トーマイ		
金物						付属金物一式、両方アングルボース、アルミ四根	付属金物一式、両方アングルボース、アルミ四根		
備考									
			●カバー工法 改修建具【AW-R-3】部は撤去工法 						
型式	見込	④AW	⑤AW	⑥AW	⑦AW	⑧AW	⑨AW		
位置	数量	1F 2F 3F 廊下	2F 3F 廊下	2F 3F 研究室N01、N03	2F 研究室N02、3F 廊下	1F 生徒昇降口	1F 生徒昇降口		
積子	仕上	5割トーマイ	アルミ	5割トーマイ	アルミ	ガラス1割トーマイ	ガラス1割トーマイ		
金物		両方アングルボース、アルミ四根	付属金物一式、両方アルミアングルボース、アルミ四根	付属金物一式、両方アルミアングルボース、アルミ四根	付属金物一式、両方アルミアングルボース、アルミ四根	両方アングルボース、アルミ四根	両方アングルボース、アルミ四根		
備考									

種類	換気プレス・欄間付き連窓		換気プレス・欄間付き連窓		換気プレス・欄間付き連窓+テラス戸		換気プレス・欄間付き連窓		換気プレス・欄間付き連窓+テラス戸	
箇所	応接室(会議室)・校長室		事務室・職員室・心の相談室		職員室・保健室・普通教室		カウンセリング室		中間教室	
数量	1か所		3か所		計 1か所		計 1か所		計 1か所	
姿 図	①AW 		②AW 		③AW 		④AW 		⑤AW 	
見 込	70		70		70		70		70	
仕 上	アルミ(B-2)		アルミ(B-2)		アルミ(B-2)		アルミ(B-2)		アルミ(B-2)	
積子	PaB		PaB		PaB(ST4+A8+HSLE4)		PaB		PaB(ST4+A8+HSLE4)	
金 物	付属金物一式 換気プレス C.BOX 水切り M 額縁取付け2方アングル・結露受け 換気プレス-2本		付属金物一式 換気プレス C.BOX 水切り M 額縁取付け2方アングル・結露受け 換気プレス-1本		付属金物一式 換気プレス C.BOX 水切り M 換気プレス-1本 額縁取付け2方アングル・結露受け テラス戸部: SUSレーン 指詰め防止ゴム、網戸(外部可動式)		付属金物一式 換気プレス C.BOX 水切り M 額縁取付け2方アングル・結露受け 換気プレス-1本		付属金物一式 換気プレス C.BOX 水切り M 額縁取付け2方アングル・結露受け テラス戸部: SUSレーン 指詰め防止ゴム 換気プレス-1本、網戸(外部可動式)	
備考					特別支援教室(二か所)はシンリンダー錠付きクレセントとする(テラス戸・下部窓)					
種類	換気プレス・欄間付き防音2重窓		換気プレス・欄間付き窓		FIX丸窓		2連窓		3連内倒し窓	
箇所	放送スタジオ		休憩・更衣室01		2・3階廊下		2・3階廊下		2・3階階段	
数量	1か所		1か所		2・3階廊下		2か所		2か所	
姿 図	⑥AW ●カバー工法 		⑦AW ●カバー工法 		⑧AW ●カバー工法 		⑨AW ●撤去工法 		⑩AW ●撤去工法 	
見 込	70		70		70		70		70	
仕 上	アルミ(B-2)		アルミ(B-2)		アルミ(B-2)		アルミ(B-2)		アルミ(B-2)	
積子	PaB(ST4+A8+HSLE4)		PaB(ST4+A8+HSLE4)		PaB(ST4+A8+HSLE4)		PaB		PaB	
金 物	付属金物一式 換気プレス 水切り M 額縁取付け2方アングル・結露受け 換気プレス-1本、網戸(外部可動式)		付属金物一式 換気プレス 水切り M 額縁取付け2方アングル・結露受け 換気プレス-1本、網戸(外部可動式)		付属金物一式 水切り SUS-20X40手摺 外部「岡谷市章」デザイン格子 額縁取付け4方アングル		付属金物一式 水切り M SUS-20X40手摺 額縁取付け3方アングル・結露受け		付属金物一式 水切り M SUS-20X40手摺 額縁取付け3方アングル・結露受け	
備考										

管理教室棟・渡り廊下棟 改修建具表											
記号	形式・数量 使用場所		2ヶ所		3ヶ所		1ヶ所				
型 状				※カバー工法				※カバー工法		※撤去工法	
材種・見込	アルミ・70			アルミ・70			アルミ・70				
仕 上	AC (B-2種)、額縁：集成材t=25×85 S0P			AC (B-2種)、額縁：集成材t=25×85 S0P			AC (B-2種)、額縁：集成材t=25×85 S0P				
硝 子	PWC6, 8			PWC6, 8			PWC6, 8				
金 物	水切、戸車、抗ウイルス抗菌部品、付属金物一式			水切、戸車、抗ウイルス抗菌部品、付属金物一式			水切、戸車、付属金物一式				
付 属 品	鍵形式：g、指話防止ストッパー			鍵形式：g、指話防止ストッパー							
備 考											
記号	形式・数量 使用場所		2ヶ所		1ヶ所		1ヶ所		1ヶ所		
				※撤去工法				※撤去工法		※カバー工法	
材種・見込	アルミ・70			アルミ・70			アルミ・180 (70+A40+70)			アルミ・70	
仕 上	AC (B-2種)、額縁：集成材t=25×85 WP			AC (B-2種)、額縁：集成材t=25×85 WP			AC (B-2種)、額縁：集成材t=25×35 WP			AC (B-2種)、額縁：集成材t=25×85 WP	
硝 子	PWC6, 8+A12+LE5、ランマPWC6, 8+A12+LE5			PWC6, 8+A12+LE5			PWC6, 8+A12+LE5、A40、FL8			PWC6, 8+A12+LE5	
金 物	水切、戸車、テラス戸部：アルミレール、抗ウイルス抗菌部品、付属金物一式			水切、戸車、テラス戸部：アルミレール、抗ウイルス抗菌部品、付属金物一式			水切、戸車、抗ウイルス抗菌部品、付属金物一式			水切、戸車、抗ウイルス抗菌部品、付属金物一式	
付 属 品	鍵形式：g、網戸：O、指話防止ストッパー			鍵形式：g、網戸：O、指話防止ストッパー			鍵形式：g、網戸：O、指話防止ストッパー			鍵形式：g、網戸：O、指話防止ストッパー	
備 考	日射取得型			日射取得型			日射取得型、遮音等級T-2程度			日射取得型	
記号	形式・数量 使用場所		2ヶ所								
				※カバー工法							
材種・見込	アルミ・70										
仕 上	AC (B-2種)、額縁：集成材t=25×85 WP										
硝 子	PWC6, 8+A12+LE5										
金 物	SUS-20X40手摺 (金属工事)、水切、戸車、抗ウイルス抗菌部品、付属金物一式										
付 属 品	鍵形式：g、網戸：O、指話防止ゴム										
備 考	日射取得型										
記号	形式・数量 使用場所		1ヶ所								
				※撤去工法							
材種・見込	スチール・70										
仕 上	DP、外枠：スチールt=1.6曲げ加工 DP、額縁：集成材t=25×85 WP										
硝 子	PWC6, 8+A12+LE5										
金 物	横手摺：SUS-20X40-3段、縦手摺：SUS-40X70、水切、付属金物一式										
付 属 品											
備 考	外部「岡谷市章」デザイン格子：DP色分け 見付100										
凡 例	撤去建具 改修建具 新設建具		FD 令第109条の2に適合する 防火設備 (常時閉鎖) 令第112条第1項に適合する 特定防火設備 (常時閉鎖・常時開放) ※常時開放の場合は感知器連動式とする	SD 鋼製戸 SW 鋼製窓 LD 鋼製軽量戸 LHD 鋼製軽量吊戸 (自閉式) SP 鋼製学校間仕切 WP 木製学校間仕切 SS 重畳シャッター	FSS 防火重畳シャッター AD アルミ製戸 AW アルミ製窓 AWW アルミ製複合窓 AG アルミ製ガラリ AP アルミ製パージョン TB トイレブース SLW 移動間仕切	FL フロートガラス F 型板ガラス A 熱線吸収70-H ² 3A R 熱線反射ガラス L 強化ガラス B 合わせガラス	D 複層ガラス GB ガラスブロック PWC 網入透明ガラス (防火設備) PWL 網入透明ガラス FTP 耐熱強化ガラス (特定防火設備) PB 6 ² リキ6 ² 3 ² ド系合成樹脂板	LE Low-Eガラス HSL-E 倍強度Low-E ² 3A ST 学校用強化ガラス STF 学校用強化型板ガラス ※複層ガラス (A:空気層)	・防音仕様 PAT：完全エアタイト 2m ² /h・m ² AT：エアタイト 8m ² /h・m ² SAT：セミエアタイト 30m ² /h・m ² ・オベレーター 排塵オベレーターの高さは、FLより800mm以上1500mm以下とする	・サッシュ網戸 O：外部可動式 O (固定)：外部固定式 P：内部可動式 (ブリーツ) P (固定)：内部固定式	※特記なき限り【A-061_建具特記仕様書】による ※ FはF1Xガラスを示す。 ※ 図はアルミサンドイッチパネルを示す。(表面処理は特記無き限りサツに合わせる事) ※ ガラス押えはシール押えとする。 ※ 強化ガラス及び耐熱強化ガラス及びLOW-Eガラスは全て飛散防止フィルム張りとする。



代表：株式会社エーシー工設計
一級建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一級建築士登録
第 307544 号 海瀬務

検査者 湯本桂司

担当 平林

担当 小林

Job No. 24078

工事名

岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

発行日 2025.09.30

図面名称

【渡り廊下接続部】
建具表
(改修後)

縮尺 A1:1/50,A3:1/100

KA-019

入札用
25.09.30

修正箇所は下線を引くこと。
適用は ■ 印を記入する。

構造設計特記仕様（2）

修正箇所は下線を引くこと。
適用は ■ 印を記入する。

8. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS 5による

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS 5 に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9.1に示す様に設計基準強度が 36N/mm²以下のコンクリートについては JASS5 の3節～11節を適用し、 36N/mm²を超えるコンクリートについては JASS 5 の17節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める調合管理強度以上とし、発注するレディミクストコンクリートの呼び強度が表9.2に示す JIS規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。
軽量コンクリートについては JASS 5 の14節によること。

表9.1 コンクリート圧縮強度（N/mm ² ）に応じた仕様書の使い分け															
設計基準強度 F_c	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS 5 の区分	普通コンクリート								高強度コンクリート						

表9.2 レディミクストコンクリートのJIS規格品															
調合管理強度（N/mm ² ）	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
呼び強度（JIS規格品）	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※

※印は規格外

(b) 品質と施工

- 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記がない場合は標準とする。
 - ☐ 短期 ☒ 標準 ☐ 長期 ☐ 超長期
- コンクリートは JIS A 5308（レディミクストコンクリート）に適合するJIS認証工場の製品とする。
- ☐ 設計基準強度が 36N/mm²を超えるコンクリートを扱うレディミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているか、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。
- レディミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。
- 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、施工計画、品質管理計画書を作成し、工事監督者の承認を得ること。
- フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、設計基準強度が 36N/mm²以下 33N/mm²以上の場合スランプ21cm以下、 33N/mm²未満の場合スランプ18cm以下とし設計基準強度が 36N/mm²超 45N/mm²未満の場合はスランプ21cm以下またはスランプフロー50cm以下、設計基準強度が 45N/mm²以上の場合はスランプ23cm以下またはスランプフロー60cm以下とし、特記による。
- コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として 0.3kg/m³以下とする。
- コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として120分（外気温が25℃を超える場合は90分）を限度とする。
- コンクリートの打込み時の自由落下の高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。
- 打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。
- 打込み後の湿潤養生の期間は、セメントの種類および設計基準強度に応じて5日以上とする。

(c) 調合および構造体コンクリート強度

- i) 高強度コンクリート
 - ☐ 調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は、28日とする。
 - ☐ 構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記のない場合は、91日とする。
 - ☐ 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。
 - ① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。
 - ② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に 3N/mm²を加えた値以上とする。
 - ☐ 調合管理強度は、以下による。
$$\mu F_m = F_c + mS_m \quad (N/mm^2)$$
$$\mu F_m$$
：高強度コンクリートの調合管理強度（N/mm²）
$$F_c$$
：コンクリートの設計基準強度（N/mm²）
$$mS_m$$
：高強度コンクリートの構造体強度補正値で JASS 5 による。
 - ☐ 調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。
$$\mu F \geq \mu F_m + 1.73 \sigma_m \quad (N/mm^2)$$
$$\mu F \geq 0.85\mu F_m + 3\sigma_m \quad (N/mm^2)$$
$$\mu F$$
：高強度コンクリートの調合強度（N/mm²）
$$\sigma_m$$
：高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差（N/mm²）でレディミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、0.1（ $F_c + mS_m$ ）とする。

ii) 普通コンクリート

- 調合を定めるための基準とする材齢は、原則として28日とする。
- 構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3 構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準		
供試体の養生方法	試験材齢 ⁽¹⁾	判定基準
標準養生 ⁽²⁾	28日	$X \geq F_m$
コ ア	91日	$X \geq F_q$

ただし、X：1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値（N/mm²）
 F_m ：コンクリートの調合管理強度（N/mm²）
 F_q ：コンクリートの品質基準強度（N/mm²）

[注] (1) 早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。
(2) 工事監督者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光および風が直接あたらない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

- ※ 標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3N/mm²を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。
- ※ コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場対かん養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3N/mm²を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。
- 調合管理強度は以下による。
$$F_m = F_q + mS_m \quad (N/mm^2)$$
$$F_m$$
：コンクリートの調合管理強度（N/mm²）
$$F_q$$
：コンクリートの品質基準強度（N/mm²）
$$mS_m$$
：標準養生した供試体の材齢m日における圧縮強度と構造体コンクリートのn日における圧縮強度の差による構造体強度補正値（N/mm²）

- 調合強度は標準養生した供試体の材齢m日における圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢m日は、原則として28日とする。
$$F \geq F_m + 1.73 \sigma \quad (N/mm^2)$$
$$F \geq 0.85 F_m + 3\sigma \quad (N/mm^2)$$
$$F$$
：コンクリートの調合管理強度（N/mm²）
$$\sigma$$
：使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差（N/mm²）で、レディミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、 2.5N/mm²、または、0.1 F_m の大きい方の値とする。

(d) 検査

- フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事記録で（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監督者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
- スランプの許容差は、普通コンクリートの場合、スランプが18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm（呼び強度27以上で高性能AE減水剤を使用する場合は±2cm）とする。高強度コンクリートの場合は、スランプが18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが50cm以下の時は、±7.5cm、50cmを超える時は±10cmとする。
- 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢28日で行い、1回の試験は打込み区ごと、打込み日ごと、かつ、150m³またはその端数ごとに3個の供試体を用いて行う。3回の試験で1検査ロットを構成する。高強度コンクリートでは、打込み日かつ300m³ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける試験回数は3回とする。検査は適当な間隔をあけた任意の3台のトラックアジテータから採取した合計9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。
- 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み区ごと、打込み日ごと、かつ 150m³またはその端数ごとに1回行う。1回の試験には適当な間隔をおいた3台の運搬車から1個ずつ採取した合計3個の供試体を用いる。高強度コンクリートでは、打込み日、打込み区かつ300m³ごとに行う。検査には適当な間隔をあけた任意の3台のトラックアジテータから採取した合計9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。
- 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、JASS 5 による。構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、（c）調合および構造体コンクリート強度による。
- ☐ コンクリートの試験は、「建築物の工事における試験および検査に関する東京都取組要綱」第4条の試験機関で行うこと。

試験・検査機関名	（都知事登録	号）
代行業者名	（登録番号	号）
代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。		

(2) 鉄 筋

(a) 施工

- 鉄筋は JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551（溶接金網および鉄筋格子）に適合するものを用いる。
- ☐ 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。
- 鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）～（3）」による。
- 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4 鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径	使用箇所
	(1) 引張り最小部位	(2) (1) 以外の部位 ^(a)				
		A 級	B 級	SA級		
■ 重ね継手	標準図による				■ D (16) 以下	
■ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号	☐			■ D (19) 以上	
☐ 溶接継手	☐ 告示1463号第3項各号	☐	☐		☐ D () 以上	
☐ 機械式継手	☐ 告示1463号第4項各号	☐	☐	☐	☐ D () 以上	

注) (1) 以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋協会・日本建築センター等の認定、認定等を得た継手工法の等級で、構造計算にあわせて鉄筋継手使用基準(建築関係の構造関係省令第2007) によって検討した部材の条件・仕様によること。

注）（1）以外部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書2007）』によって検討した部材の条件・仕様によること。

- 機械式継手および圧接継手および溶接継手は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監督者の承認を受ける。
- ガス圧接の施工は、強風時または降雨時に原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監督者の承認を得て作業を行うことができる。
- 圧接技量資格者は、（公社）日本鉄筋継手協会によって認証された技量適格性証明書で工事監督者に提出し、承認を受ける。
- ☐ 機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

継手部の検査方法
各継手工法ごとの検査は平12建造1463号による他、具体的な検査方法は、（公社）日本鉄筋継手協会の仕様書を参照のこと。

表9.5 継手の検査

	継手方法	外観検査	引 張 試 験			超音波探傷試験		
1	ガス圧接	■ 有	100%	☐ 有	■ 無	%	個	■ 有 ☐ 無 1ロットにつき30ヶ所
2	溶 接	☐ 有	%	☐ 有 ☐ 無	%	%	個	☐ 有 ☐ 無 % 個
3	機 械 式	☐ 有	%	☐ 有	☐ 無	%	個	☐ 有 ☐ 無 % 個

ガス圧接部分の検査は超音波探傷検査によって行う場合、最初の数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は5本以上とする。（1ロットは同一作業班が同一作業中に作業した圧接箇所で、200箇所程度とする。）

- ☐ 鉄筋に継手の試験・検査は「要綱」第4条の試験機関、又は第8条の検査機関で行うこと。

試験・検査機関名	（都知事登録	号）
----------	--------	----

(3) かぶり厚さ

- 最小かぶり厚さは、表9.6に規定する設計かぶり厚さを10mm減じた値とする。
- 設計かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9.6以上の値とする。

表9.6 設計かぶり厚さ（単位：mm）

構造体の計画供用期間の級		標準・長期		超長期	
部材の種類		屋 内	屋 外 ⁽²⁾	屋 内	屋 外 ⁽²⁾
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材 ⁽¹⁾	30	40	(30)	(40)
直接土に接する柱・梁・壁・床および布基礎の立上り部分、擁壁の壁部分		50			
基礎、擁壁の基礎・底盤		70			
注）（１）計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。					
（２）計画供用期間の級が標準、長期、及び超長期で、耐久性上有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを10mm減じることができ。					

- 完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
- コンクリート構造体に誤差目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施行令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水および耐久性上有効な措置を講じれば上記によらなくても良い。

(4) 型 枠

- 型枠および支保工の存置期間は、昭63年建造第1655号に基づき下表による。

表9.7 型枠存置日数 昭和46年建設省告示第110号（昭和63年改正建設省告示1655号）								
種別 部位	セメントの種類	せ き 板				支 柱		
		基礎、梁側、柱、壁	スラブ下、梁下		スラブ下		梁下	
セメントの種類	早強ボルト ランドセメント	普通ボルト ランドセメント	早強ボルト ランドセメント	普通ボルト ランドセメント	早強ボルト ランドセメント	普通ボルト ランドセメント	早強ボルト ランドセメント	普通ボルト ランドセメント
		高炉セメント A種		高炉セメント A種		高炉セメント A種		普通ボルト ランドセメント
		シリカセメント A種		シリカセメント A種		シリカセメント A種		高炉セメント ランドセメント
								シリカセメント A種
存置期間 の平均気温								
コンクリートの 材令 (日)	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	18	15	28	28
コンクリートの 圧縮強度	※ 5.0N/mm ²		設計基準強度の50%			下記（1）参照		下記（2）参照
（1）圧縮強度が設計基準強度（F_c）の85%以上又は12 N/mm²以上であり、かつ、施工中の高重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。 （2）圧縮強度が設計基準強度以上であり、かつ、施工中の高重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。 ※ JASS 5 では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあっては 5.0N/mm²以上、長期及び超長期の場合は 10N/mm²以上、また高強度コンクリートの場合は 10N/mm²以上。 注1 片持ち梁、庇、スパン9.0m以上の梁下は、工事監督者の承認による。 注2 大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。 注3 支柱の盛替えは、必ず直上層のコンクリート打ち後とする。 注4 盛替え後の支柱頂部には、厚い受皿、角材またはこれに代わるものを置く。 注5 支柱の盛替えは、小梁が終わってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えをしてはならない。 注6 直上層に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛替えを行わないこと。 注7 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。								

9. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監督者に報告すること。
- 必要に応じて記録写真を掲り保管すること。
- 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書・同指針（建築工事編）」（最新版）」による。



代表：株式会社エーシーエー設計
一般建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一級建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一般建築士登録 第222108号
構造設計一級建築士登録 第1975号
小林好樹

検査者 湯本桂司

担当 小林

担当 米山

Job No. 24078
工事名

岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

発行日 2025.09.30
図面名称

構造設計特記仕様（2）

縮尺 -

S-002 入札用
25.09.30

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

※修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

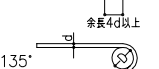
(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

d…異形鉄筋の呼び名に用いた数値 (径) D…部材の成、又は鉄筋内法直径
◎…間隔 r…半径 CL…中心線 lo…部材間の内法距離 ho…部材間の内法高さ
ST…あばら筋 HOOP…帯筋 S.HOOP…補強帯筋

2. 鉄筋加工

(1) 鉄筋の折り曲げ加工

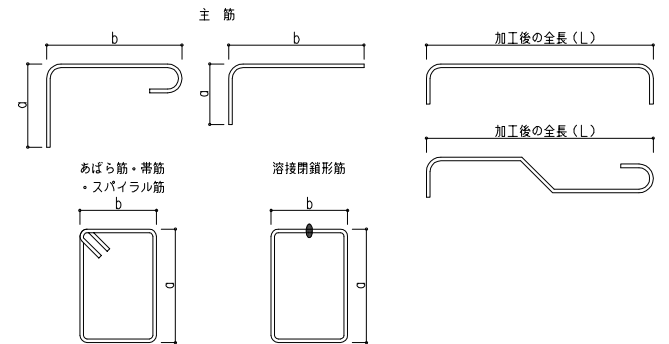
図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
	135°		D19~D41	4d以上
	90°	SD390	D41以下	5d以上
		SD490	D25以下	5d以上
			D29~D41	6d以上

- 【注】(1) dは呼び名に用いた数値とする。
(2) スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。
(3) 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
(4) スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。
(5) 折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障のないことを確認した上で、工事監理者の承認を得ること。
(6) SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障のないことを確認した上で、工事監理者の承認を得ること。

(2) 加工寸法の許容差

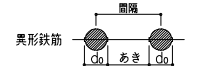
項	目	符 号	許 容 差
各加工寸法 ⁽¹⁾	主 筋	D25以下	a, b
		D29以上D41以下	a, b
		あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b
加 工 後 の 全 長		L	± 20

【注】(1) 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



(3) 鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値

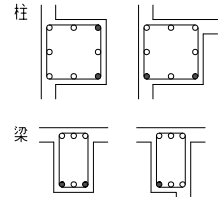


(4) 鉄筋のフック

a~eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

- a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋
b. 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
c. 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分および下層の両端にある場合の鉄筋(右図参照)
d. 単純梁の下端筋
e. その他、本配筋標準に記載する箇所

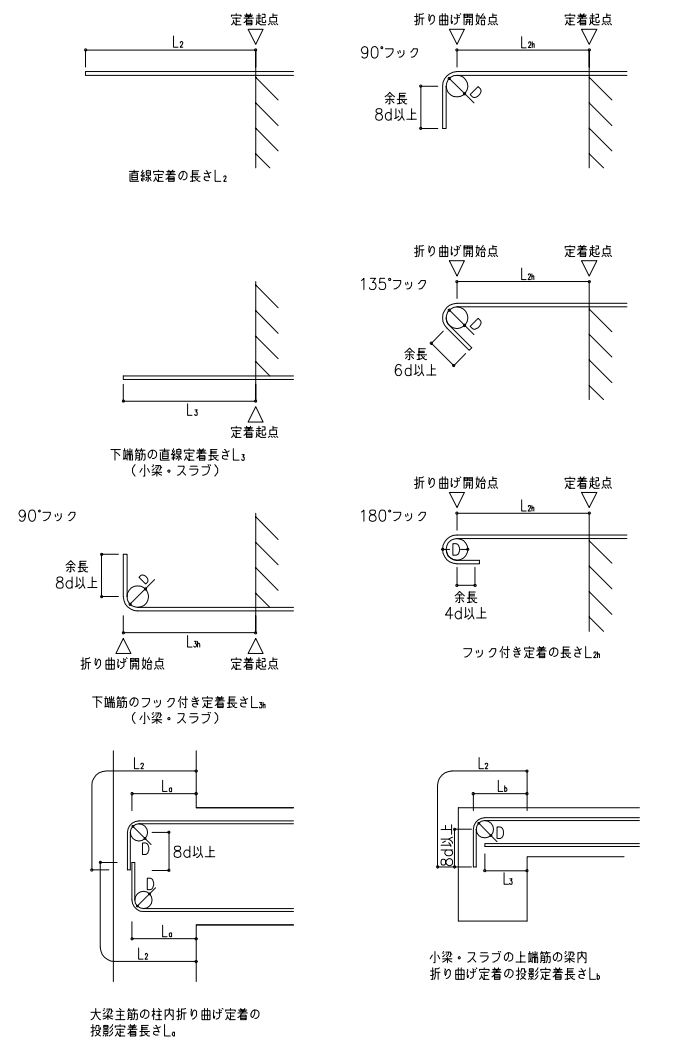
図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



(5) 定着長さ

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度Fc(N/mm²)	定 着 の 長 さ						
		一 般				小梁下端筋		スラブ下端筋
		L ₂ (フックなし)	L _{2a} (フックあり)	L ₂ (3)	L _b	L ₃ (フックなし)	L _{3a} (フックあり)	L ₃ (フックなし)
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24~27	30d	20d	15d	15d			
	30~36	30d	20d	15d	15d			
	39~45	25d	15d	15d	15d			
	48~60	25d	15d	15d	15d			
	18	40d	30d	20d	20d			
	21	35d	25d	20d	20d			
SD345	24~27	35d	25d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	30~36	30d	20d	15d	15d			
	39~45	30d	20d	15d	15d			
	48~60	25d	15d	15d	15d			
	21	40d	30d	20d	20d			
	24~27	40d	30d	20d	20d			
	30~36	35d	25d	20d	15d			
	39~45	35d	25d	15d	15d			
SD390	48~60	30d	20d	15d	15d	—	—	—
	21	40d	30d	20d	20d			
	24~27	40d	30d	20d	20d			
	30~36	35d	25d	20d	15d			
	39~45	35d	25d	15d	15d			
	48~60	30d	20d	15d	15d			
	24~27	45d	35d	25d	—			
	30~36	40d	30d	25d	—			
SD490	39~45	40d	30d	20d	—			
	48~60	35d	25d	20d	—			

- 【注】(1) フック付き鉄筋の定着長さL_{2a}は、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
(2) フック部の折り曲げ内法直線D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
(3) 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL_{2a}確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL₂以上とするとともに、水平投影長さをL₂以上とし、余長を8d以上とする。尚、L₂の値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。
(4) 耐圧スラブの下端筋の定着長は一般定着L₂とする。



(6) 継手

■ 重ね継手

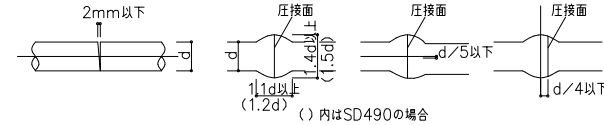
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度Fc(N/mm²)	重ね継手長さ	
		L ₁ (フックなし)	L _{1a} (フックあり)
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24~27	35d	25d
	30~36	35d	25d
	39~45	30d	20d
	48~60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24~27	40d	30d
	30~36	35d	25d
	39~45	35d	25d
	48~60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24~27	45d	35d
	30~36	40d	30d
	39~45	40d	30d
	48~60	35d	25d
	48~60	40d	30d
SD490	24~27	55d	40d
	30~36	50d	35d
	39~45	45d	35d
	48~60	40d	30d

- 【注】(1) 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
(2) 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。
(3) フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

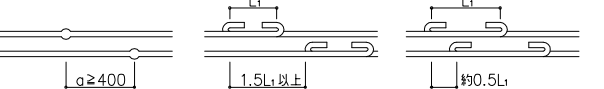
■ 継手に関する注意点

- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
- 鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
- ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状(平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの)



・圧接継手



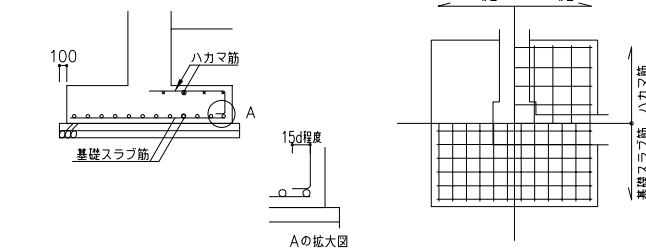
- 溶接継手および機械式継手を用いる場合は信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。
- 非破壊検査は工事監理者が承認した信頼できる検査機関で行うこと。

3. 杭・基礎

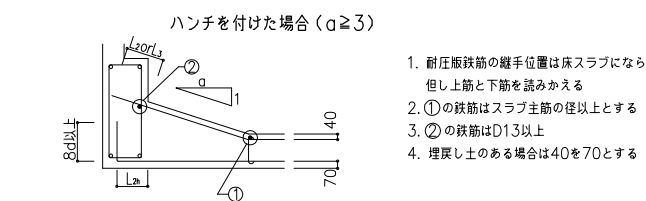
(配筋については地震力等の水平力を考慮して別途検討すること)

(1) 直接基礎

①独立基礎



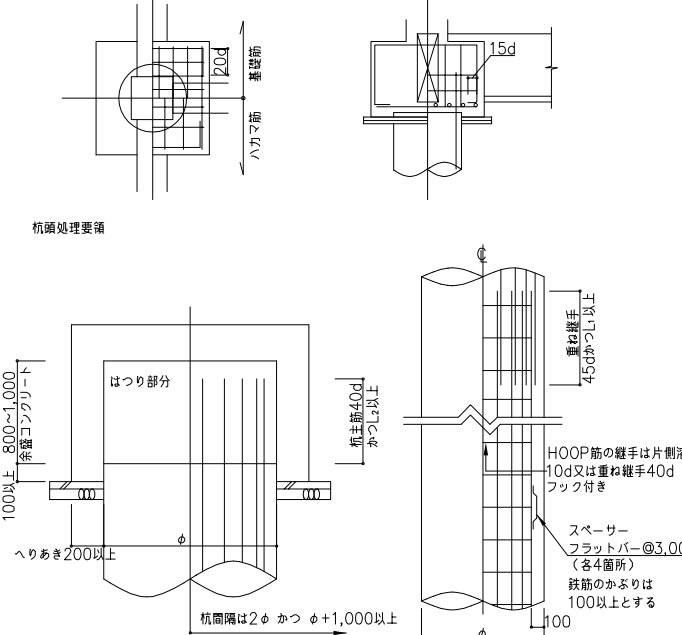
②べた基礎



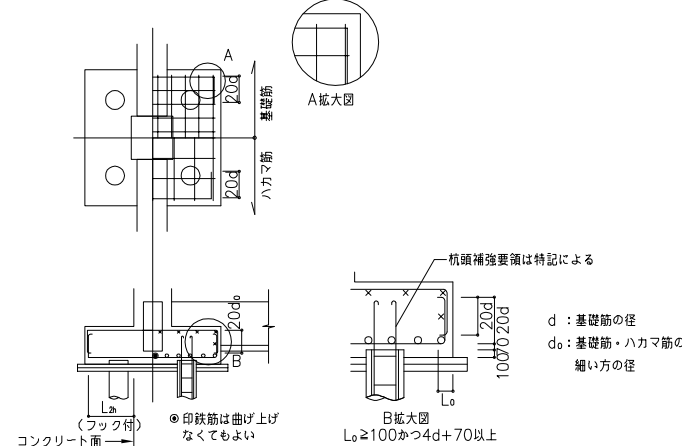
- 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう但し上筋と下筋を読みかえる
- ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
- ②の鉄筋はD13以上
- 埋戻し土のある場合は40を70とする

(2) 杭基礎

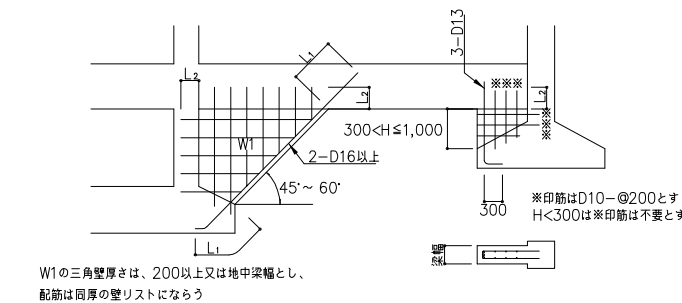
①場所打ち杭



②PHC杭



(3) 基礎接合部の補強



W1の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、配筋は同厚の壁リストにならう

代表：株式会社エー・シー・設計
一般建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一級建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一級建築士登録 第222108号
構造設計一級建築士登録 第1975号
小林好樹

検査者 湯本桂司

担当 小林

担当 米山

Job No. 24078
工事名

岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

発行日 2025.09.30
図面名称

鉄筋コンクリート構造
配筋標準図 (1)

縮尺 -

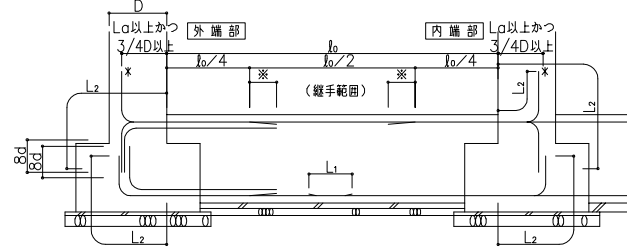
S-003

入札用
25.09.30

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2) ※修正箇所は下線を引くこと

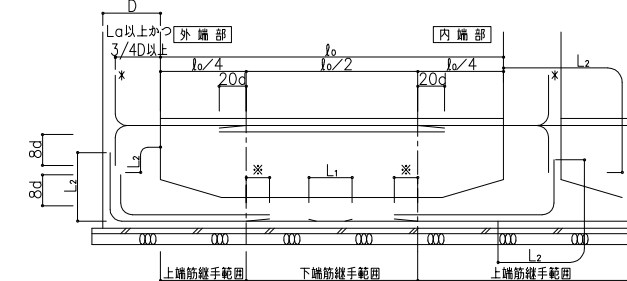
4. 基礎梁

- (1) 定着、継手
- 独立基礎、杭基礎の場合
□ 長期荷重が支配的な場合の継手は6.(2) 大梁継手位置とする



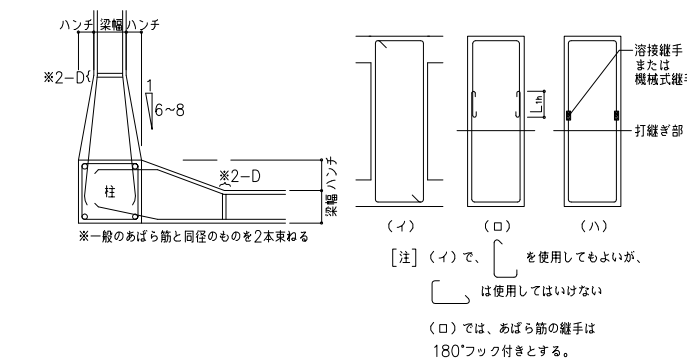
※主筋のカットオフ長さは $l_o/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による

□ 布基礎、べた基礎の場合

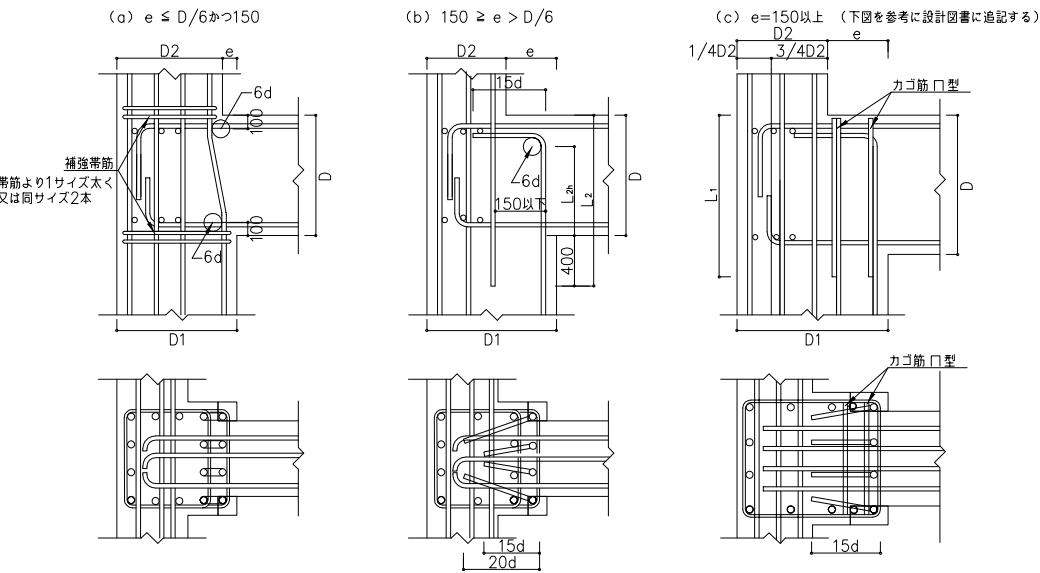


※主筋のカットオフ長さは $l_o/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による

- (2) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領 (3) せいの高い梁のあばら筋加工要領図

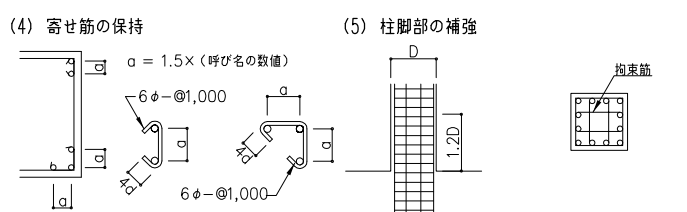
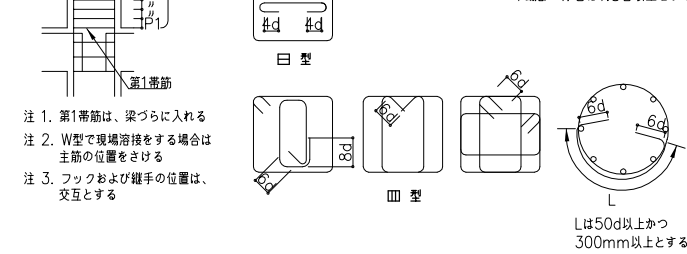
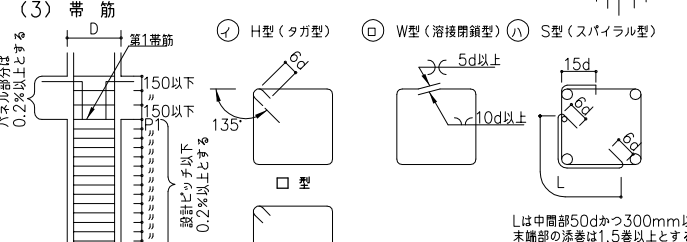
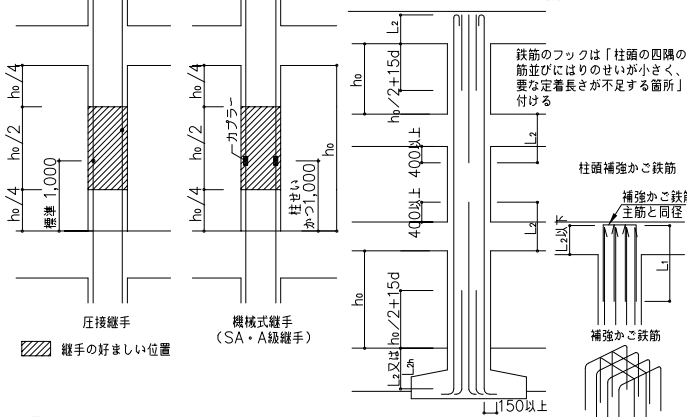


(6) 絞リ



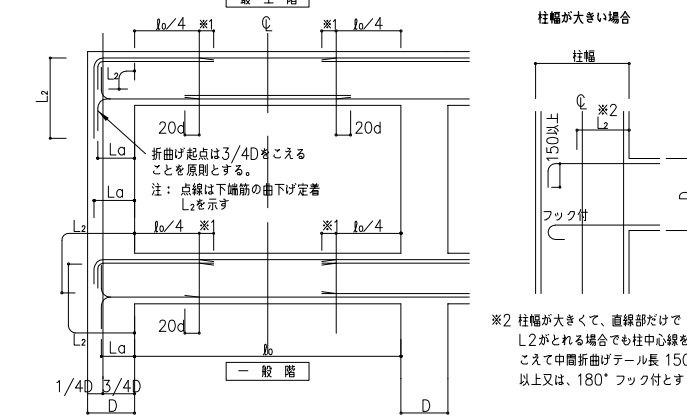
5. 柱

- (1) 柱主筋の継手位置 (2) 柱主筋の定着



6. 大梁

- (1) 定着
① 一般



※1 主筋のカットオフ長さは $l_o/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は表6-1による

- ② ハンチがある場合

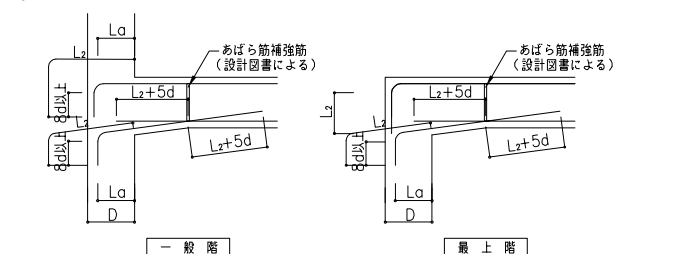
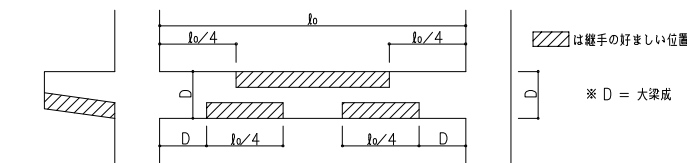
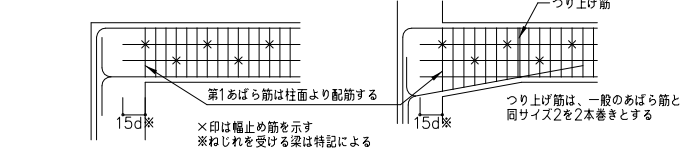


表6-1 特別なカットオフ長さを要する部材 (mm)			
部 材 名	$l_o/4$ に加える長さ	部 材 名	$l_o/4$ に加える長さ

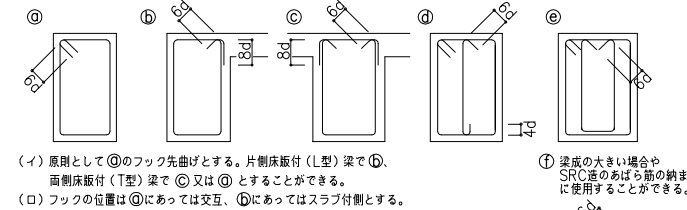
- (2) 大梁主筋の継手 (SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による)



- (3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置



- (4) あばら筋の型 (注、床版がない場合は135°以上のフックとする)

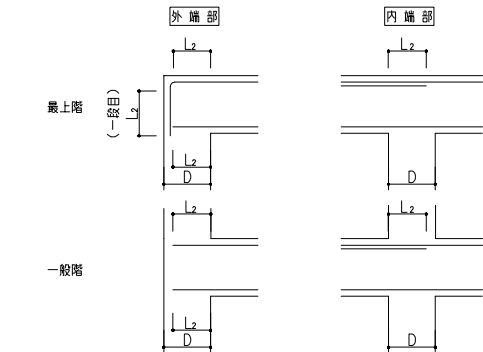


- (5) 幅止め筋の本数、加工

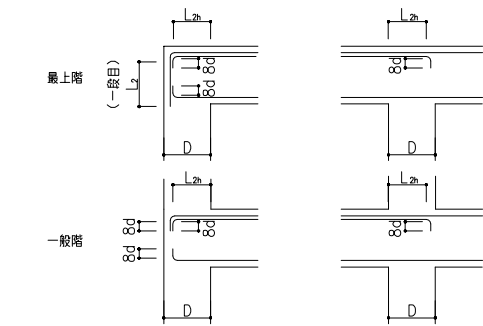
腹 筋	D<600 不要	
	600≤D<900	2-D10 1段
幅止め筋	900≤D<1,200	4-D10 2段
	1,200≤D	D10@300以内
幅止め筋	1,200以上	D13@300以内
	D10@1,000以内で割り付ける	

- (6) 梁主筋の定着

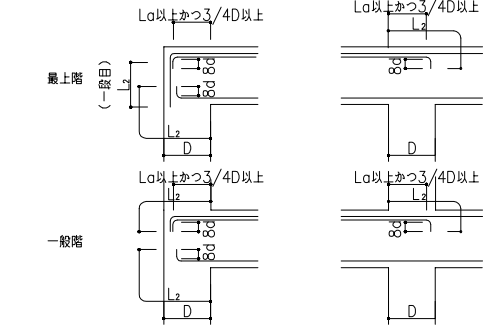
- ① 直線定着



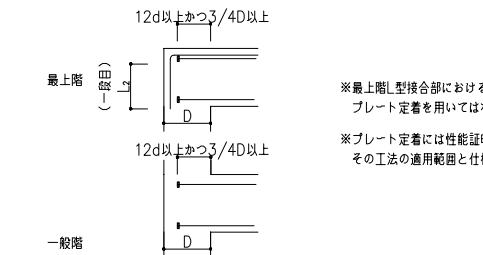
- ② 90°フック付き直線定着



- ③ 折曲げ定着



- ④ プレート定着

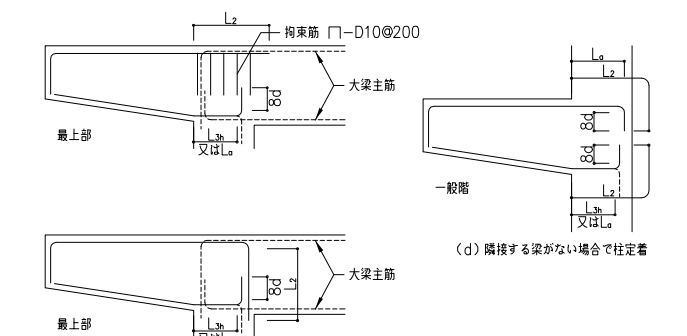
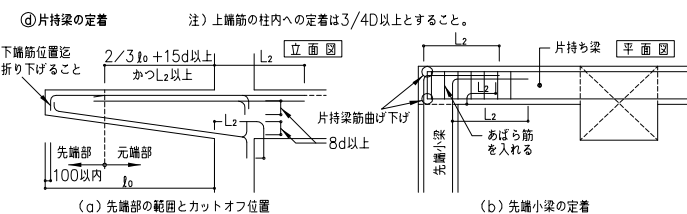
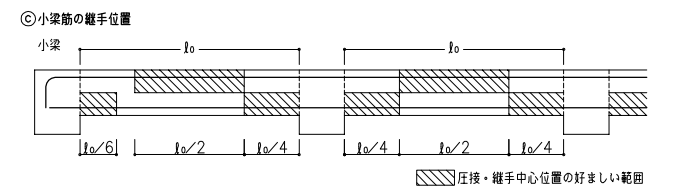
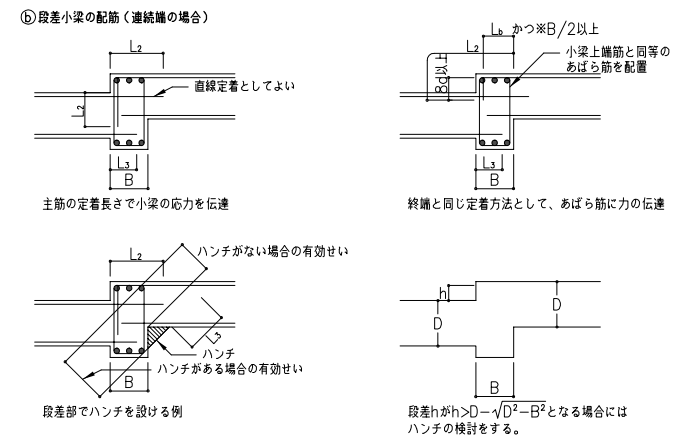
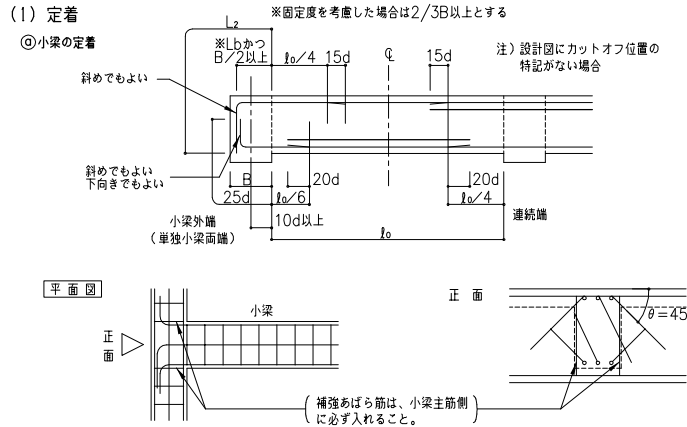


※最上階L型接合部における上端筋の一段目の定着にプレート定着を用いてはならない
※プレート定着には性能証明等を取付した材料を用い、その工法の適用範囲と仕様を確認する。

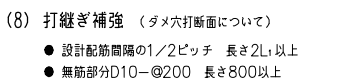
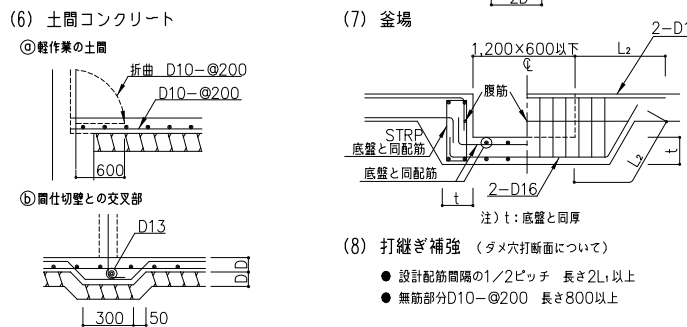
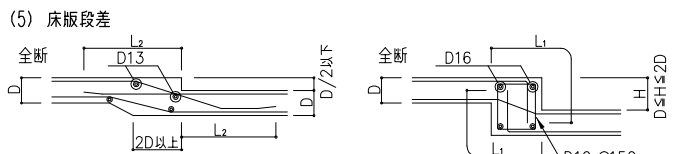
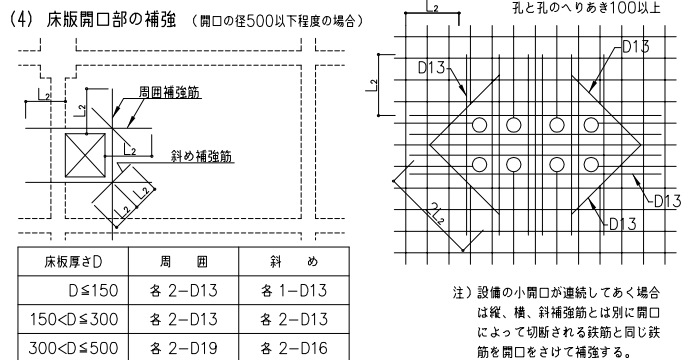
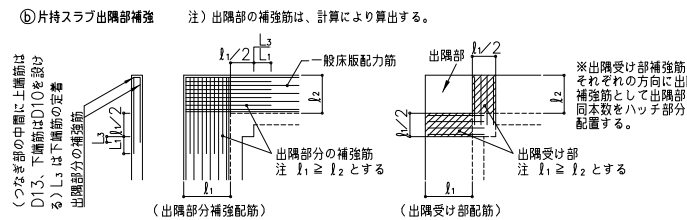
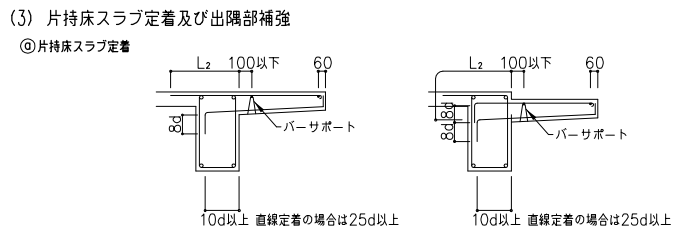
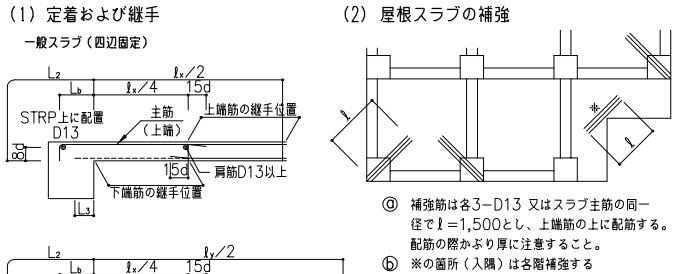
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3)

※修正箇所は下線を引くこと

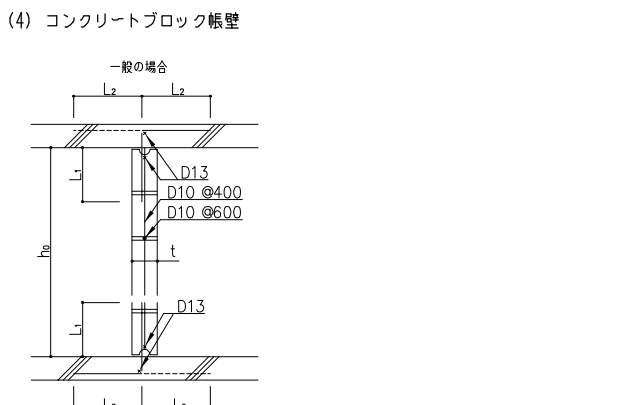
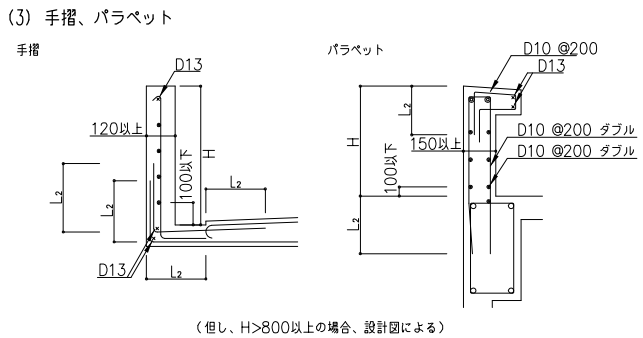
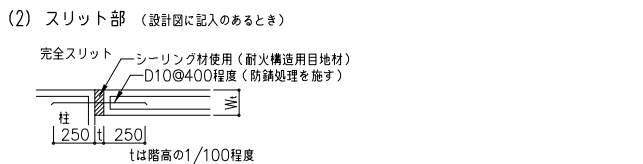
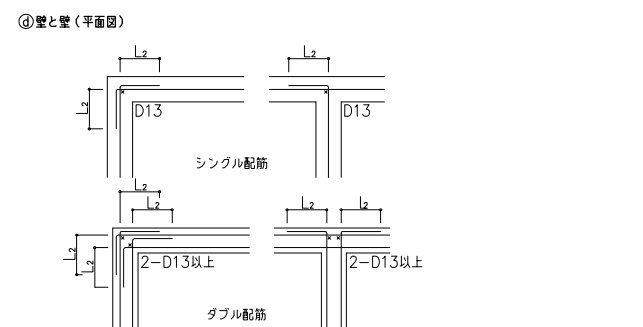
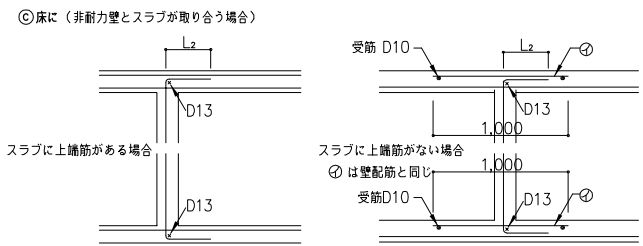
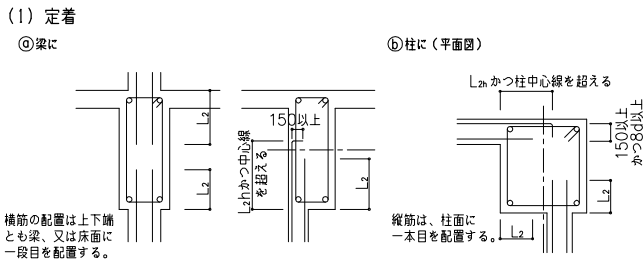
7. 小梁、片持梁



8. 床版

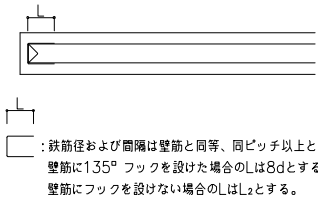


9. 壁

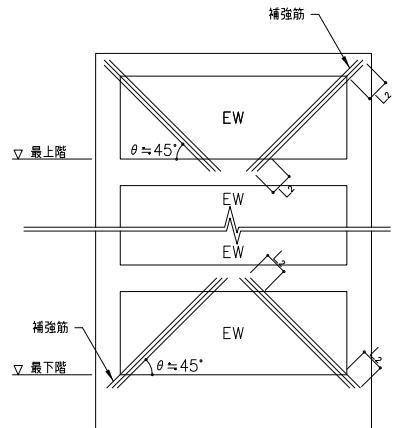


注) $h_0 \leq 25t$ かつ 3,500 以下とする。但し直交方向 25t 以内に壁、又は柱がある場合は除く
注) 継手部は必ずモルタルを充填すること

(5) 耐震壁端部の納まり

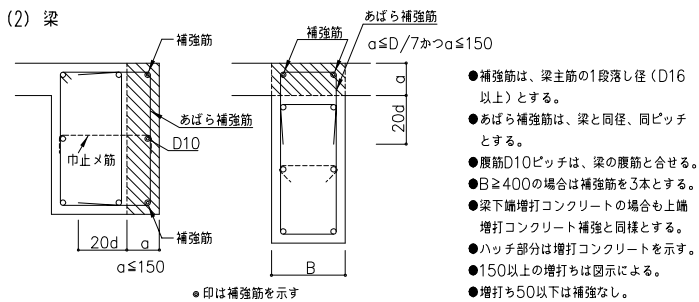
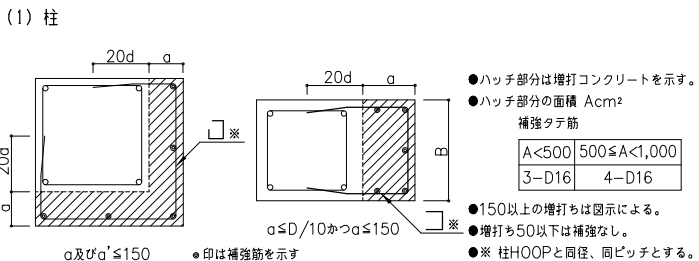


(6) 連層耐震壁乾燥収縮の補強筋

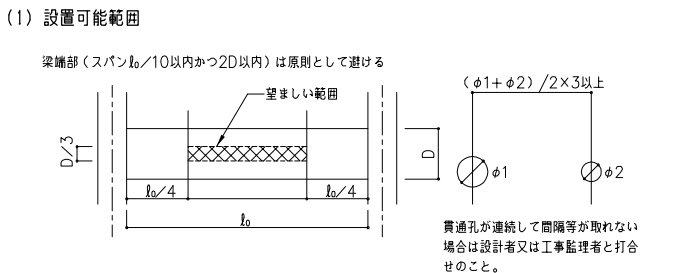


注) 補強筋はEW150の場合3-D13@100シングル
EW180~200の場合4-D13@100シングル
EW250以上の場合4-D16@100ダブルとする。

10. 柱、梁増打コンクリート補強 (増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと)



11. 梁貫通孔補強 (開口補強については計算により確認すること)



(2) 既製品 (指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合せのこと)

■製品名 未定
施工前に計算書を提出し、承認を得ること。
設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (4)

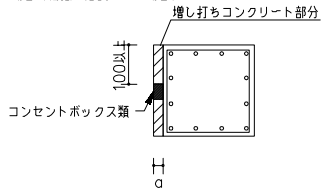
※修正箇所は下線を引くこと

1. 柱への打込み

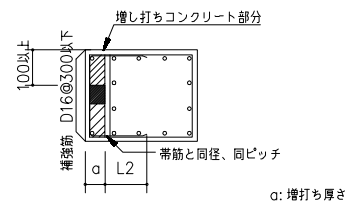
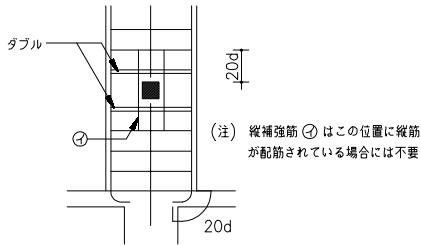
(a) 柱にコンセントボックスを配置する場合

- 正規の柱断面内には原則としてコンセントボックス類を埋め込んではいならない。
- 正規の柱断面内にボックスを埋め込む場合は下記による。

1) $\alpha < 70$ の場合 (補強の必要がない場合)

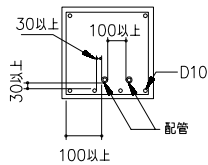


2) $70 \leq \alpha \leq 200$ の場合 (補強が必要な場合)



(b) 柱に配管を埋め込む場合

- 使用する外径は $\phi 31$ 以下とする。
 - 柱内の水平方向の配管は行わない。
 - 縦軸方向の配管
- 柱主筋及び、鉄骨より 30mm 以上離す。
 - 配管は 4 本を原則とし、帯筋内に配管し、蛇行しないように帯筋に 1m 以内毎に結束する。又、配管の間隔は 100mm 以上とする。
 - 配管は柱側面より 100mm 以上離して配置する。

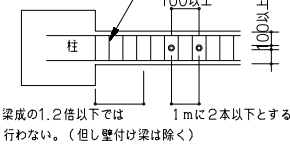


2. 梁への打込み

(a) 梁にはコンセントボックス類を埋め込んではいならない

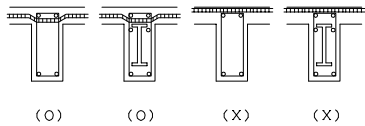
(b) 梁に配管を埋め込む場合

- 使用する外径は $\phi 31$ 以下とする。
 - 梁材軸方向の配管は原則として行わない。
 - 梁の幅方向の配管、鉛直方向の配管
- 梁への配管は、ピッチを 100mm 以上とし、1m 幅では 2 本を限度とする。又、壁付きでない梁は、柱面より梁成の 1.2 倍以内では行わない。

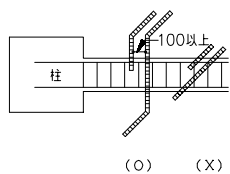


1) 梁の幅方向の配管

イ) 配管は梁筋の内側に通す



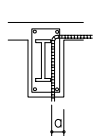
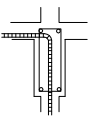
ロ) 配管は、材料とほぼ直角に貫通させる



2) 梁の垂直方向の配管

イ) 主筋の内側で行う

ロ) SRC 梁の場合

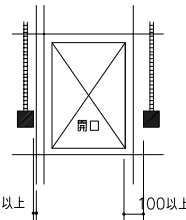


α寸法が 150mm 未満の場合は配管してはならない

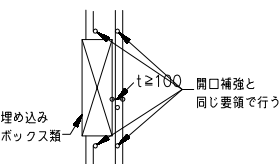
3. 壁への打込み

(a) 壁にコンセントボックスを埋め込む場合

- 耐震壁にはボックスを埋め込んではいならない。
- 埋め込みボックス類は 3 個用スイッチボックスまでとする。
- 上記を超える埋め込みボックス類は開口として補強を行う。
- 躯体開口の淵から埋め込みボックスの淵まで 100mm 以上かつ補強筋より 40mm 以上離す。



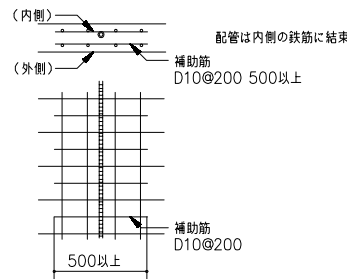
■ 縦・横寸法が、200mm を超え 500mm 以下の埋め込みボックス類の補強



(注) $t < 100$ mm の場合は開口部補強として扱う。

(b) 外壁に配管を埋め込む場合

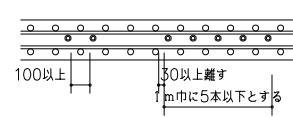
- 地下の外壁 (ドライエリア壁を含む) への埋め込み配管は接地用配管を除き原則として行わない。
 - 地上の外壁には原則として配管は行わない。
- ただし、やむを得ず埋め込む場合は構造設計者に確認し下記の補強を行う。埋め込み配管の外径は 23φ 以下とする。



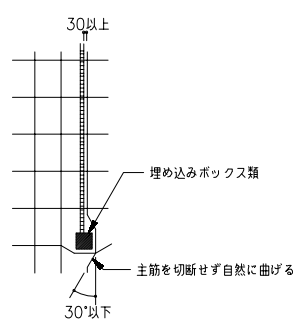
(c) 壁に配管を埋め込む場合

- 前震壁には配管を埋め込んではいならない。
- 壁内に配管を埋め込む場合はダブル配筋とし、壁筋の内側に配管する。
- 配管は 1m 幅に 5 本までとし、ピッチは 100mm 以上とする。

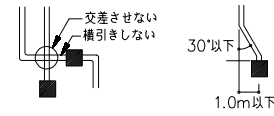
配管は、壁縦筋より 30mm ピッチ以上離す



- 配管は壁内で蛇行しないように 1m 以上毎に離して結束する。
- 埋め込みボックス類からの配管は、曲りコネクターを設けて壁のすぐ内側に配管する。
- ボックス類の埋め込みのために壁主筋を切断しない。



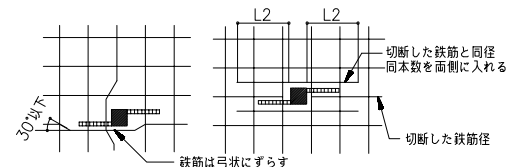
- 横引配管及び、交差は行わない。ただし、垂直面と 30° 以下の勾配をもつ横引きは、1m 以下とする。



4. スラブへの打込み

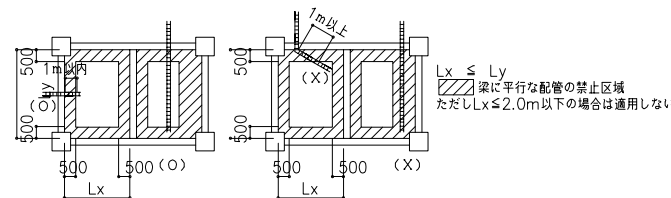
(a) スラブにコンセントボックス類を埋め込む場合

- フローアボックス間隔は 300mm 以上。
- フローアボックスがスラブ筋にあたる場合は、スラブ筋を切断せずにずらす。やむをえず切断した場合は下記の補強を行う。

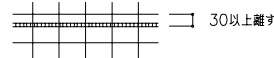


(b) スラブに配管を埋め込む場合

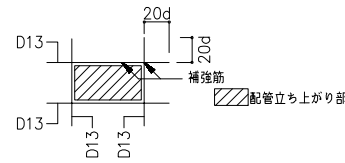
- 屋根スラブ、防水を行うスラブ及び片持ちスラブには原則として配管は行わない。
- 合成スラブ内に配管を埋め込む場合は、「合成スラブ設計・施工マニュアル」による。
- 配管が 2 本以上並行する場合は空きを 60mm 以上とし 1m 幅に 5 本以下とする。
- 厚さ 180mm 未満のスラブ内では配管の交差は行わない。
- 配管の外径は 31φ 以下までとする。
- 下図に記す梁面から 500mm 以内の範囲では梁の材軸に平行な配管を行わない。
- 下図に記す梁面から 500mm 以内の範囲では 1m 以上の配管を行わない。



- スラブ筋と並行する場合は、鉄筋より 30mm 以上離す。

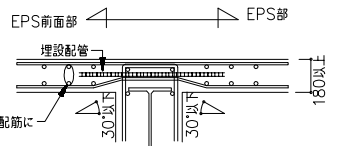
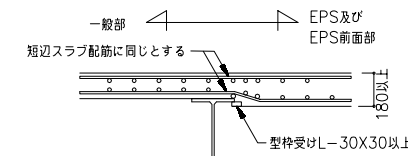


- EPS のスラブ厚 (厚さ 180mm 以上) 内での配管集中部分 (立上がり部を含む) での配管相互のあきは 30mm 以上とする。また配管立上がり部位は下記の補強を行う。

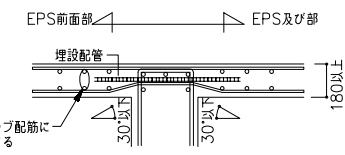
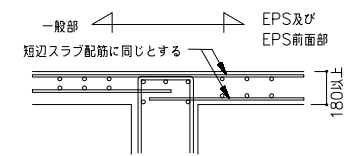


(c) 上記の制限を満足できない場合は、スラブ埋設以外の方法を採用すること

- S 造及び SRC 造の場合



- RC 造の場合



(注) スラブ筋の曲げ角度は 30° 以下とする

鉄骨構造標準図 (1)

※修正箇所は下線を引くこと。

1. 一般事項

(1) 材料及び検査

- (a) 構造設計特記仕様その1による。
(b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする。
但し、ベースプレートの厚さは除く。
(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の結果を添付する。

(2) 作業一般

- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監督者の承認を得る。
(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
(c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。

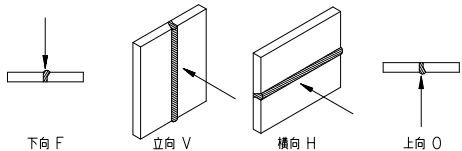
(3) 高力ボルト接合

- (a) 本締めを使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
(b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリティブラストによる処理で表面粗さが50μmRz以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。但し、ベースプレートの厚さは除く。
(c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締め付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

(4) 溶接接合

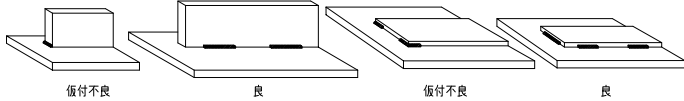
- (a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
(b) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適用する JIS Z 3801 (手溶接) 又は JIS Z 3841 (半自動溶接) の溶接技術検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする。
(c) 溶接機器
(イ) 交流アーク溶接機 300A~500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ロ) アークエアガウジング機 (直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計
(ハ) サブマージアーク溶接機一式 (ヘ) 溶接棒乾燥機

- (d) 溶接方法
アーク手溶接 (MC) ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)
セルフ (ノンガス) シールドアーク半自動溶接 (NGC) アークエアガウジング (AAG)
(e) 溶接姿勢

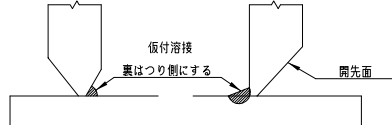


- (f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。

- (イ) 仮付位置
組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い面所は避ける。

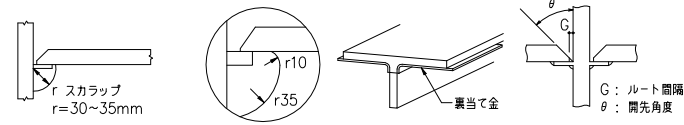


- (ロ) 完全溶け込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。



(g) 溶接施工

- (イ) エンドタブ
1) 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同隅先形状のエンドタブを取り付ける
2) エンドタブの材質は母材と同質とする。
3) エンドタブの長さは、MC: 35mm以上 NGC、GC: 40mm
以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする。
(ロ) 裏当て金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。
但し、溶接性能が確保できれば監督者の承認を得て変更することができる。
(ハ) スクラップ半径は30~35mmと10mmのダブルアークとする。
但し梁成がD=150mm未満の場合のスクラップはr=20mmとする。



- (ホ) 裏はつり
規準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、アークエアガウジングを行った上で、部材に確認マークを付ける
(ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を傷めない様に養生を行う

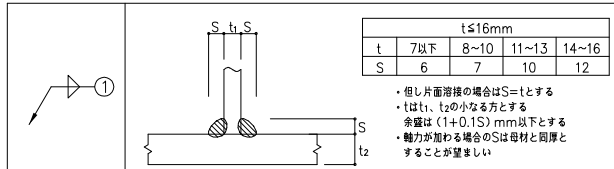
(5) 塗装

- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体する設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

2. 溶接規準図

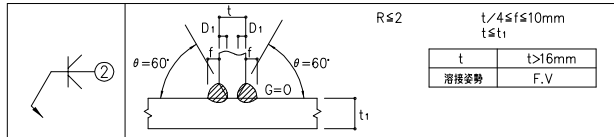
(注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長 (単位mm)

(1) 隅肉溶接



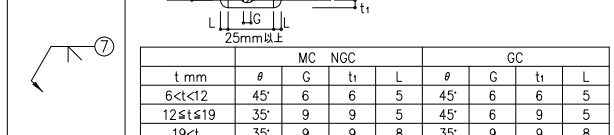
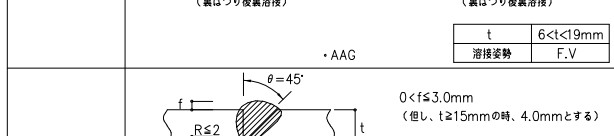
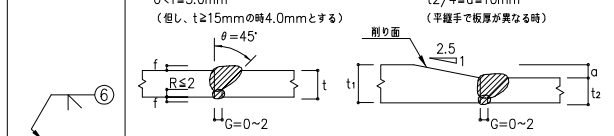
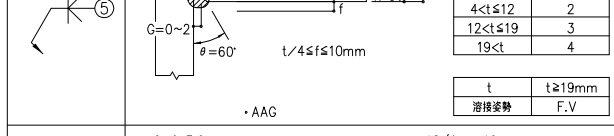
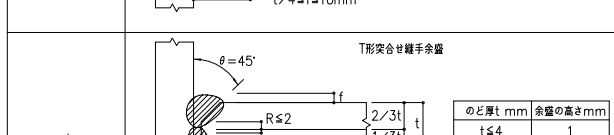
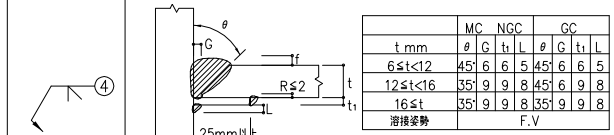
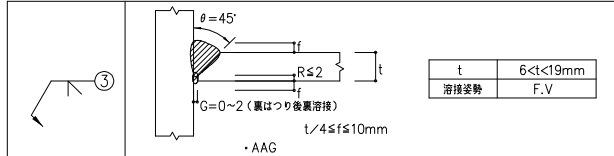
(2) 部分溶け込み溶接

(使用箇所)に注意)

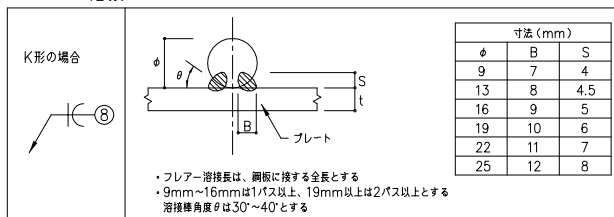


(3) 完全溶込み溶接

(平継手 T形継手)

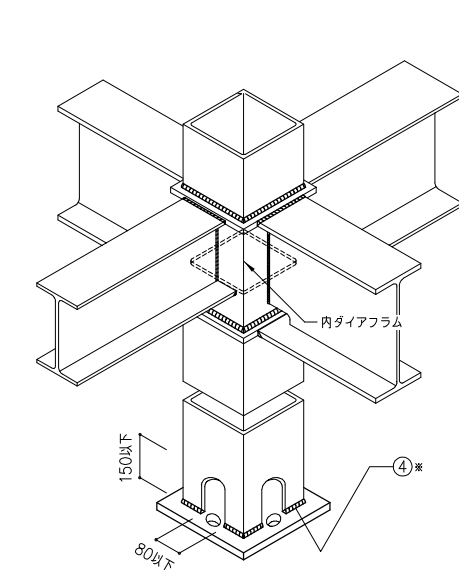


(4) フレアー溶接



※溶接記号番号を○中に記入のこと

● BOX型 (通しダイアフラムの場合)

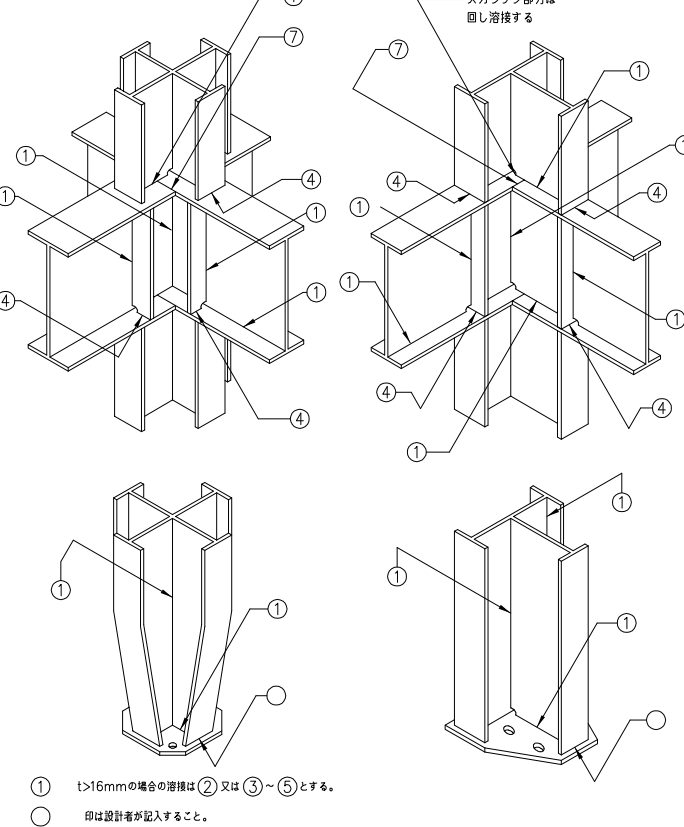


● 鋼材種別による溶接条件

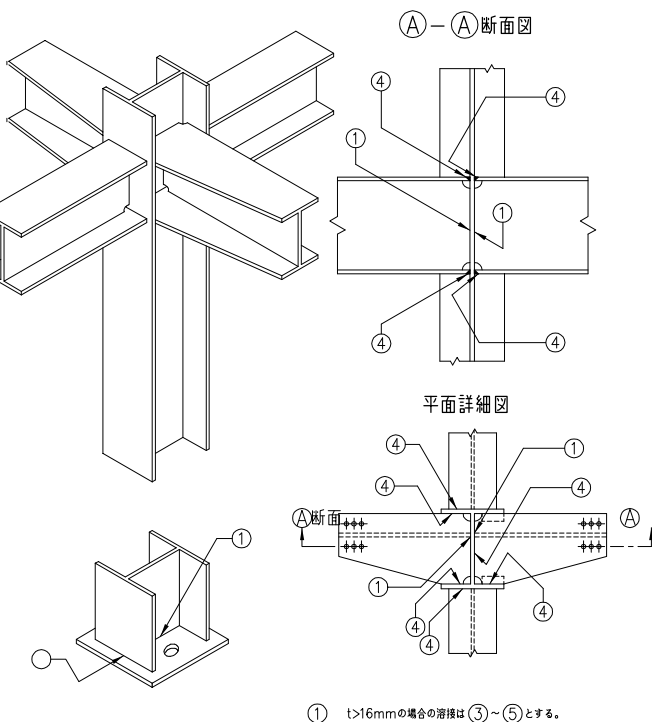
鋼材の強度	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	バネ温度 (℃)
400N/mm ² 級鋼	JIS Z 3312	40以下	350以下
	YGW-11,15		
	YGW-18,19		
	JIS Z 3315		
490N/mm ² 級鋼	YGA-50W,50P	40以下	350以下
	JIS Z 3212		
	YGW-11,15		
	YGW-18,19		
490N/mm ² 級鋼	JIS Z 3315	40以下	350以下
	YGA-50W,50P		

注) STKR,BCR,BCP材は、JIS Z 3312 のみ使用可
「構造設計特記仕様その1 6.鉄骨工事(2)口部定または登録工場」のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による

● 中、H、H型



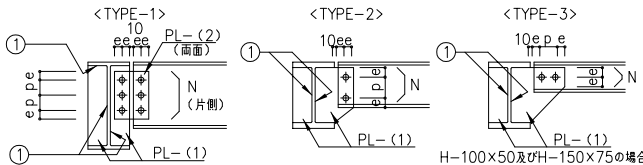
● BH方式



※修正箇所は下線を引くこと。

呼び径 d	ボルト 穴 径	最小 締 固 距 離 (e)				ピ ャ ッ チ (P)	
		(1)	(2)	(3)	(2×3)の標準	最小	標準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	26	40	50	60
M22	24	55	38	28	40	55	60
M24	26	60	44	32	45	60	70
M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
M27	32		49	36			
M30	35		54	40			
M30を超える	呼び径+5		9d/5	4d/3			

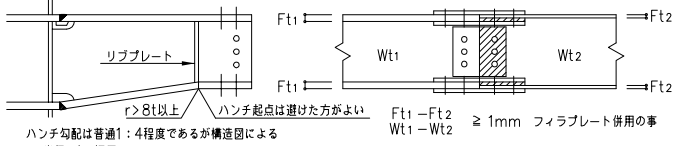
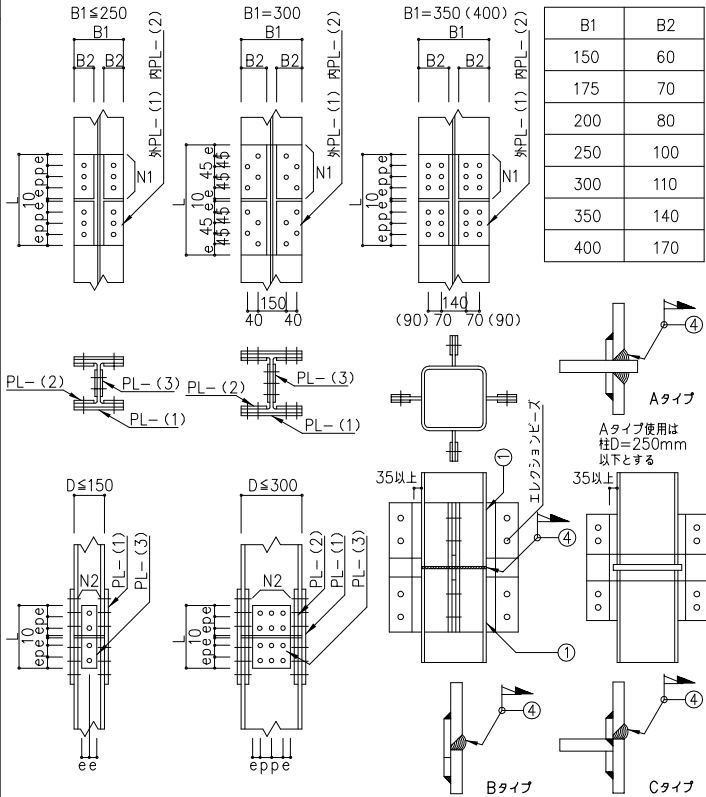
(2) ピン接合梁継手リスト

[illegible]

注) 端部をBHとする場合の部材は設計図による

[illegible]

フランジ及ウェブ厚の差のある場合


$$B1=300$$


注) 現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%を行なう

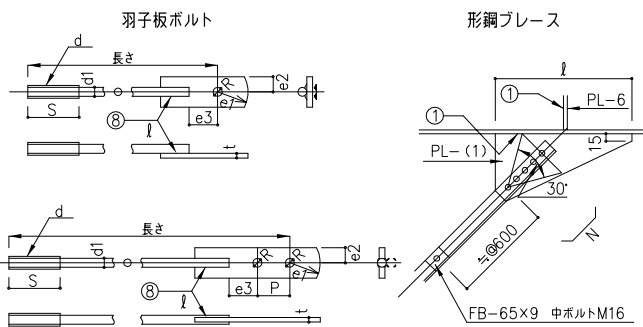
[illegible]

(a) 羽子板ボルト

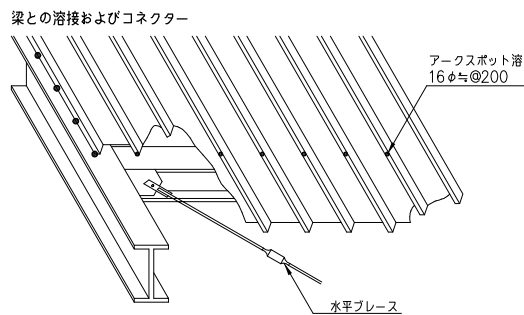
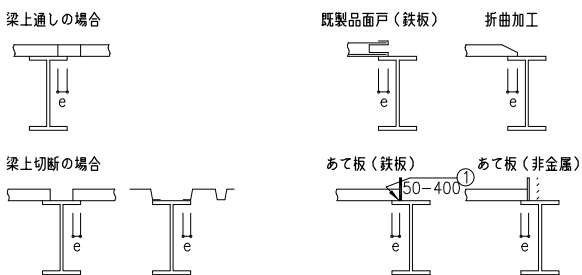
ねじの呼び (d)		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d 1	最 大	10.83	12.66	14.66	16.33	18.33	20.33	22.00
	最 小	10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69
調整ねじの長さ S		100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差 +0 -0.5mm		R	17.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5
は し あ き (最小) (2) e1		40	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき (最小) (1) e2	28	28	28	34	34	38	38
	板 厚 t	6	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき (最小) (1) e2	25.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5
	板 厚 t	5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付けボルト穴心のあき (最小)		e3	52	52	59	66	73	70
溶 接 長 さ (最小) l		40	50	55	60	75	85	85
(2) 取付ボルト	種 類	JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T)						
	ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本 数	1	1	1	1	1	1	2

〔注〕 (1) e1、e2が確保されていれば形状は自由でよい
(2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする

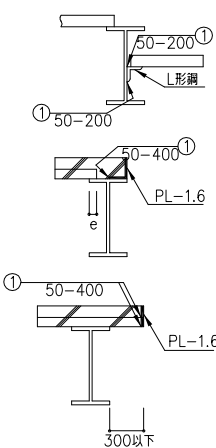
符 号	部 材	PL-(1)	N-徑	l



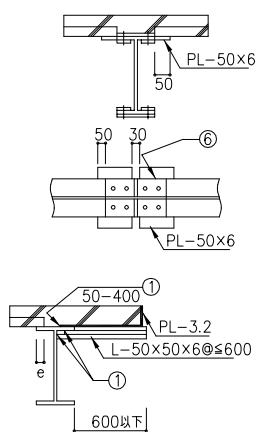
(7) デッキプレート (床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照)

受梁へのかかり寸法及端部処理 $e \geq 35\text{mm}$ 

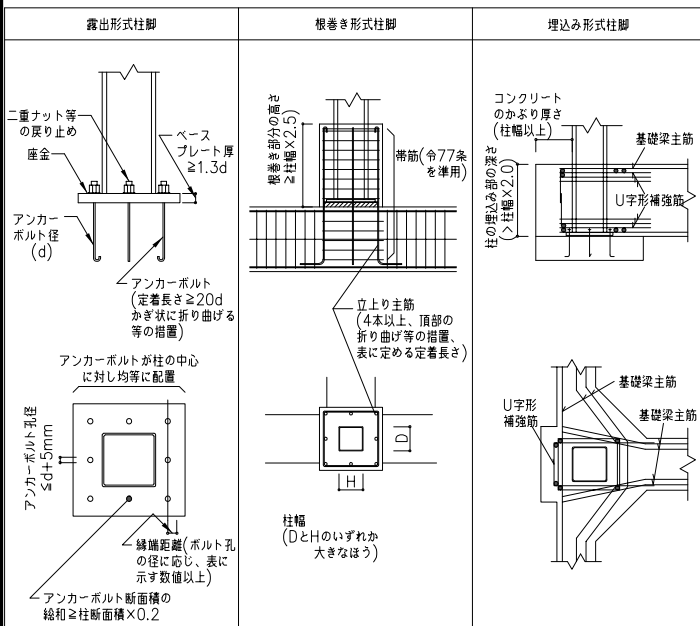
スラブ端部の補足材



補足受材



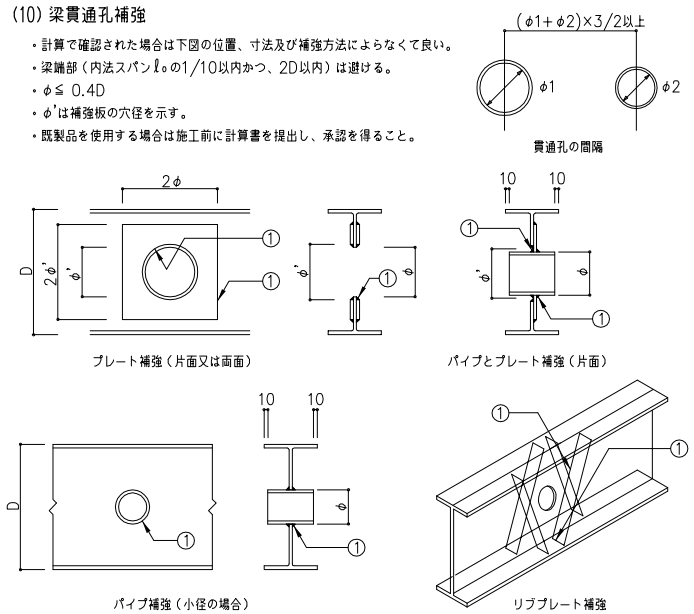
※ 構造用アンカーボルトは原則として JIS B 1220、JIS B 1221を使用する。



スタッド材の標準形状・寸法

形状 D	スタッド材				溶接後の長さ L mm
	呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	
	φ13mm	13	25	8	□80 □100 □120 □
	φ16mm	16	29	8	□80 □100 □120 □
	φ19mm	19	32	10	□80 □100 □120 □150 □
	φ22mm	22	35	10	□80 □100 □120 □150 □
	φ25mm	25	41	12	□120 □150 □170 □

- ・計算で確認された場合は図の位置、寸法及び補強方法によらずに良い。
- ・梁端部(内法スパン l_0 の1/10以内かつ、2D以内)は避ける。
- ・ $\phi \leq 0.4D$
- ・ ϕ' は補強板の穴径を示す。
- ・既製品を使用する場合は施工前に計算書を提出し、承認を得ること。



プレート補強の板厚

スリーブ径	補 強 板
$\phi \leq 0.15D$	補強板不要
$\phi \leq D/4$	Web板厚以上（片面）
$\phi \leq D/3$	Web板厚 $\times 1.2$ 倍以上（片面）
$\phi \leq 0.4D$	Web板厚以上（両面）

ハイベースNEO工法設計施工標準（ハイベースNEO工法は、S造及びCFT造に適用）

2023/12

大臣認定
BCJ評定

MSTL-0566,0404,0180（Gタイプ用ベースプレート）
MBLT-0042~0046（アンカー用ベースセット）
BCJ評定-ST0058（Gタイプ）
BCJ評定-ST0059（Eコタイプ、高強度柱適用タイプ）

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質
（1）ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板
Eコタイプ（EB型式、EM型式、EH型式）、高強度柱適用タイプ（KB型式）

規格	ベースプレート		アンカーボルト	Eコナット	ナット	座金	定着板
	Eコタイプ	高強度柱適用タイプ					
規格	JIS G3136 又は TMCP鋼	TMCP鋼	HAB （大径認定取得材）	大径認定取得材	JIS B1181 （六角ナット）	JIS G3106	JIS G3101 （一般構造用 圧延鋼材）
ねじの種類	—	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	板厚40mm以下の場合 SN490B 板厚40mm超の場合 TMCP325B,C	TMCP325B,C	腐蝕比 70%以下	—	強度区分5	SM490A	SS400

Eコタイプ、高強度柱適用タイプのベースプレート上ナットはEコナットを使用する。

Gタイプ（GB型式、GM型式、GH型式）

規格	ベースプレート		アンカーボルト	ナット	座金	定着板
	ベースプレート	アンカーボルト				
規格	HCW490B HCW490st （大径認定取得材）	HAB （大径認定取得材）	JIS B1181 （六角ナット）	JIS G3106	JIS G3101 （一般構造用 圧延鋼材）	—
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—	—
備考	SN490B等	腐蝕比 70%以下	強度区分5（二重ナット時） 強度区分9（一重ナット時）	—	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定（MSTL-0566、0404、0180） ※2 国土交通大臣認定（MBLT-0042~0046）
※3 M72は増目ねじ ※4 建築基準法第37条第二号に基づき国土交通大臣認定を取得した材料を使用

（2）ベースプレート下面のモルタル

後 詰 め
モ ル タ ル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと
同等以上の無収縮性モルタル※ ※ センクシアが供給するものに限る

中心 塗
部分モルタル O無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル
（NX-2000及びクイック3は使用不可。）
O強度はこれに接するコンクリートの強度以上

（3）基礎・基礎ばり

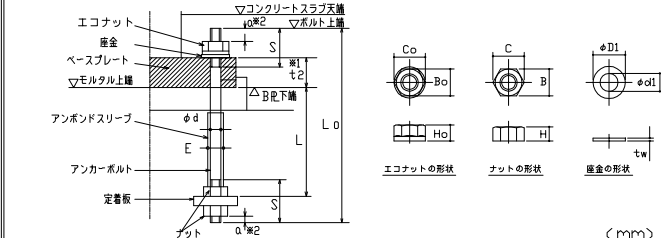
コンクリート O日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート
O設計基準強度は、 $f_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$

鉄 筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼

柱 形 ヘリあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法

Eコタイプ、高強度柱適用タイプ用アンカーボルト 部品



規格	ねじの呼び	アンカーボルト		Eコナット	ナット	座金
		軸径	ねじ径	余長	全長	外径
Eコタイプ	M24	24	3	105	10	480
	M30	30	35	130	13	600
	M36	36	4	130	16	720
	M42	42	45	155	18	840
高強度柱適用タイプ	M24	24	3	105	10	480
	M30	30	35	130	13	600
	M36	36	4	130	16	720
	M42	42	45	155	18	840

※1 t2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。

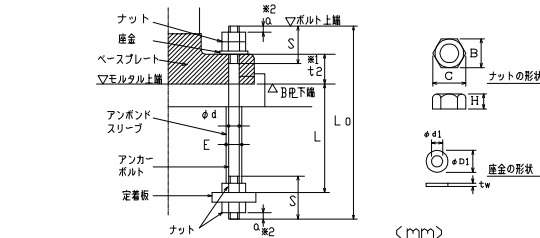
※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。

施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。

※3 表中のEコタイプ上段はEB、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、Eコタイプ下段はEH型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びEHタイプの場合の寸法です。

△注意
・Eコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
・コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。その場合、せん断耐力が変化する可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
・アンカーボルト上部には必ずEコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Gタイプ用アンカーボルト 部品



規格	ねじの呼び	アンカーボルト		Eコナット	ナット	座金
		軸径	ねじ径	余長	全長	外径
Eコタイプ	M24	24	3	105	10	480
	M30	30	35	130	13	600
	M36	36	4	130	16	720
	M42	42	45	155	18	840
高強度柱適用タイプ	M24	24	3	105	10	480
	M30	30	35	130	13	600
	M36	36	4	130	16	720
	M42	42	45	155	18	840

△注意
・Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。
・（一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。）

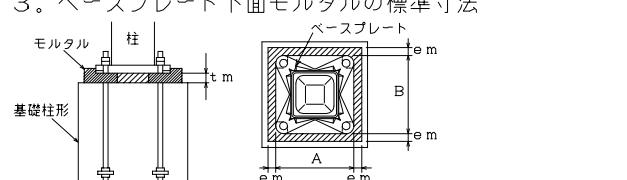
ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm)

規格	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
Eコタイプ	38	44	50	57	—	—	—	—
高強度柱適用タイプ	38	44	50	57	—	—	—	—
Gタイプ孔径	—	38	45	53	61	70	79	87

定着板（Eコタイプ、高強度柱適用タイプ、Gタイプ共通）

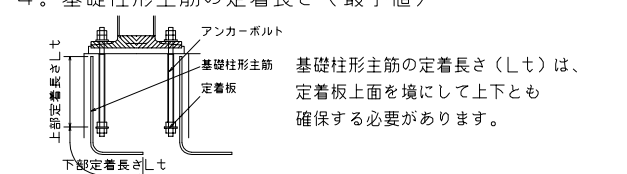


3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各 部 名 称	寸 法	備 考
中心塗り部分モルタルの厚さ (t m)	標準寸法 t m=50mm	許容範囲 30 ≤ t m ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (e m)	e m ≥ 30mm	許容範囲 e m ≥ 25mm

4. 基礎柱形主筋の定着長さ（最小値）



基礎柱形主筋の定着長さ (L t) は、
定着板上面を境にして上下とも
確保する必要があります。

工場加工

1. 溶 接 材 料

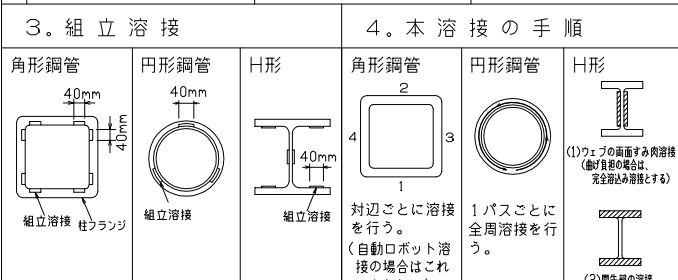
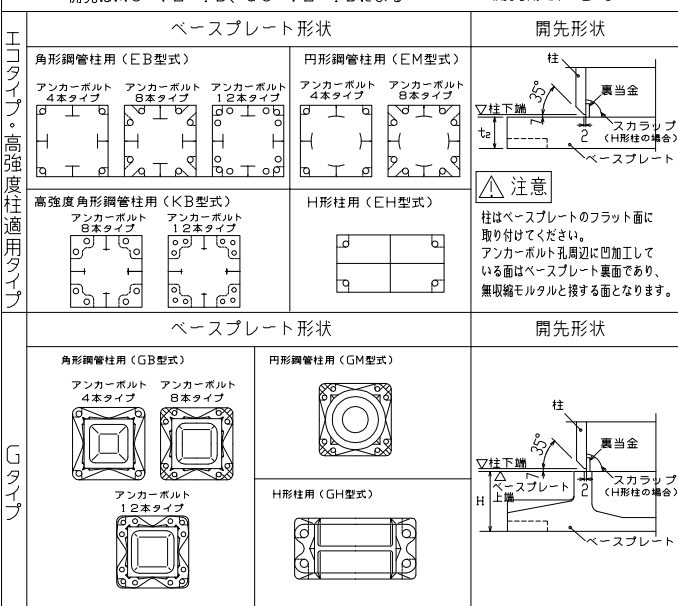
被覆アーク溶接 JIS Z 3211 (JBJIS Z 3212) に従い選定する（低水素系）

ガスシールドアーク溶接 JIS Z 3312 又は JIS Z 3313 に従い選定する

※ベースプレートと柱のF値が異なる場合は、JASS6や各材質毎に定められた指針に従い溶接材料を選定する。

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け（柱端部に開先を設ける）

※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる ※開先形状は参考



5. 溶 接 施 工 一 般

予 熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。

余 盛 溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。

余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する（Gタイプ）。

H形柱の溶接 エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接

△注意 柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱室によって曲がる場合があります。

6. 検 査

方 法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。

不良溶接部の補正 （1）有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。
（2）溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

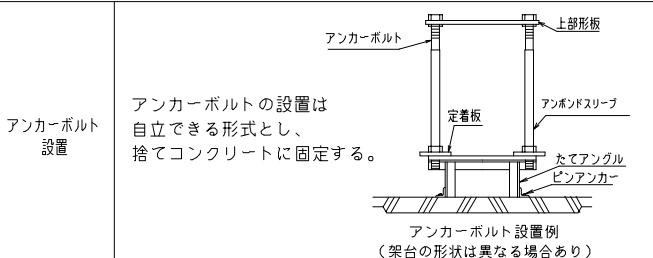
△注意

1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。（日本建築センターの評定で義務付けられています。）
2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずやコンクリートが付着しないようねじ部の保護養生をしてください。
4. 建て入れ直し用のワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

現場施工

（※）：センクシアの担当範囲

1. 捨てコンクリート打設
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
2. 墨出し
3. アンカーボルト 搬入（※）
4. アンカーボルト 据付（※）



アンカーボルト 設置精度の目標値

基準高さよりの誤差eh
-3mm ≤ eh ≤ 10mm

平面 レベル

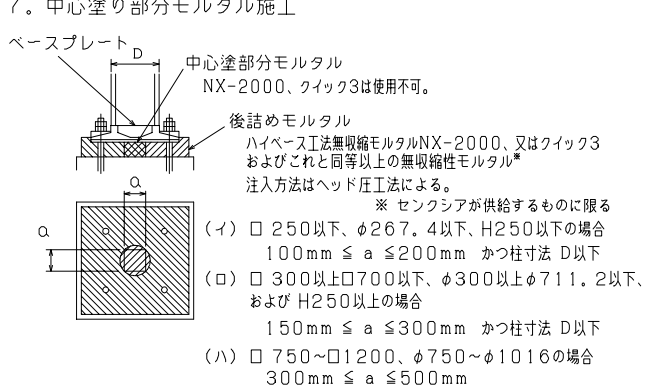
アンカーボルト 設置精度の目標値

基準高さよりの誤差eh
-3mm ≤ eh ≤ 10mm

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

6. 基礎コンクリート打設
基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

7. 中心塗り部分モルタル施工



中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB,GB,EM,GM,EH,KB型式 GH型式

8. 鉄骨建方
アンカーボルト締付
アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。

9. モルタル注入枠設置（※）
後詰めモルタル充填（※）

10. アンカーボルト締付（※）
予備締め
マーキング
ナット回転法による本締め
（30°回転、許容差：±10°）

11. モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

センクシア株式会社

本社 TEL 03-4214-1932
札幌 TEL 011-708-1177
東北 TEL 022-213-5595

関東 TEL 027-322-9411
中部 TEL 052-582-3356
北陸 TEL 076-233-5260

URL <https://www.senqcia.co.jp/>

関西 TEL 06-6395-2133
中四国 TEL 082-240-1630
九州 TEL 092-452-0341

代表：株式会社エーシー設計
一般建築士事務所登録
（長野） M08 77312 号

管理建築士 一般建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一般建築士登録 第222108号
構造設計一般建築士登録 第1975号
小林好樹

検査者 湯本桂司

担当 小林

担当 米山

Job No. 24078

工事名 岡谷市川岸学園整備 第2期
（接続棟建設）
建築主体工事

発行日 2025.09.30

図面名称

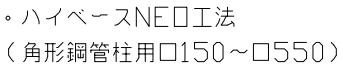
ハイベースNEO工法
設計施工標準（1）

縮尺

S-009

入札用
25.09.30

大臣認定	MBLT-0566,0404,0180(タイプ用ペーパープレート) MSLT-0042-0046(アンカーボルト)	2024/10
BCJ認定	BCJ認定-ST0058 (タイプ) BCJ認定-ST0059 (エキスパ) 本工法の設計・施工は、鋼構造物設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・鋼骨鉄筋コンクリート工事、および省エネルギー工法指針等に基づいて実施する。	



鉄筋はD13、D16はSD295、D19、D22、D25はSD345、D29はSD390をご採用ください。表中に無いサイズについても対応可能です。セックシアに問い合わせ下さい。

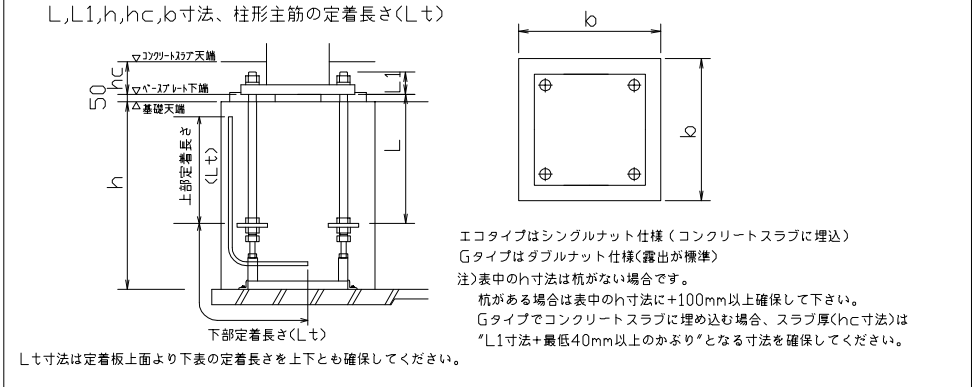
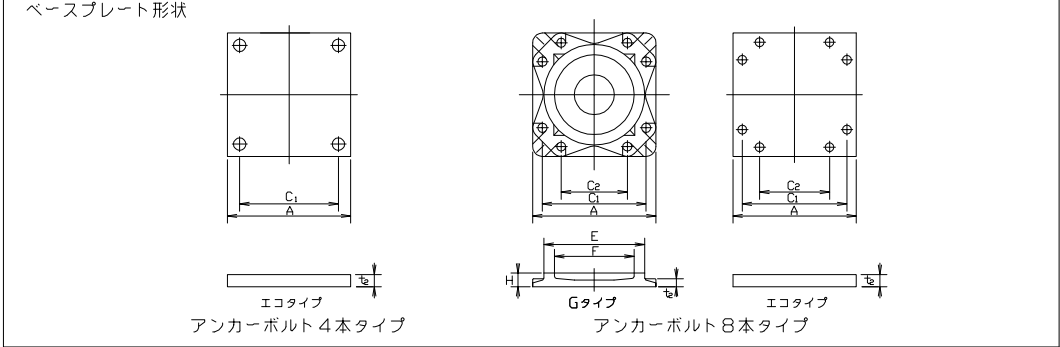
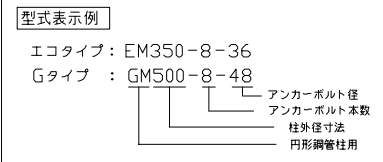
本社 TEL 03-4214-1932
札幌 TEL 011-708-1177
東北 TEL 022-213-5595

関西 TEL 06-6395-2133
中四国 TEL 082-240-1630
九州 TEL 092-452-0341

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例（F $\leq$ 24の場合）（ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用）
〈円形鋼管柱用 ϕ 190.7～ ϕ 1016〉（ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用）

大臣認定 MSTL-0566,0404,0180(Gタイプ用ベースプレート)
MBL T-0042～0046(アンカーボルト)
BCJ評定-ST0058 (Gタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
BCJ評定-ST0059 (エコタイプ) 同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

2024/10



・ハイベースNEO工法（円形鋼管柱用 ϕ 190.7～ ϕ 1016）

採用	適用柱	ハイベースNEO型式				フック 定数 X10 ¹⁰ N・m/rad	回転バネ 定数 X10 ¹⁰ N・m/rad	寸法 (mm)								質量 (kg)			L (mm)	L1 (mm)	基礎柱用 径×長さ h(mm)×hc(mm)	基礎柱形の設計例(F≦24) < 側・隅柱用 >						基礎柱形の設計例(F≦24) < 中柱用(4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。)>					
		エコタイプ	Gタイプ	A	C1			C2	E	F	H	tc	ベースプレート	部品	セット質量	Iゾーン						Iゾーン			鉄筋の定着長さ Lt(mm)	Iゾーン			Iゾーン			鉄筋の定着長さ Lt(mm)	
																柱形 b (mm)	主筋量	帯筋				柱形 b (mm)	主筋量	帯筋		柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋		
C21・C31	27	φ190.7	8.2	EM190-4-24	4-M24	13.8	290	210	-	-	-	32	22	14	36	400	87	600以上	130	500	8-D16	D13φ150	210	500	8-D16	D13φ150	210	500	8-D16	D13φ150	210		
		φ216.3	12.7	EM216-4-24	4-M24	19.9	310	230	-	-	-	32	25	14	39	400	87	600以上	130	520	8-D16	D13φ150	200	520	8-D16	D13φ150	200	520	8-D16	D13φ150	200		
		φ267.4	16	EM250-4-24	4-M24	28.4	370	290	-	-	-	32	35	14	49	400	87	600以上	130	570	8-D16	D13φ150	190	570	8-D16	D13φ150	190	570	8-D16	D13φ150	190		
		φ300	16	EM300-4	4-M24	38.3	420	340	-	-	-	32	45	15	60	400	87	600以上	130	620	8-D19	D13φ150	190	620	8-D19	D13φ150	190	620	8-D19	D13φ150	190		
	19	φ318.5	-24 -30	EM300-4	4-M30	61.0	430	340	-	-	-	40	59	23	82	400	110	600以上	150	620	12-D19	D13φ150	280	620	12-D19	D13φ150	280	620	12-D19	D13φ150	280		
		φ350	-30	EM350-4-30	4-M30	65.1	420	330	-	-	-	32	45	23	68	400	102	600以上	150	620	12-D19	D13φ150	280	620	12-D19	D13φ150	280	620	12-D19	D13φ150	280		
		φ355.6	-30	EM350-8-30	8-M30	86.3	500	410	240	-	-	-	40	79	50	129	600	110	800以上	150	700	16-D22	D13φ150	490	700	16-D22	D13φ150	490	700	16-D22	D13φ150	490	
		φ400	-30	EM400-8	8-M30	119	540	450	280	-	-	-	40	92	51	143	600	110	800以上	150	740	16-D22	D13φ150	470	740	16-D22	D13φ150	470	740	16-D22	D13φ150	470	
C4	1	φ406.4	-36	EM400-8	8-M36	148	560	470	270	-	-	-	48	119	81	200	720	125	900以上	170	770	16-D25	D13φ150	550	770	16-D25	D13φ150	550	770	16-D25	D13φ150	550	
		φ450	-42	EM450-8	8-M42	194	610	500	280	-	-	-	60	176	127	303	840	150	1100以上	190	810	20-D25	D13φ100	700	810	20-D25	D13φ100	700	810	20-D25	D13φ100	700	
		φ457.2	-30	EM450-8	8-M30	146	580	490	320	-	-	-	40	106	51	157	600	110	800以上	150	780	16-D22	D13φ150	450	780	16-D22	D13φ150	450	780	16-D22	D13φ150	450	
		φ500	-36	EM500-8	8-M36	182	600	510	310	-	-	-	48	136	81	217	720	125	900以上	170	810	16-D25	D13φ100	550	810	12-D25	D13φ100	810	24-D25	D13φ100	550		
	25	φ508	-42	EM500-8	8-M42	249	650	540	320	-	-	-	60	199	127	326	840	150	1100以上	190	850	20-D25	D13φ100	700	850	16-D25	D13φ100	850	32-D25	D13φ100	700		
		φ550	-36	GM500-8	8-M36	231	640	550	350	-	-	-	48	155	82	237	720	125	900以上	170	850	16-D25	D13φ100	530	850	12-D25	D13φ100	850	24-D25	D13φ100	530		
		φ558.8	-42	GM500-8	8-M42	301	700	590	370	518	390	90	60	231	128	359	840	150	1100以上	190	900	20-D25	D13φ100	670	900	20-D25	D13φ100	900	32-D25	D13φ100	670		
		φ600	-48	GM500-8	8-M48	405	710	580	330	568	430	100	57	229	207	436	960	164	1200以上	-	950	24-D25	D16φ100	730	950	20-D25	D16φ100	950	40-D25	D16φ100	730		
	25	φ609.6	-56	EM550-8	8-M56	470	740	600	320	-	-	-	100	69	282	308	590	1120	192	1350以上	-	950	32-D25	D16φ100	940	950	28-D25	D16φ100	1100	52-D25	D16φ100	940	
		φ650	-36	GM550-8	8-M36	269	680	590	390	-	-	-	48	175	82	257	720	125	900以上	170	900	20-D25	D13φ100	520	900	16-D25	D13φ100	900	24-D25	D13φ100	520		
		φ660.4	-42	GM550-8	8-M42	350	740	630	410	-	-	-	60	258	128	386	840	150	1100以上	190	950	20-D25	D13φ100	660	950	20-D25	D13φ100	950	32-D25	D13φ100	660		
		φ700	-48	GM550-8	8-M48	468	740	610	360	568	430	85	54	244	208	452	960	161	1200以上	-	950	28-D25	D16φ100	730	950	24-D25	D16φ100	950	40-D25	D16φ100	730		
	40	φ711.2	-56	GM600-8	8-M56	543	770	630	350	620	480	100	65	301	310	611	1120	188	1350以上	-	1000	32-D25	D16φ100	940	1000	28-D25	D16φ100	1100	52-D25	D16φ100	940		
		φ750	-36	GM600-8	8-M36	421	700	610	410	-	-	-	70	36	192	85	277	720	116	900以上	-	950	20-D25	D16φ100	450	950	16-D25	D16φ100	950	24-D25	D16φ100	450	
		φ800	-48	GM600-8	8-M48	563	780	650	400	620	480	85	52	273	210	483	960	159	1200以上	-	1000	28-D25	D16φ100	720	1000	24-D25	D16φ100	1000	40-D25	D16φ100	720		
		φ812.8	-64	GM600-8	8-M64	747	850	690	390	-	-	-	110	75	408	449	857	1280	217	1600以上	-	1100	32-D29	D16φ100	1120	1100	28-D29	D16φ100	1150	48-D29	D16φ100	1120	
	40	φ850	-48	GM650-8	8-M48	661	820	690	440	670	530	90	52	316	211	527	960	159	1200以上	-	1050	28-D25	D16φ100	720	1050	24-D25	D16φ100	1050	40-D25	D16φ100	720		
		φ900	-64	GM650-8	8-M64	846	880	720	420	720	570	110	71	432	451	883	1280	213	1600以上	-	1100	32-D29	D16φ100	1120	1100	28-D29	D16φ100	1150	48-D29	D16φ100	1120		
		φ914.4	-48	GM700-8	8-M48	750	850	720	470	720	570	80	48	330	212	542	960	155	1200以上	-	1050	32-D25	D16φ100	720	1050	28-D25	D16φ100	1050	40-D25	D16φ100	720		
		φ950	-64	GM700-8	8-M64	958	920	760	460	-	-	-	105	70	471	453	924	1280	212	1600以上	-	1150	32-D29	D16φ100	1120	1150	28-D29	D16φ100	1150	48-D29	D16φ100	1120	
	40	φ1000	-48	GM750-8	8-M48	865	890	760	510	770	620	85	48	381	214	595	960	155	1300以上	-	1100	24-D29	D16φ100	730	1100	20-D29	D16φ100	1100	28-D29	D16φ100	730		
		φ1016	-64	GM750-8	8-M64	1100	960	800	500	-	-	-	110	69	527	455	982	1280	211	1600以上	-	1200	32-D29	D16φ100	1200	1200	28-D29	D16φ100	1200	48-D29	D16φ100	1110	
		φ1016	-48	GM800-8	8-M48	961	920	790	540	820	660	90	45	426	215	641	960	152	1300以上	-	1150	24-D29	D16φ100	720	1150	20-D29	D16φ100	1150	28-D29	D16φ100	720		
		φ1016	-64	GM800-8	8-M64	1240	990	830	530	-	-	-	100	66	550	456	1006	1280	208	1600以上	-	1200	32-D29	D16φ100	1200	1200	28-D29	D16φ100	1200	48-D29	D16φ100	1110	
	40	φ950	-48	GM850-8-64	8-M64	1410	1030	870	570	870	710	105	65	616	459	1075	1280	207	1600以上	-	1250	32-D29	D16φ100	1090	1250	28-D29	D16φ100	1300	48-D29	D16φ100	1090		
		φ950	-48	GM900-8-64	8-M64	1660	1100	940	640	920	760	105	70	734	462	1196	1280	212	1600以上	-	1350	36-D29	D16φ100	1070	1350	32-D29	D16φ100	1350	48-D29	D16φ100	1070		
		φ950	-48	GM950-8-64	8-M64	1750	1100	940	640	970	810	105	61	735	462	1197	1280	203	1600以上	-	1350	36-D29	D16φ100	1070	1350	32-D29	D16φ100	1350	48-D29	D16φ100	1070		
		φ1000	-48	GM1000-8-64	8-M64	1970	1140	980	680	1030	870	110	59	827	465	1292	1280	201	1600以上	-	1400	36-D29	D16φ100	1120	1400	32-D29	D16φ100	1400	48-D29	D16φ100	1120		

QLデッキ合成スラブ設計・施工標準

耐火仕様①

合成スラブ工業会仕様

QLデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工標準 2018」、合成スラブ工業会「合成スラブの設計・施工マニュアル」、QLデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設計

材料/デッキプレート

デッキプレート種類	板厚(mm)	表面処理
■QL99-50 □QL99-75	端部加工 ■エンガ有り □無し	■1.2 □1.6 □表面防錆処理(一次塗装) QLプライマー(P) ^{※1} ■亜鉛めっき □JFEコグメ(高耐食溶融めっき鋼板) □Y18 □Y27 □その他() □無し
材 質	JIS G 3352に定めるSDP1T、SDP2、SDP2G	※1 現場納入までの一次防錆 (JIS K 5621 2種または3種相当)

材料/コンクリート

種 類	■普通コンクリート	□軽量コンクリート	□1種	□2種
設計基準強度	□18 □21	■24 □()	N/mm ²	
厚さ(QLデッキ山)	□60 □70	■80 □85 □90 □95 □100 □()	mm	

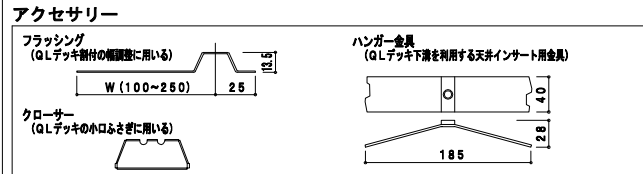
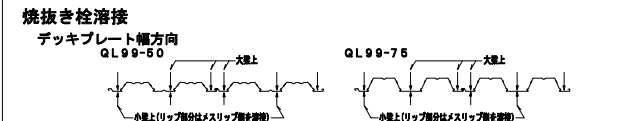
材料/溶接金網・異形鉄筋

■ 溶接金網	JIS G 3561	□φ6-75×75	■φ6-150×150
□ 異形鉄筋	JIS G 3112、3117	□D10-150×150	□D10-200×200
□ 耐火補強筋	JIS G 3112、3117	D13-φ300	

接 合	□ 鋼付きスタッド	JIS B 1198 □φ13 □φ16 □φ19 □φ22
梁 と の 接 合	■ 溶接き接合	下記溶接き接合の項による
	□ 打込み板	接合箇所は特記による
	□ その他	

デッキプレート	耐火区分	支持条件	コンクリート種別	耐火補強筋	認定番号
QL99-50	床1時間	単純	普通/軽量	要	□FP060FL-9101
QL99-75	床2時間	単純		要	□FP060FL-9095

特 記	支保工有無	その他:
■ 無	□ 有	



施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)	QL99-50
注1: 普通コンクリート (単位体積重量24kN/m ³)、表面処理が亜鉛めっきの場合	
注2: ① 数値は表面処理がなされたまたは建築品の許容スパンを示す。	
注3: ② 表を超える場合は、別途支保工が必要。	

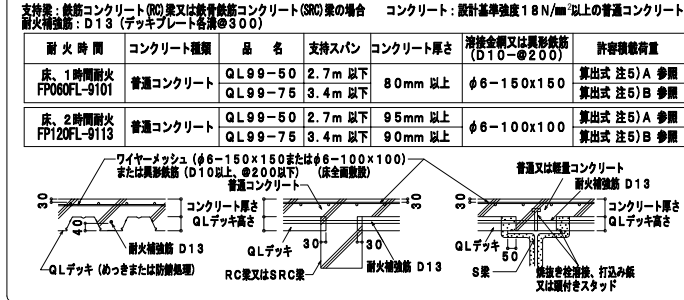
JFE 建材 株式会社

耐火認定FP60FL-9095, 9101, FP120FL-9107, 9113用

耐火仕様

耐火時間	コンクリート種別	品 名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋 (D10-φ200)	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9095	普通コンクリート	QL99-50	3.0m 以下	80mm 以上	φ6-150×150	算出式 注5) A 参照
	普通コンクリート	QL99-75	3.4m 以下	80mm 以上	φ6-100×100	算出式 注5) B 参照
	軽量コンクリート	QL99-50	3.0m 以下	80mm 以上	φ6-150×150	算出式 注5) A 参照
	軽量コンクリート	QL99-75	3.4m 以下	80mm 以上	φ6-150×150	算出式 注5) B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9107	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上	φ6-100×100	算出式 注5) A 参照
	普通コンクリート	QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	D10-φ200	算出式 注5) B 参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	85mm 以上	φ6-100×100	算出式 注5) A 参照
	軽量コンクリート	QL99-75	3.4m 以下	80mm 以上	D10-φ200	算出式 注5) B 参照

耐火時間	コンクリート種別	品 名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋 (D10-φ200)	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	80mm 以上	φ6-150×150	算出式 注5) A 参照
	普通コンクリート	QL99-75	3.4m 以下	80mm 以上	φ6-150×150	算出式 注5) B 参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上	φ6-100×100	算出式 注5) A 参照
	軽量コンクリート	QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	φ6-100×100	算出式 注5) B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上	φ6-100×100	算出式 注5) A 参照
	普通コンクリート	QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	φ6-100×100	算出式 注5) B 参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	85mm 以上	φ6-100×100	算出式 注5) A 参照
	軽量コンクリート	QL99-75	3.4m 以下	80mm 以上	φ6-100×100	算出式 注5) B 参照



注1	注2	注3	注4	注5
スパンは鉄骨梁の場合デッキプレートを支える梁の中心間距離、鉄筋コンクリート梁の場合梁内法寸法をいう。	スパンが3.4mを超える場合は、合成スラブと梁とは鋼付きスタッド (間隔16mm以上、ピッチ300mm以下) で結合する。	鉄骨梁の場合、梁との接合は溶接き接合、打込み板、または鋼付きスタッドを用いる。	梁の耐火強度 梁に1、2または3時間の耐火性能が要求される場合は、それらに相当する耐火強度を要する。	許容積載荷重 W 算出式 注5) A 参照

注5) 許容積載荷重 W	算出式
[A] QL99-50	[B] QL99-75
$W = 5,400 \times \left(\frac{2.7}{L} \right)^2$ かつ $9,800 \text{ N/m}^2$ 以下	$W = 5,400 \times \left(\frac{3.4}{L} \right)^2$ かつ $9,800 \text{ N/m}^2$ 以下

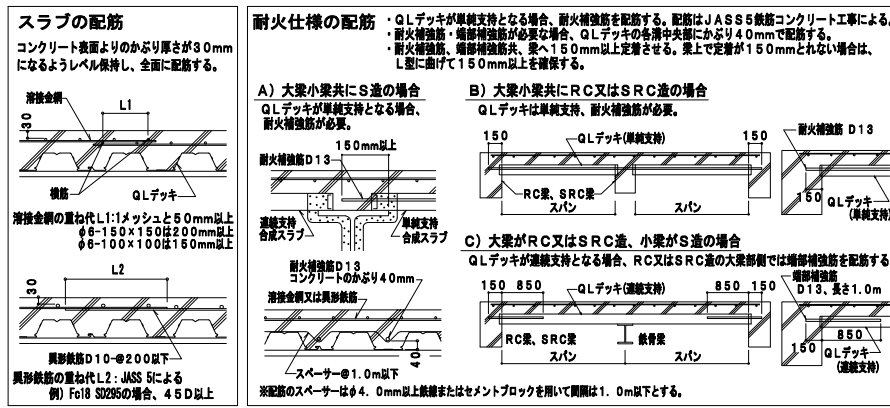
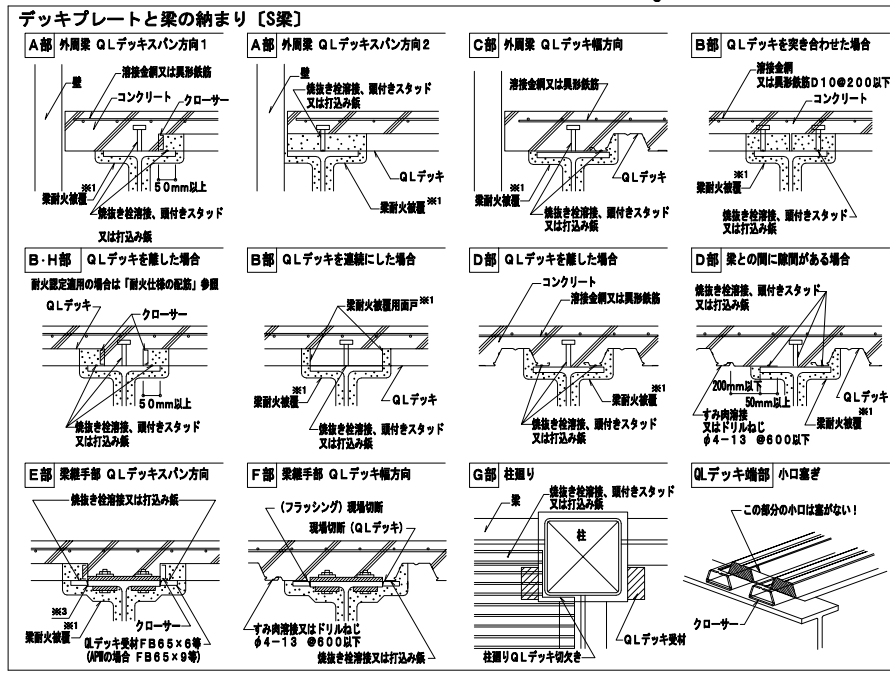
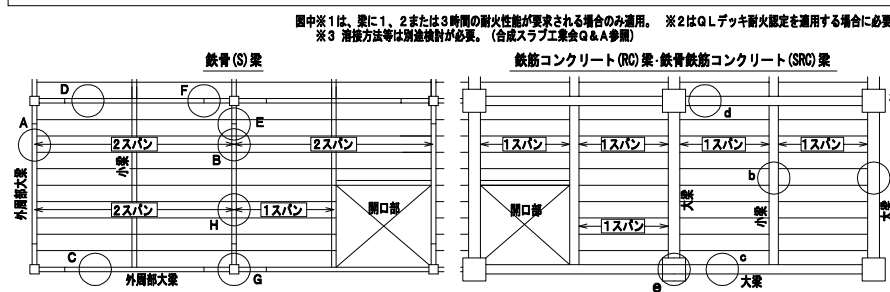
※許容積載荷重は、床にかかる全荷重 (山+谷) から床荷重 (デッキプレートとコンクリートの自重) を差し引いた値を示す。

付帯条件 連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは2スパン以上にわたって連続的に小ばり等によって、ほぼ等間隔 (スパン比: 3を越えない程度) に支持されるものとする。

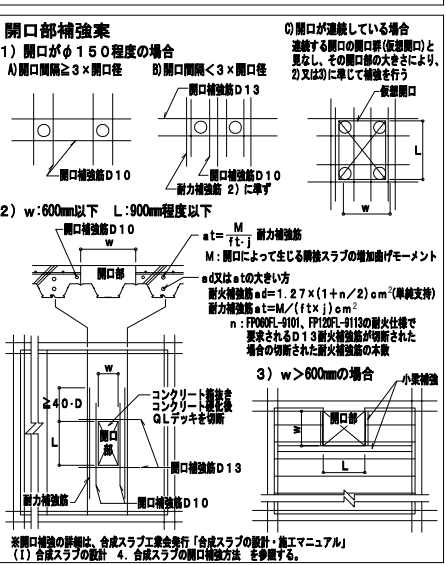
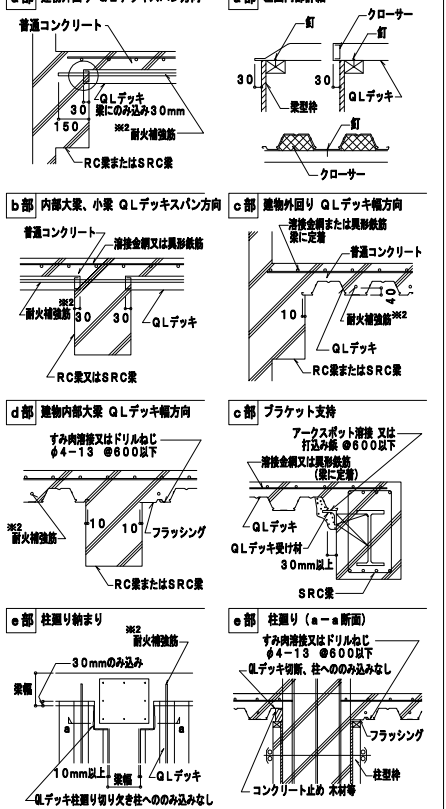
施工順序	数 込 み
1 提出	鉄骨梁の場合
2 数込め止め接合	1) 提出し、鋼付きスタッドを仮止し溶接した後、耐火強度を要する (5~10mm) の範囲に鋼付きスタッドを仮止し溶接する。
3 鋼付きスタッドの仮止し溶接	2) 各スパン上にデッキプレートの隅角が来るように鋼付きスタッドを仮止し溶接する。
4 鋼付きスタッドの仮止し溶接	3) デッキプレート長手方向の梁の隅角が来るように鋼付きスタッドを仮止し溶接する。
5 鋼付きスタッドの仮止し溶接	RC梁またはSRC梁の場合
6 鋼付きスタッドの仮止し溶接	1) デッキプレートは梁型枠内に仮止し溶接する。
7 鋼付きスタッドの仮止し溶接	2) デッキプレートの梁型枠への仮止し溶接が完了後、鋼付きスタッドを仮止し溶接する。
8 鋼付きスタッドの仮止し溶接	3) デッキプレート長手方向の梁の隅角が来るように鋼付きスタッドを仮止し溶接する。
9 鋼付きスタッドの仮止し溶接	4) デッキプレート短手方向の梁の隅角が来るように鋼付きスタッドを仮止し溶接する。
10 鋼付きスタッドの仮止し溶接	5) 鋼付きスタッドの仮止し溶接が完了後、鋼付きスタッドを仮止し溶接する。

施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)	QL99-75
注1: 普通コンクリート (単位体積重量24kN/m ³)、表面処理が亜鉛めっきの場合	
注2: ① 数値は表面処理がなされたまたは建築品の許容スパンを示す。	
注3: ② 表を超える場合は、別途支保工が必要。	

標準納まり



デッキプレートと梁の納まり [RC・SRC梁]



※開口補強の要否は、合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」(I)合成スラブの設計、4.合成スラブの開口補強方法を参照する。

検 査
【焼抜き接合 (SPW) 及び自動焼抜き接合 (A.P.W.)】
事前検査
SPW: 適正な溶接を行うため下記(1)または(2)の方法で電流値をチェックする。
1) 焼設計の計画
2) 溶接機の種類と電圧
3) 溶接機の種類と電圧
4) 溶接機の種類と電圧
5) 溶接機の種類と電圧
6) 溶接機の種類と電圧
7) 溶接機の種類と電圧
8) 溶接機の種類と電圧
9) 溶接機の種類と電圧
10) 溶接機の種類と電圧
11) 溶接機の種類と電圧
12) 溶接機の種類と電圧
13) 溶接機の種類と電圧
14) 溶接機の種類と電圧
15) 溶接機の種類と電圧
16) 溶接機の種類と電圧
17) 溶接機の種類と電圧
18) 溶接機の種類と電圧
19) 溶接機の種類と電圧
20) 溶接機の種類と電圧
21) 溶接機の種類と電圧
22) 溶接機の種類と電圧
23) 溶接機の種類と電圧
24) 溶接機の種類と電圧
25) 溶接機の種類と電圧
26) 溶接機の種類と電圧
27) 溶接機の種類と電圧
28) 溶接機の種類と電圧
29) 溶接機の種類と電圧
30) 溶接機の種類と電圧
31) 溶接機の種類と電圧
32) 溶接機の種類と電圧
33) 溶接機の種類と電圧
34) 溶接機の種類と電圧
35) 溶接機の種類と電圧
36) 溶接機の種類と電圧
37) 溶接機の種類と電圧
38) 溶接機の種類と電圧
39) 溶接機の種類と電圧
40) 溶接機の種類と電圧
41) 溶接機の種類と電圧
42) 溶接機の種類と電圧
43) 溶接機の種類と電圧
44) 溶接機の種類と電圧
45) 溶接機の種類と電圧
46) 溶接機の種類と電圧
47) 溶接機の種類と電圧
48) 溶接機の種類と電圧
49) 溶接機の種類と電圧
50) 溶接機の種類と電圧
51) 溶接機の種類と電圧
52) 溶接機の種類と電圧
53) 溶接機の種類と電圧
54) 溶接機の種類と電圧
55) 溶接機の種類と電圧
56) 溶接機の種類と電圧
57) 溶接機の種類と電圧
58) 溶接機の種類と電圧
59) 溶接機の種類と電圧
60) 溶接機の種類と電圧
61) 溶接機の種類と電圧
62) 溶接機の種類と電圧
63) 溶接機の種類と電圧
64) 溶接機の種類と電圧
65) 溶接機の種類と電圧
66) 溶接機の種類と電圧
67) 溶接機の種類と電圧
68) 溶接機の種類と電圧
69) 溶接機の種類と電圧
70) 溶接機の種類と電圧
71) 溶接機の種類と電圧
72) 溶接機の種類と電圧
73) 溶接機の種類と電圧
74) 溶接機の種類と電圧
75) 溶接機の種類と電圧
76) 溶接機の種類と電圧
77) 溶接機の種類と電圧
78) 溶接機の種類と電圧
79) 溶接機の種類と電圧
80) 溶接機の種類と電圧
81) 溶接機の種類と電圧
82) 溶接機の種類と電圧
83) 溶接機の種類と電圧
84) 溶接機の種類と電圧
85) 溶接機の種類と電圧
86) 溶接機の種類と電圧
87) 溶接機の種類と電圧
88) 溶接機の種類と電圧
89) 溶接機の種類と電圧
90) 溶接機の種類と電圧
91) 溶接機の種類と電圧
92) 溶接機の種類と電圧
93) 溶接機の種類と電圧
94) 溶接機の種類と電圧
95) 溶接機の種類と電圧
96) 溶接機の種類と電圧
97) 溶接機の種類と電圧
98) 溶接機の種類と電圧
99) 溶接機の種類と電圧
100) 溶接機の種類と電圧

検 査
【焼抜き接合 (SPW) 及び自動焼抜き接合 (A.P.W.)】
事前検査
SPW: 適正な溶接を行うため下記(1)または(2)の方法で電流値をチェックする。
1) 焼設計の計画
2) 溶接機の種類と電圧
3) 溶接機の種類と電圧
4) 溶接機の種類と電圧
5) 溶接機の種類と電圧
6) 溶接機の種類と電圧
7) 溶接機の種類と電圧
8) 溶接機の種類と電圧
9) 溶接機の種類と電圧
10) 溶接機の種類と電圧
11) 溶接機の種類と電圧
12) 溶接機の種類と電圧
13) 溶接機の種類と電圧
14) 溶接機の種類と電圧
15) 溶接機の種類と電圧
16) 溶接機の種類と電圧
17) 溶接機の種類と電圧
18) 溶接機の種類と電圧
19) 溶接機の種類と電圧
20) 溶接機の種類と電圧
21) 溶接機の種類と電圧
22) 溶接機の種類と電圧
23) 溶接機の種類と電圧
24) 溶接機の種類と電圧
25) 溶接機の種類と電圧
26) 溶接機の種類と電圧
27) 溶接機の種類と電圧
28) 溶接機の種類と電圧
29) 溶接機の種類と電圧
30) 溶接機の種類と電圧
31) 溶接機の種類と電圧
32) 溶接機の種類と電圧
33) 溶接機の種類と電圧
34) 溶接機の種類と電圧
35) 溶接機の種類と電圧
36) 溶接機の種類と電圧
37) 溶接機の種類と電圧
38) 溶接機の種類と電圧
39) 溶接機の種類と電圧
40) 溶接機の種類と電圧
41) 溶接機の種類と電圧
42) 溶接機の種類と電圧
43) 溶接機の種類と電圧
44) 溶接機の種類と電圧
45) 溶接機の種類と電圧
46) 溶接機の種類と電圧
47) 溶接機の種類と電圧
48) 溶接機の種類と電圧
49) 溶接機の種類と電圧
50) 溶接機の種類と電圧
51) 溶接機の種類と電圧
52) 溶接機の種類と電圧
53) 溶接機の種類と電圧
54) 溶接機の種類と電圧
55) 溶接機の種類と電圧
56) 溶接機の種類と電圧
57) 溶接機の種類と電圧
58) 溶接機の種類と電圧
59) 溶接機の種類と電圧
60) 溶接機の種類と電圧
61) 溶接機の種類と電圧
62) 溶接機の種類と電圧
63) 溶接機の種類と電圧
64) 溶接機の種類と電圧
65) 溶接機の種類と電圧
66) 溶接機の種類と電圧
67) 溶接機の種類と電圧
68) 溶接機の種類と電圧
69) 溶接機の種類と電圧
70) 溶接機の種類と電圧
71) 溶接機の種類と電圧
72) 溶接機の種類と電圧
73) 溶接機の種類と電圧
74) 溶接機の種類と電圧
75) 溶接機の種類と電圧
76) 溶接機の種類と電圧
77) 溶接機の種類と電圧
78) 溶接機の種類と電圧
79) 溶接機の種類と電圧
80) 溶接機の種類と電圧
81) 溶接機の種類と電圧
82) 溶接機の種類と電圧
83) 溶接機の種類と電圧
84) 溶接機の種類と電圧
85) 溶接機の種類と電圧
86) 溶接機の種類と電圧
87) 溶接機の種類と電圧
88) 溶接機の種類と電圧
89) 溶接機の種類と電圧
90) 溶接機の種類と電圧
91) 溶接機の種類と電圧
92) 溶接機の種類と電圧
93) 溶接機の種類と電圧
94) 溶接機の種類と電圧
95) 溶接機の種類と電圧
96) 溶接機の種類と電圧
97) 溶接機の種類と電圧
98) 溶接機の種類と電圧
99) 溶接機の種類と電圧
100) 溶接機の種類と電圧

施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)	QL99-75
注1: 普通コンクリート (単位体積重量24kN/m ³)、表面処理が亜鉛めっきの場合	
注2: ① 数値は表面処理がなされたまたは建築品の許容スパンを示す。	
注3: ② 表を超える場合は、別途支保工が必要。	

その他の納まり・参考例については、QLデッキ施工マニュアルまたは別途「納まり図」(技術資料CADデータ収録)を参照下さい。

2021/7/01

代表: 株式会社エーシーエー設計
一般建築士事務所登録
(長野) M077312 号

管理建築士 一級建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一級建築士登録 第222108号
構造設計一級建築士登録 第1975号
小林好樹

検査者 湯本桂司

担当 小林

担当 米山

Job No. 24078
工事名

岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主・施工主

発行日 2025.09.30
図面名称

QLデッキ合成スラブ
設計・施工標準

縮尺

S-012
入札用
25.09.30

ボーリング柱状図

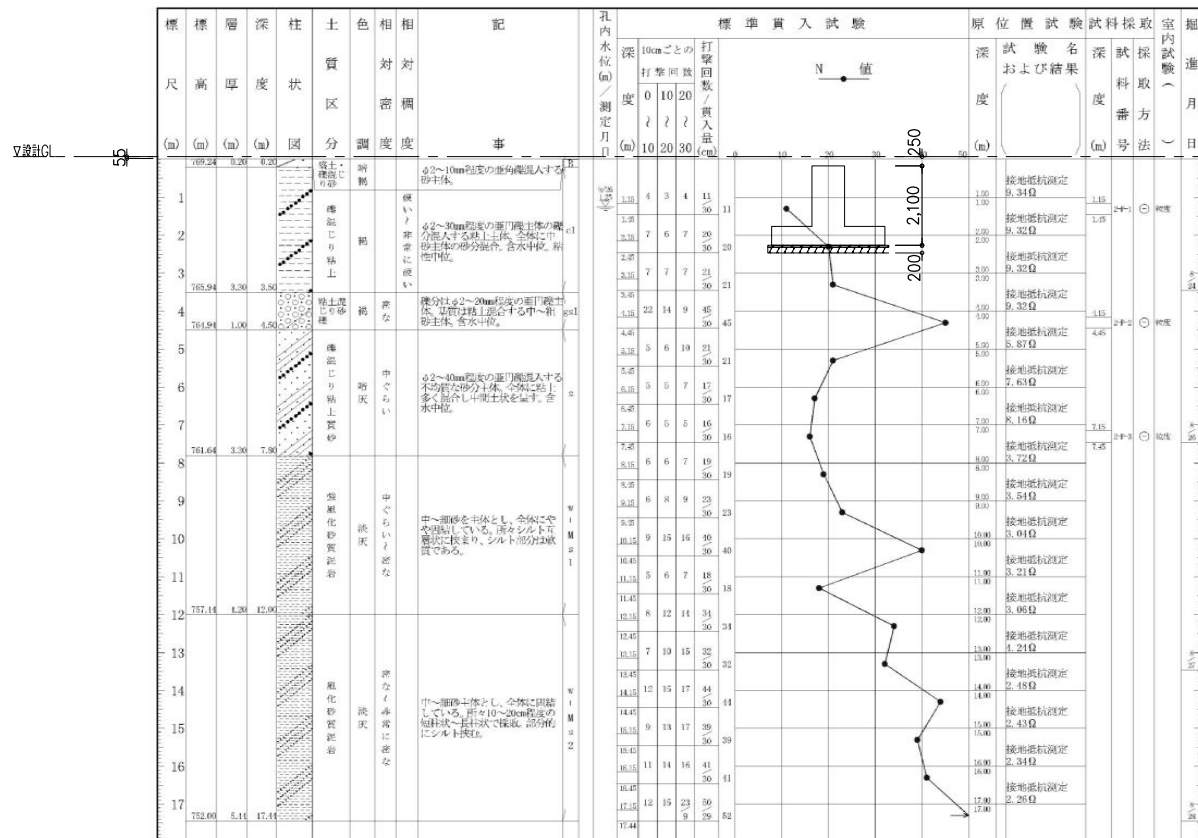
調査名 岡谷市川岸学園整備事業基本・実施設計業務

[illegible]

事業・工事名

シート No

ホーリング名	No. 2	調査位置	長野県岡谷市川岸中一丁目1番1号・2号				北 緯 36° 2' 45.6"
発 注 機 関	株式会社 エーシーエー設計		調査期間	2024年 8月 24日 ~ 2024年 8月 28日			東 経 138° 1' 31.5"
調査業者名	株式会社 土佐管理総合工務 電話 (026-299-8559)	主任技術者	現場代理人	コ ン 定 者	北島 沙枝		
孔 口 標 高	H = 769.44m	角	方	地盤勾配	使用機種	D1-C58	ハンマー落下用具
掘 鑿 進 長	17.43m	度	度	水平0°	エンジン	TF120	ポンプ
							半自動落下装置
							B-63



ボーリング柱状図

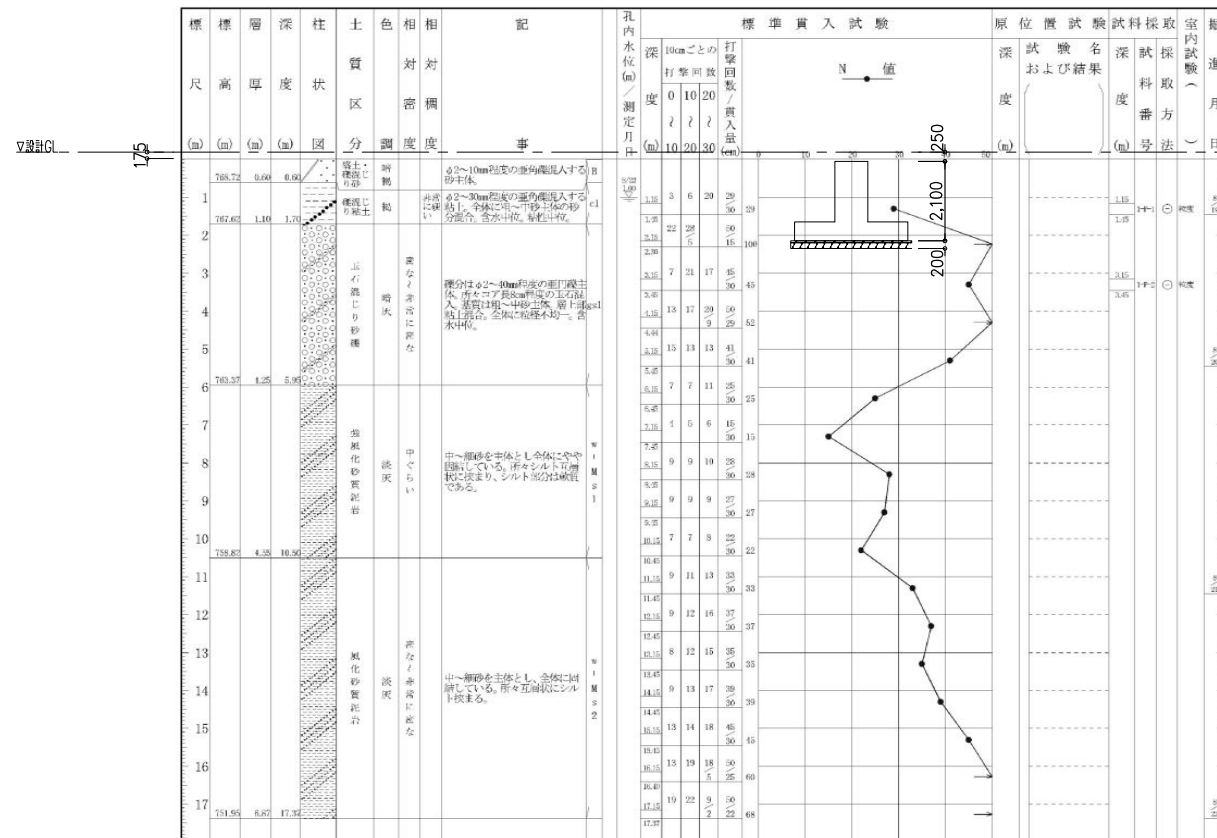
調 査 名 岡谷市川岸学園整備事業基本・実施設計業務

[illegible]

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 1		調査位置		長野県岡谷市川岸中一丁目1番1号・2号						北緯	36° 2' 46.6"	
発注機関	株式会社 エーシーエ設計				調査期間		2024年 8月 19日 ～ 2024年 8月 22日				東経	138° 1' 31.6"	
調査業者名	株式会社 土木資材総合試験場 電話(026-299-8559)		主任技術者		堀内 彰信	現代人	北島 沙枝	コシノ 定子	アベ 龍馬	坂田 沙枝	ボーリング責任者	小川 淳	
孔口標高	H=769.32m 17.37m		角	180°	方	85°	地盤勾配	水平0°	試錐機	D-C158		ハンマー落下用具 半自動動落装置	
総掘進長	度		下	180°	90°	方位	0°	エンジン	TF120		ポンプ	BG-3C	



No. 2
ボーリング位置
H=769.44

No. 1
ボーリング位置
H=769.32

接統棟

設計GL=769.495

表：株式会社エーシーエ設計
一級建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

理建築士 一級建築士登録
第222107号 湯本桂司

計者
級建築士登録 第222108号
造設計一級建築士登録 第1975号
小林好樹

査者 湯本桂司

当 小林

米山

Job No.	24078
工事名	

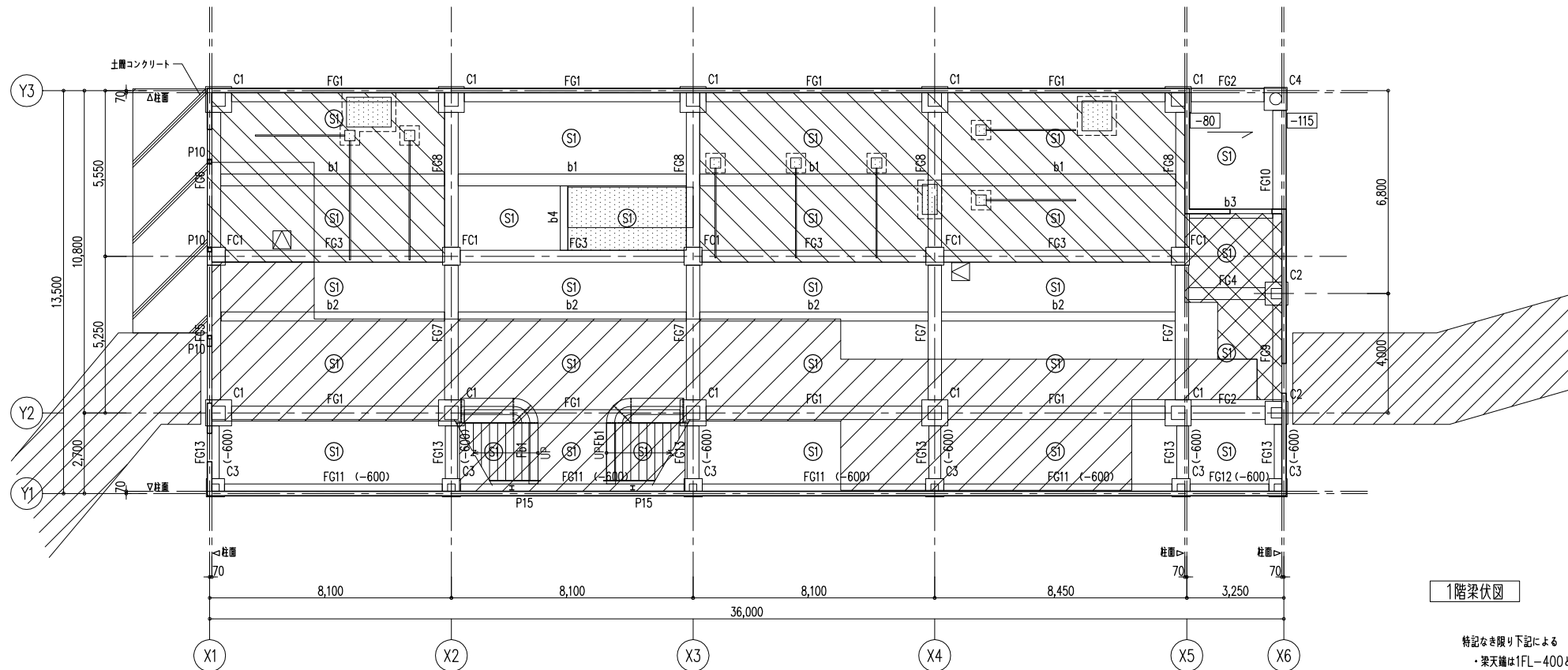
岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

発行日	2025.09.30
図面名称	

ボーリング柱状図

縮尺 -

S-015

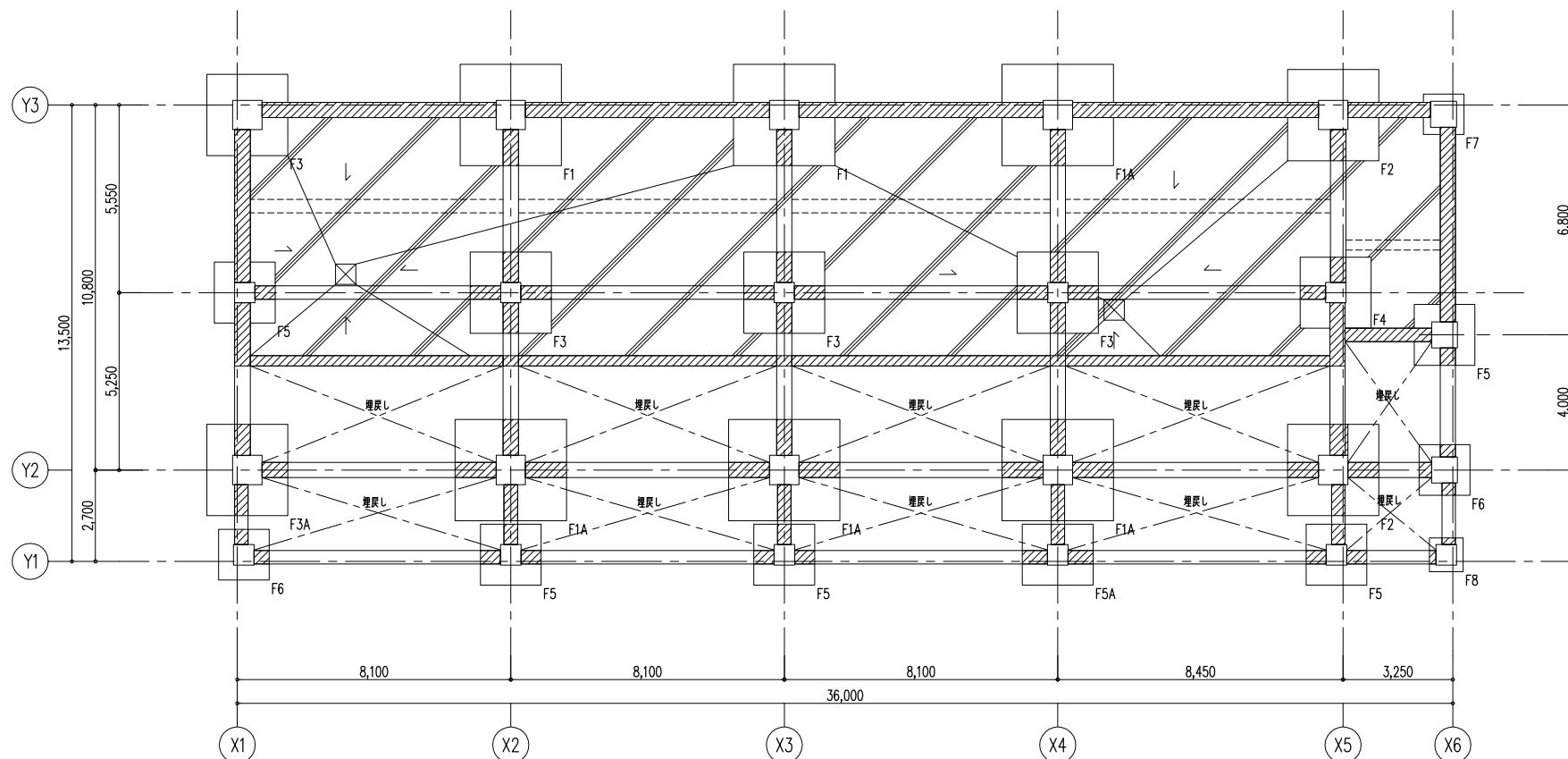


1階梁伏図

- 特記なき限り下記による
- ・梁天端は1FL-400とする
 - ・()内は1FLからの梁天端レベルを示す
 - ・□はシンダーコンクリートの排水溝を示す
 - ・△は床下点検口600×600を示す

コンクリート天端レベル凡例

□	コンクリート天端1FL-10
▨	コンクリート天端1FL-35
▩	コンクリート天端1FL-70
▧	コンクリート天端1FL-150
▦	コンクリート天端1FL-300



基礎・ピット伏図

- 特記なき限り下記による
- ・ピット天端は1FL-2,200
 - ・▨は梁下打増を示す
 - ・▩は土間コンクリート範囲を示す
 - ・▦は釜場600×600を示す

代表：株式会社エーシーエー設計
一般建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一般建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一般建築士登録 第222108号
構造設計一般建築士登録 第1975号
小林好子樹

検査者 湯本桂司

担当 小林

担当 米山

Job No. 24078
工事名

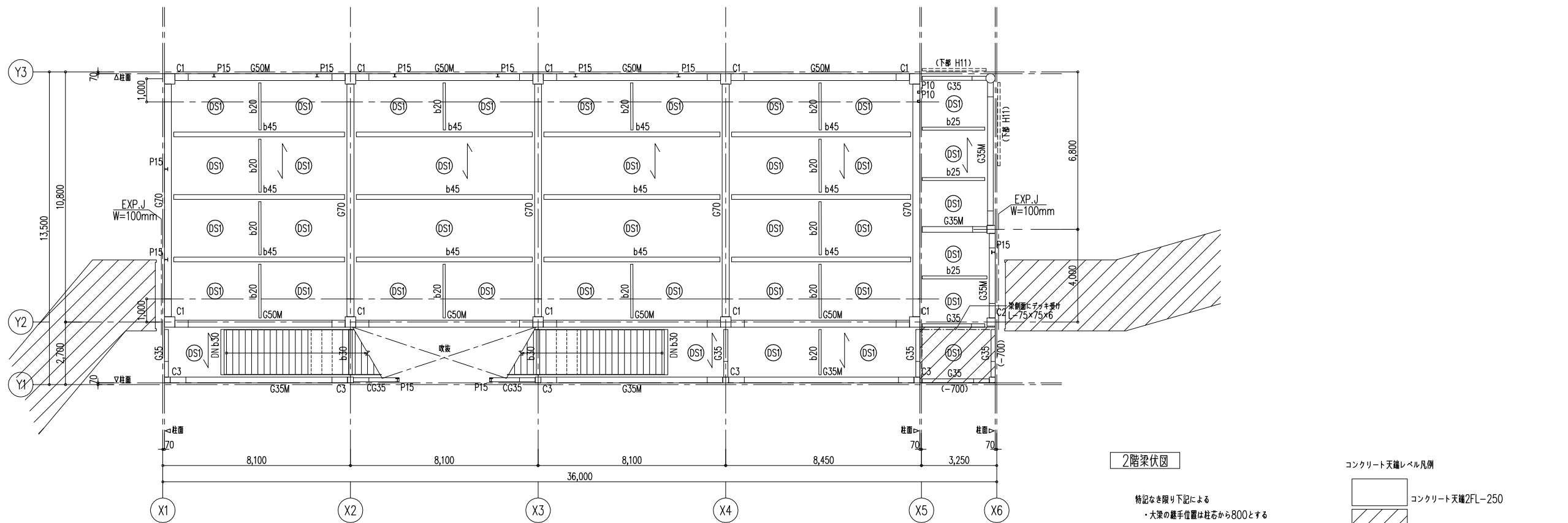
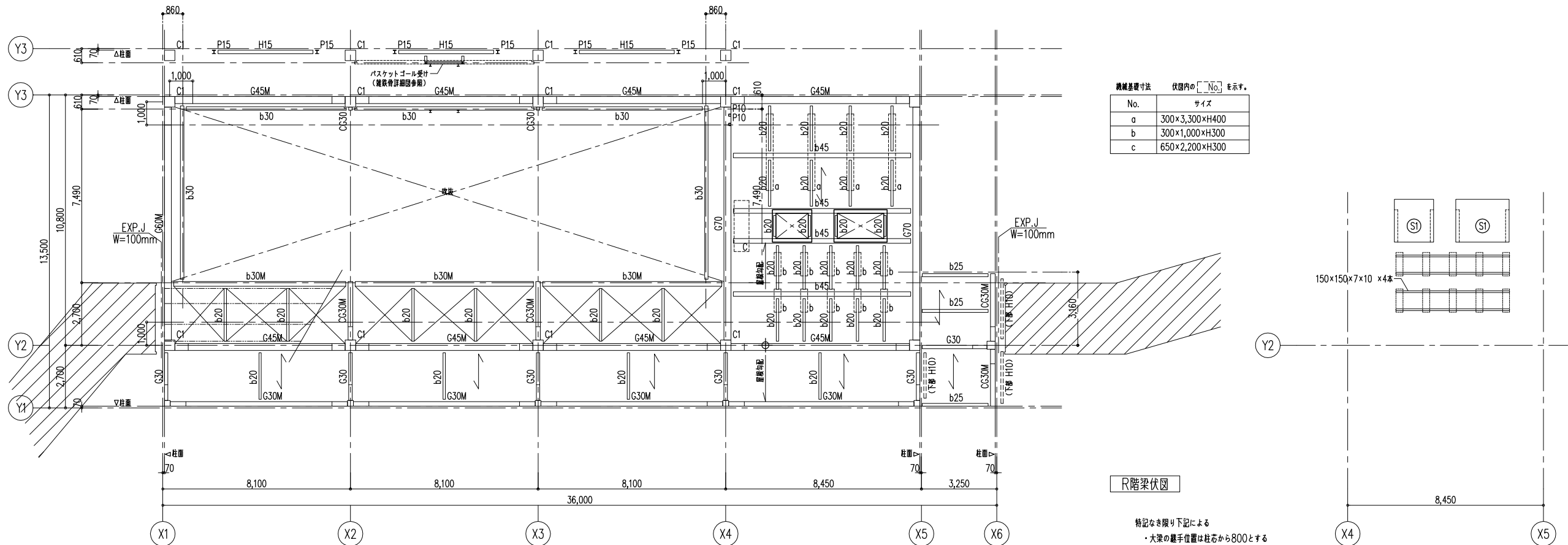
岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

発行日 2025.09.30
図面名称

【接続棟】
基礎・ピット伏図,1階梁伏図

縮尺 A1:1/100,A3:1/200

S-016 入札用
25.09.30



代表：株式会社エーシーエー設計
一般建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一般建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一般建築士登録 第222108号
構造設計一般建築士登録 第1975号
小林好樹

検査者 湯本桂司

担当 小林

担当 米山

Job No. 24078
工事名

岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

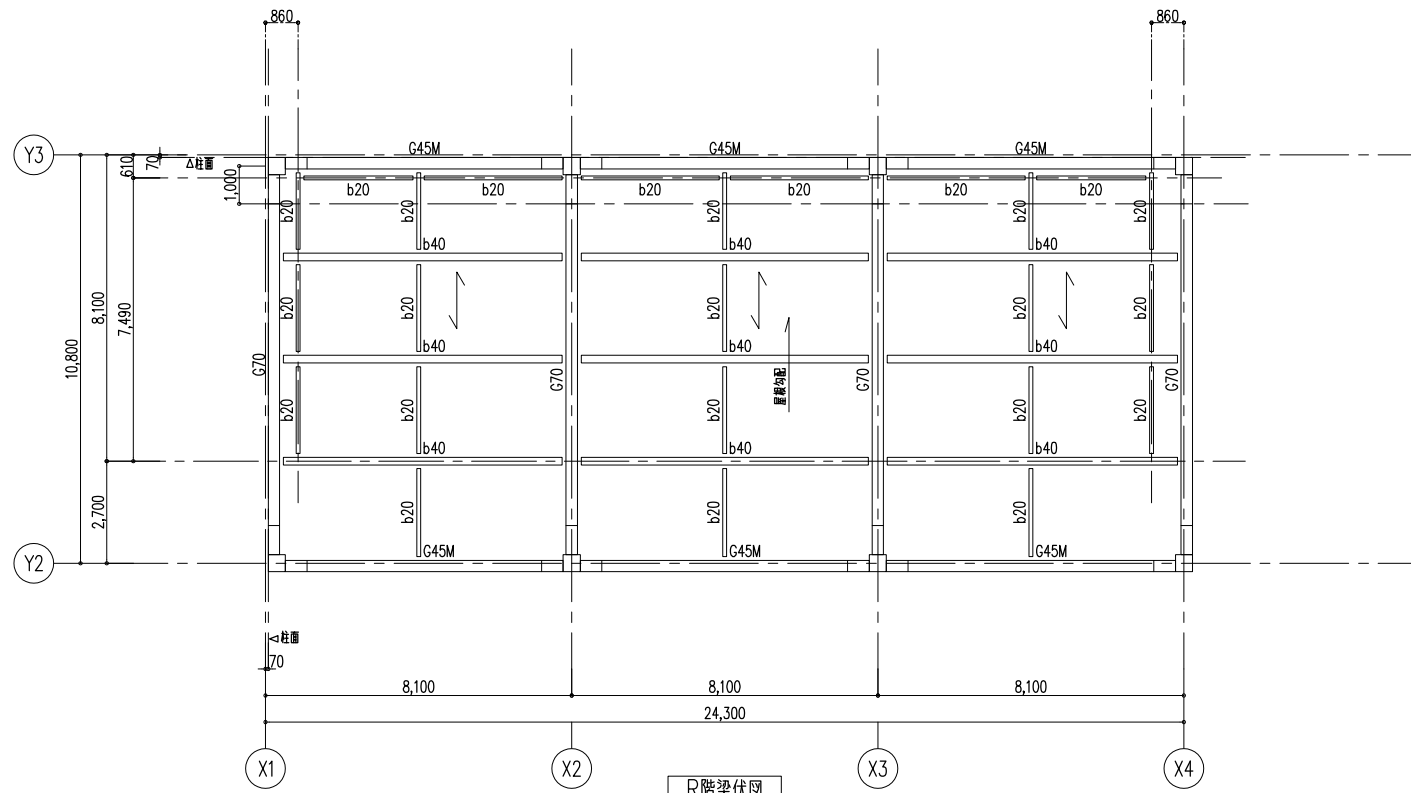
発行日 2025.09.30
図面名称

【接続棟】
2階梁伏図, R階梁伏図

縮尺 A1:1/100, A3:1/200

S-017

入札用
25.09.30

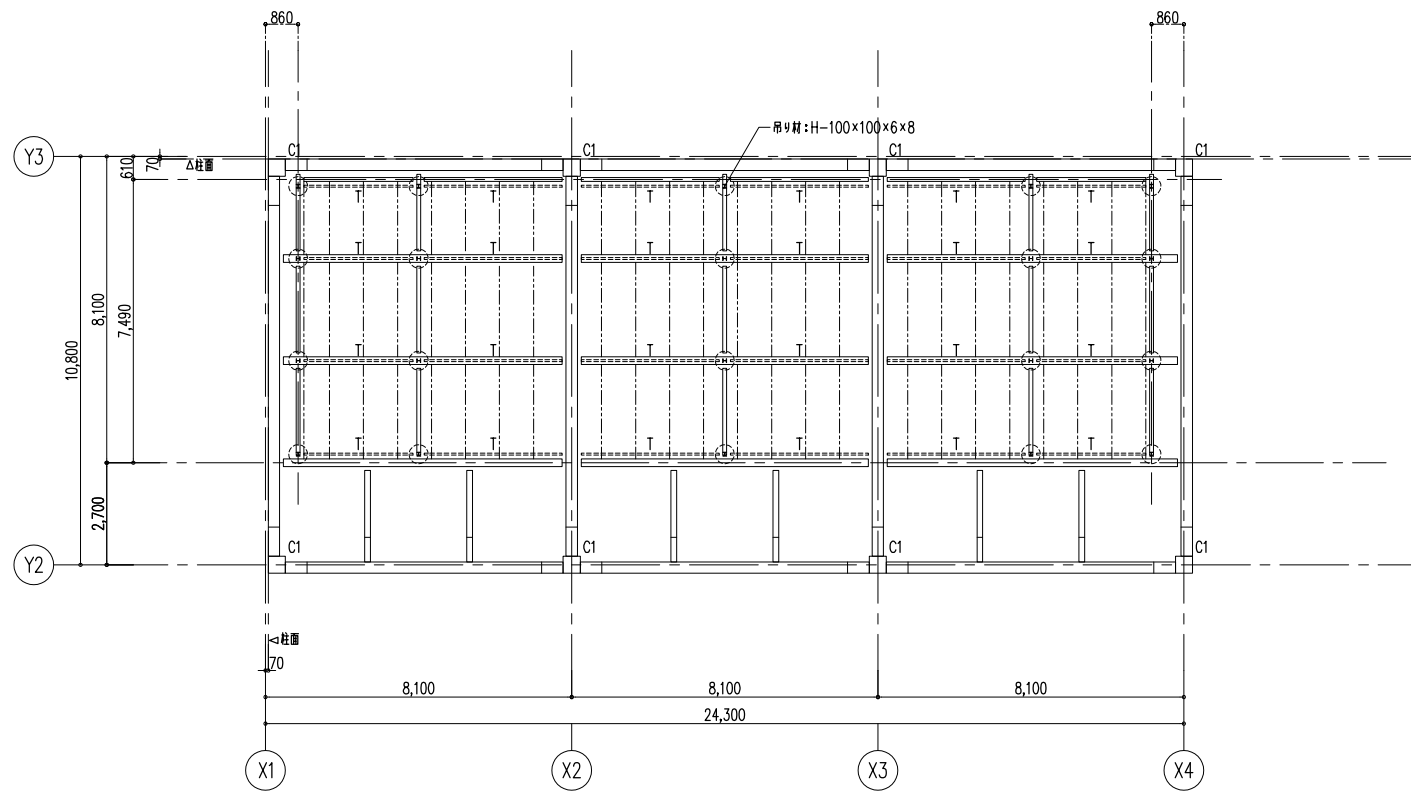


R階梁伏図

特記なき限り下記による

- ・大梁の継手位置は柱芯から800とする
- ・——はデッキプレート方向を示す

QL99-50-12 コンクリート山土80



天井下地伏図

特記なき限り下記による

- ・大梁の継手位置は柱芯から600とする
- ・——はC-100×50×20×2.3@900

代表：株式会社エーシーエー設計
一般建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一般建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一般建築士登録 第222108号
構造設計一般建築士登録 第1975号
小林好樹

検査者 湯本桂司

担当 小林

担当 米山

Job No. 24078
工事名

岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

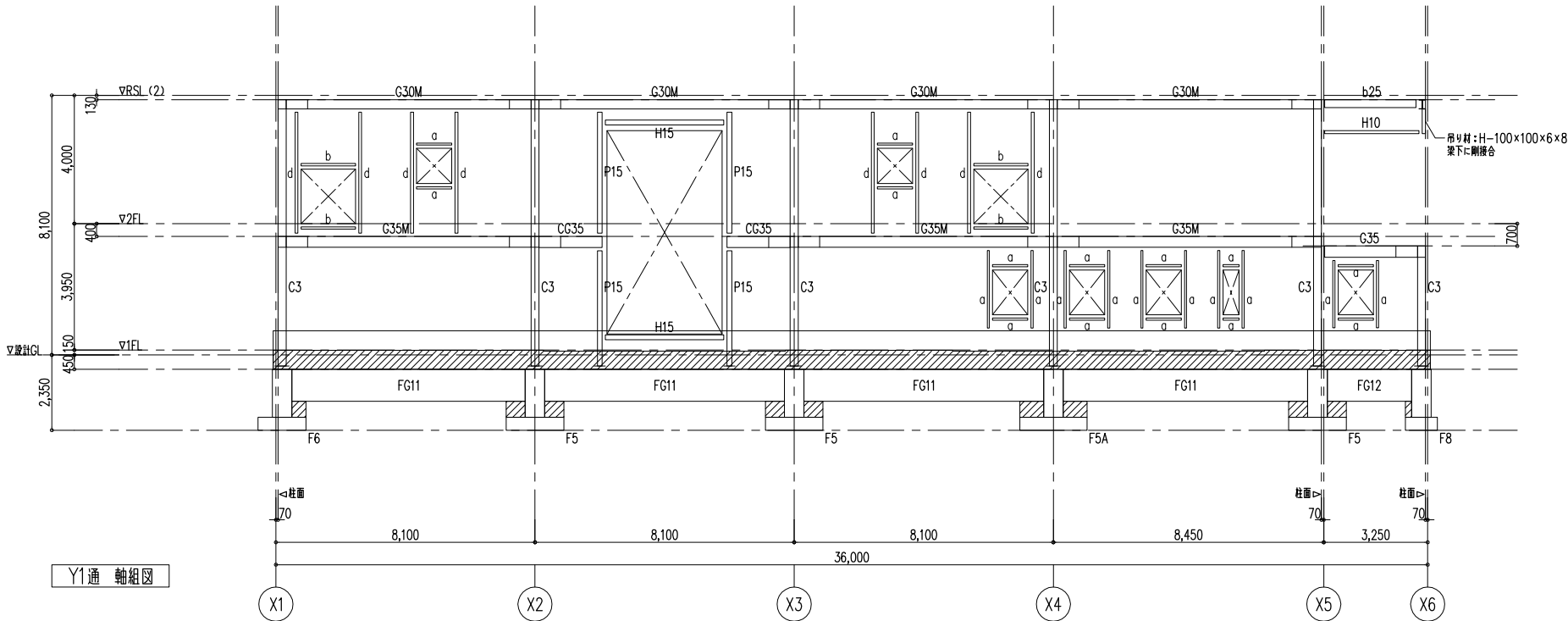
発行日 2025.09.30
図面名称

【接続棟】
天井下地伏図, R階梁伏図

縮尺 A1:1/100, A3:1/200

S-018 入札用
25.09.30

壁開口補強材		
符号	部材	備考
a	L-65×65×6	外壁工事
b	L-75×75×6	外壁工事
c	L-75×75×9	取付工事
d	L-90×90×7	取付工事



特記なき限り下記による
・大梁の取手位置は柱芯から800とする

代表：株式会社エーシーエ設計
一般建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一般建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一般建築士登録 第222108号
構造設計一般建築士登録 第1975号
小林好子樹

検査者 湯本桂司

担当 小林

担当 米山

Job No. 24078
工事名

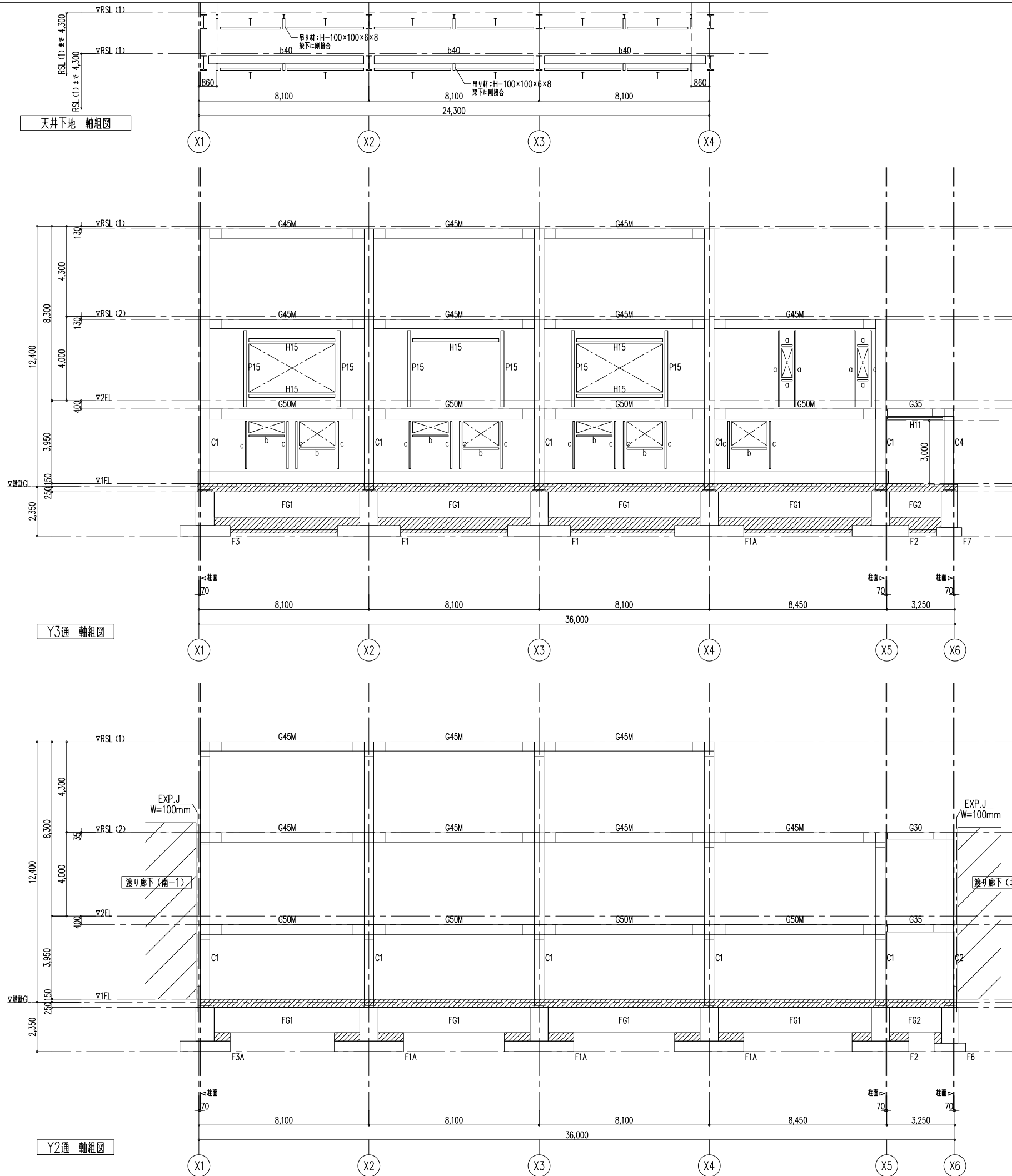
岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

発行日 2025.09.30
図面名称

【接続棟】
軸組図 (1)

縮尺 A1:1/100,A3:1/200

S-019 入札用
25.09.30



壁開口補強材		
符号	部材	備考
a	L-65×65×6	外壁工事
b	L-75×75×6	外壁工事
c	L-75×75×9	数寄工事
d	L-90×90×7	数寄工事

代表：株式会社エーシーエー設計
一般建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一般建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一般建築士登録 第222108号
構造設計一般建築士登録 第1975号
小林好樹

検査者 湯本桂司

担当 小林

担当 米山

Job No. 24078
工事名

岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

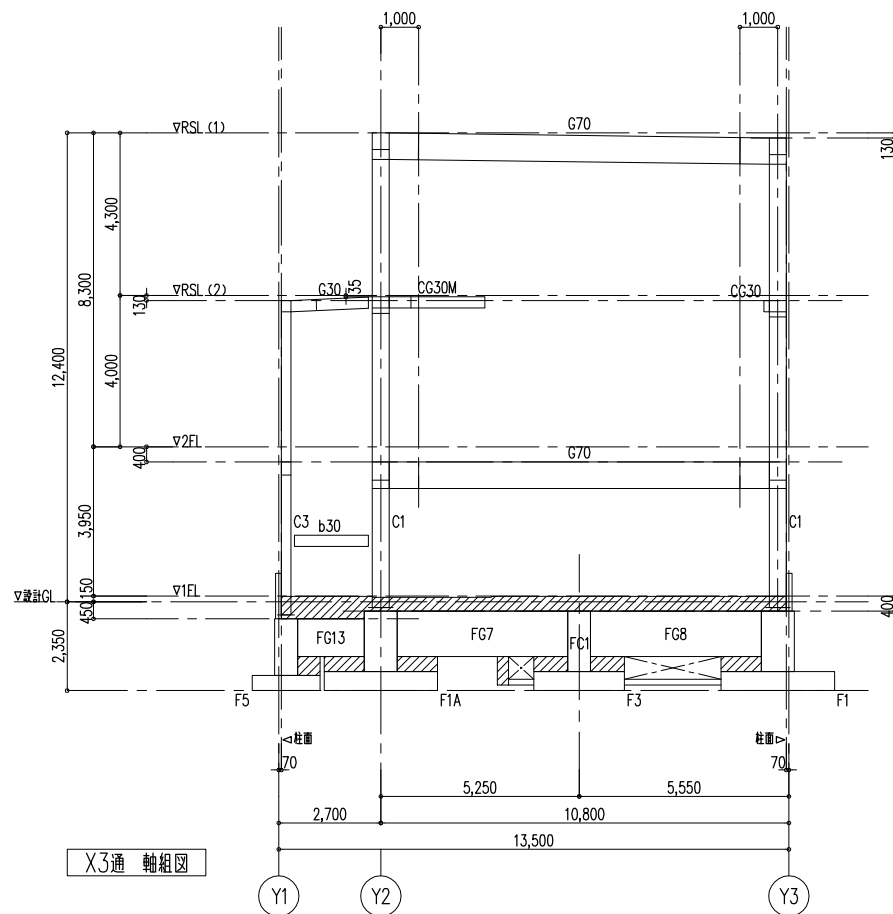
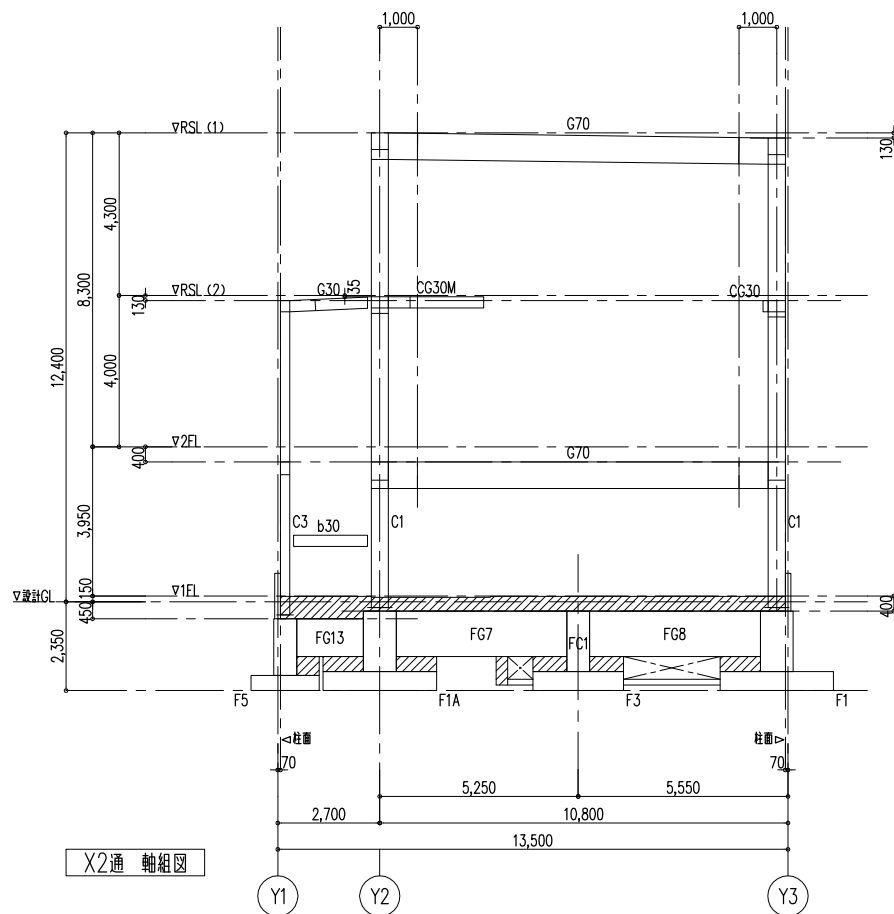
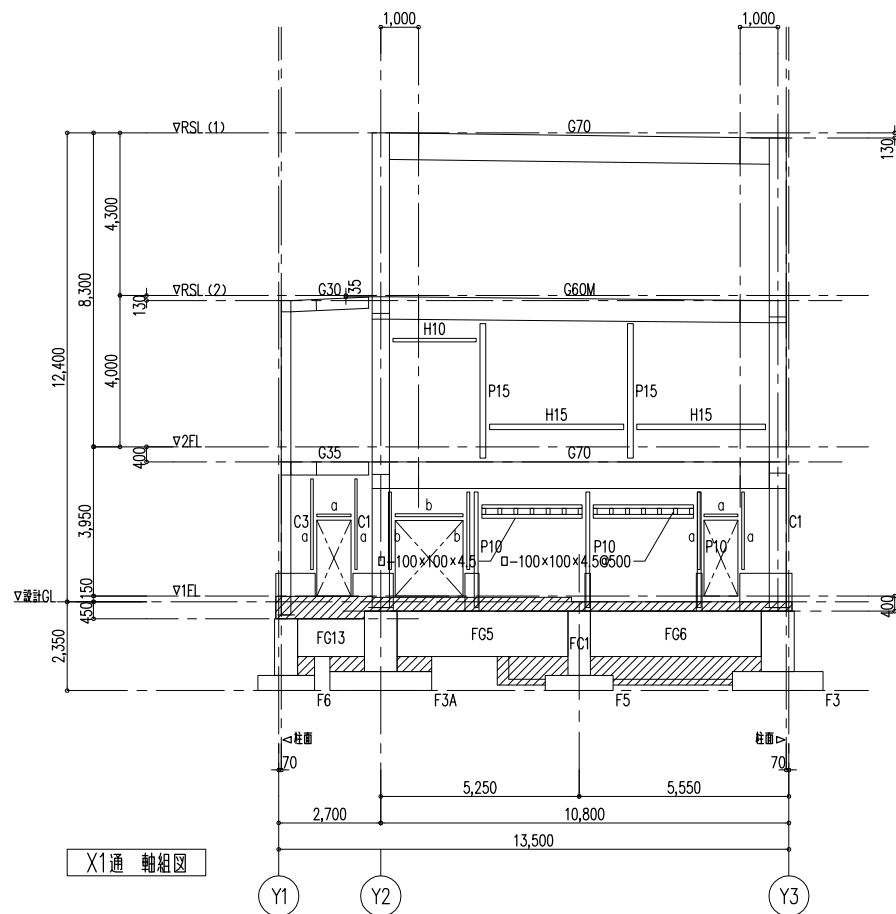
発行日 2025.09.30
図面名称

【接続棟】
軸組図 (2)

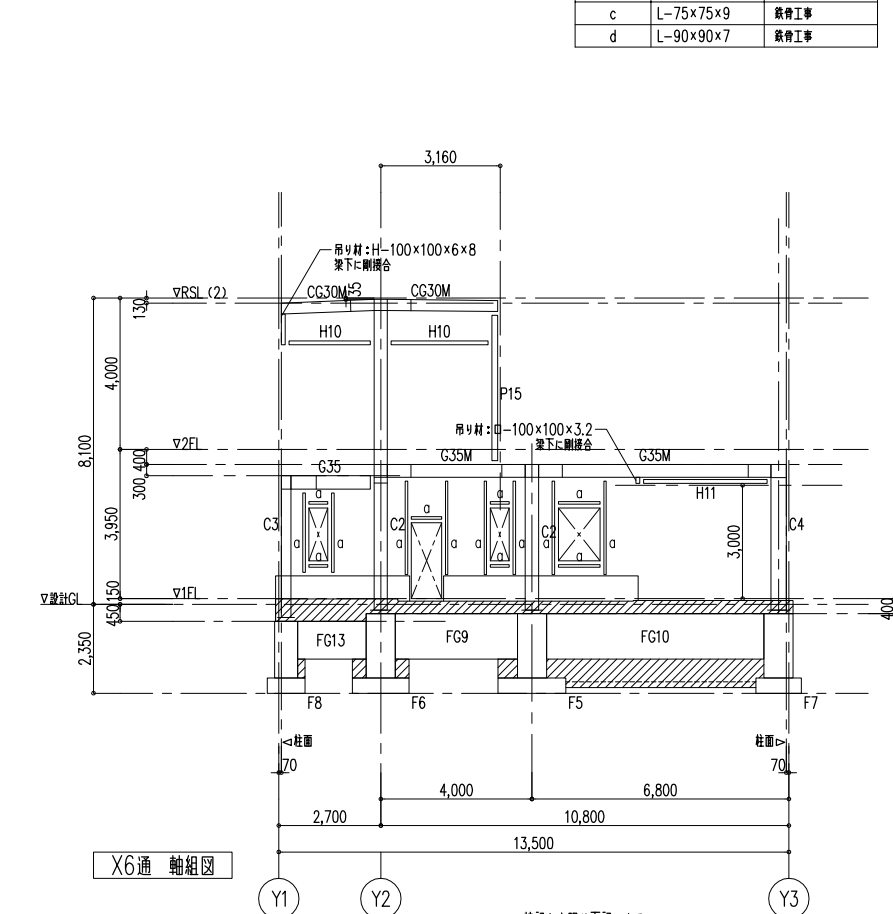
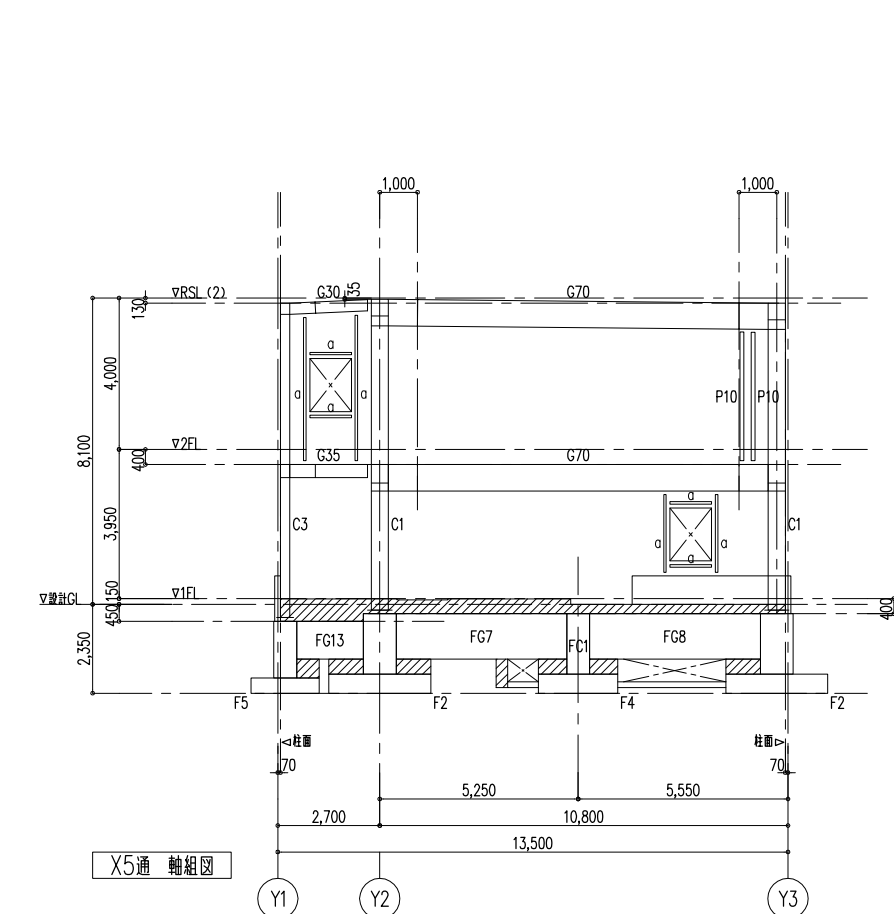
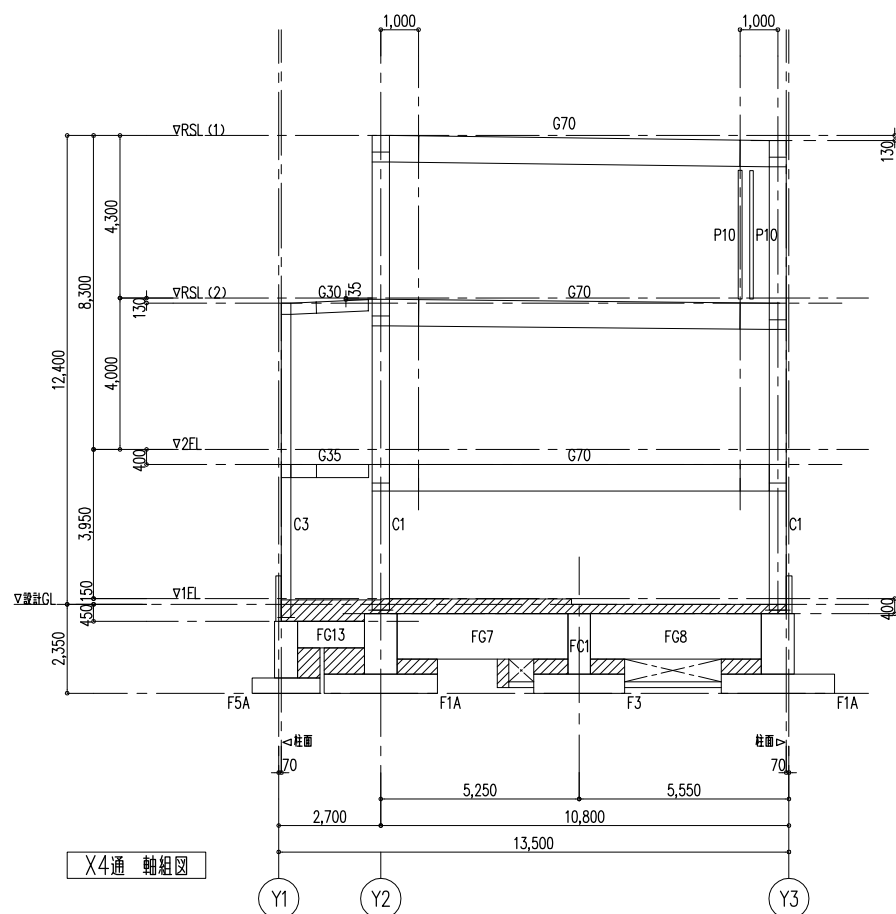
縮尺 A1:1/100,A3:1/200

S-020

入札用
25.09.30



壁開口補強材		
符号	部材	備考
a	L-65×65×6	外壁工事
b	L-75×75×6	外壁工事
c	L-75×75×9	既存工事
d	L-90×90×7	既存工事



特記なき限り下記による
・大梁の継手位置は柱芯から800とする

代表：株式会社エーシーエー設計
一般建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一般建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一般建築士登録 第222108号
構造設計一般建築士登録 第1975号
小林好樹

検査者 湯本桂司

担当 小林

担当 米山

Job No. 24078
工事名

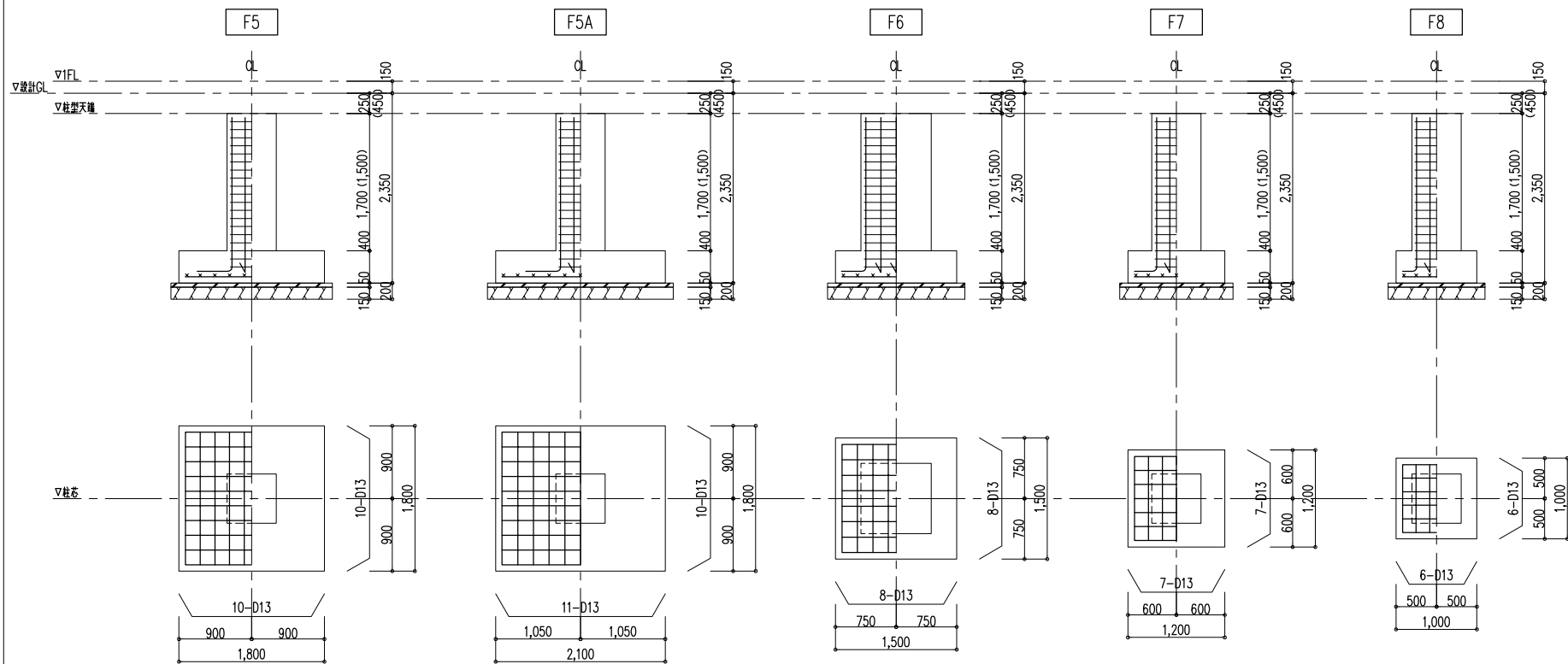
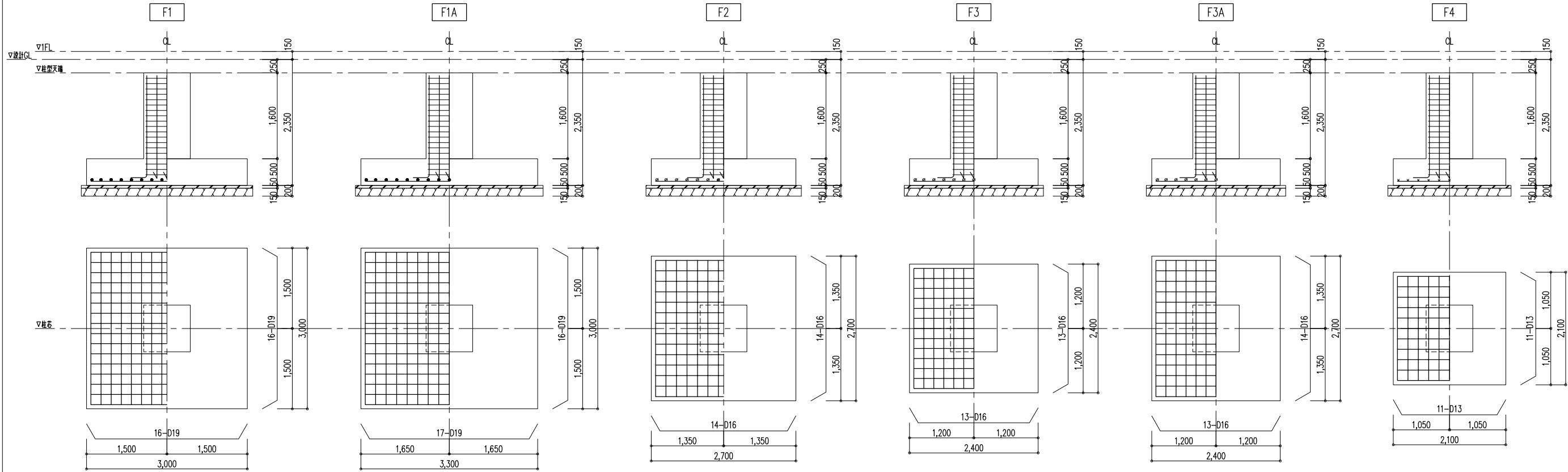
岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

発行日 2025.09.30
図面名称

【接続棟】
軸組図 (3)

縮尺 A1:1/100,A3:1/200

S-021 入札用
25.09.30



代表：株式会社エーシーエ設計
一般建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一般建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一般建築士登録 第222108号
構造設計一般建築士登録 第1975号
小林好樹

検査者 湯本桂司

担当 小林

担当 米山

Job No. 24078
工事名

岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

発行日 2025.09.30
図面名称

【接続棟】
RC部材リスト (1)

縮尺 A1:1/ 40,A3:1/ 80

S-022

入札用
25.09.30

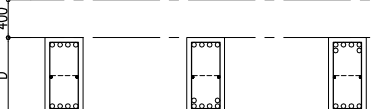
基礎梁リスト S=1/40

符 号	FC1	FC2	FC3	FC4	FC5	FC6	FC7	FC8	FC9	FC10	FC11	FC12	FC13
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面													
	B x D	450 x 1,200	450 x 1,200	400 x 1,000	400 x 1,000	450 x 1,200	450 x 1,200	450 x 1,200	450 x 1,200	450 x 1,200	400 x 1,000	400 x 1,000	400 x 1,000
	上 端 筋	4-D25	3-D25	4-D25	3-D25	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	下 端 筋	4-D25	3-D25	4-D25	3-D25	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	スターラップ	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
腹 筋	6-D13	6-D13	4-D13	4-D13	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13	4-D13	4-D13	4-D13

スラブリスト

符号	厚さ	位置	短辺方向	長辺方向	備考
S1	150	上端筋	D10・D13-@200	D10・D13-@200	
		下端筋	D10-@200	D10-@200	
DS1	150	上端筋	D10・D13-@200	D10・D13-@200	型枠デッキ使用
		下端筋	D10-@200	D10-@200	
土間コン	150	上端筋	D10-@200	D10-@200	ビット
		下端筋	-	-	

小梁リスト S=1/40

符 号	b1			b2	b3	b4	Fb1
位 置	X1,X5端	中央	他端	全断面	全断面	全断面	
断 面							
	B x D	400 x 800			300 x 1,200	300 x 500	250 x 450
上 端 筋	4-D22	4-D22	6-D22	3-D22	3-D22	2-D22	3-D22
下 端 筋	4-D22	6-D22	4-D22	3-D22	3-D22	2-D22	3-D22
スターラップ	□-D13@200			□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200
腹 筋	2-D10			6-D10	-	-	-

柱型リスト S=1/40

符号	C1	C2	C3	C4	C5	FC1
上部 増打部						
	Dx×Dy	870×870	770×770	610×610	770×770	570×570
	主筋	12-D16	12-D16	8-D16	12-D16	8-D16
	HOOP	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150
断面						
	Dx×Dy	870×870	770×770	610×610	770×770	570×570
	主筋	16-D25	16-D25	12-D19	16-D25	8-D16
	HOOP	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150

雑配筋詳細図

設備機器基礎		ハト小屋			

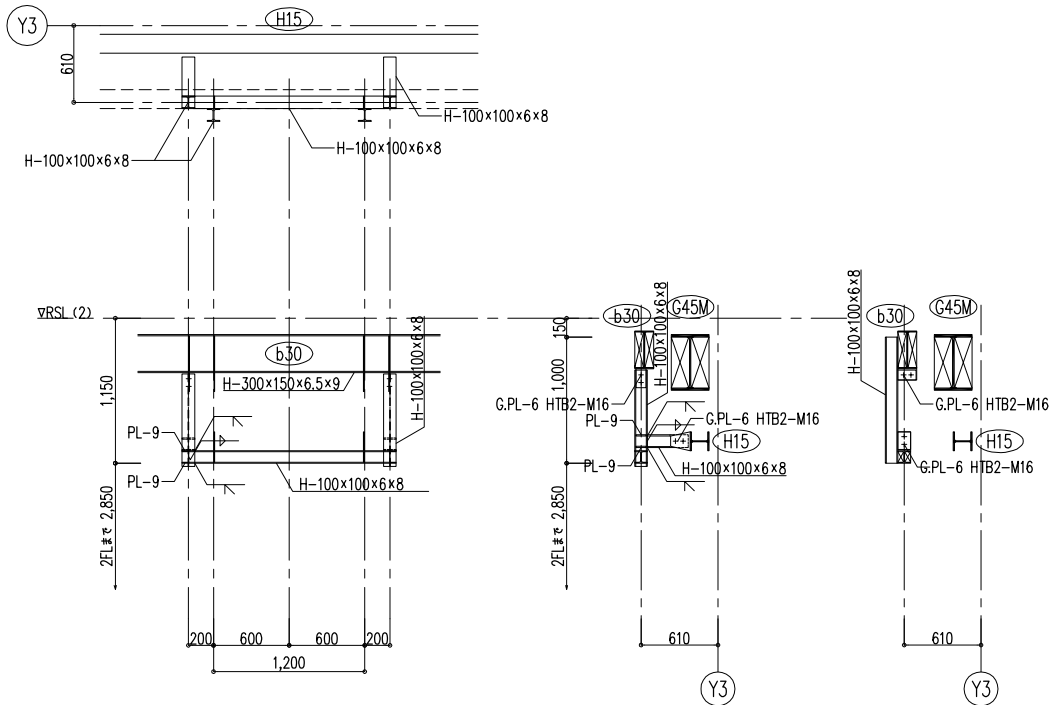
雜鉄骨詳細図

・<@>は標準@60以外の場合を示す

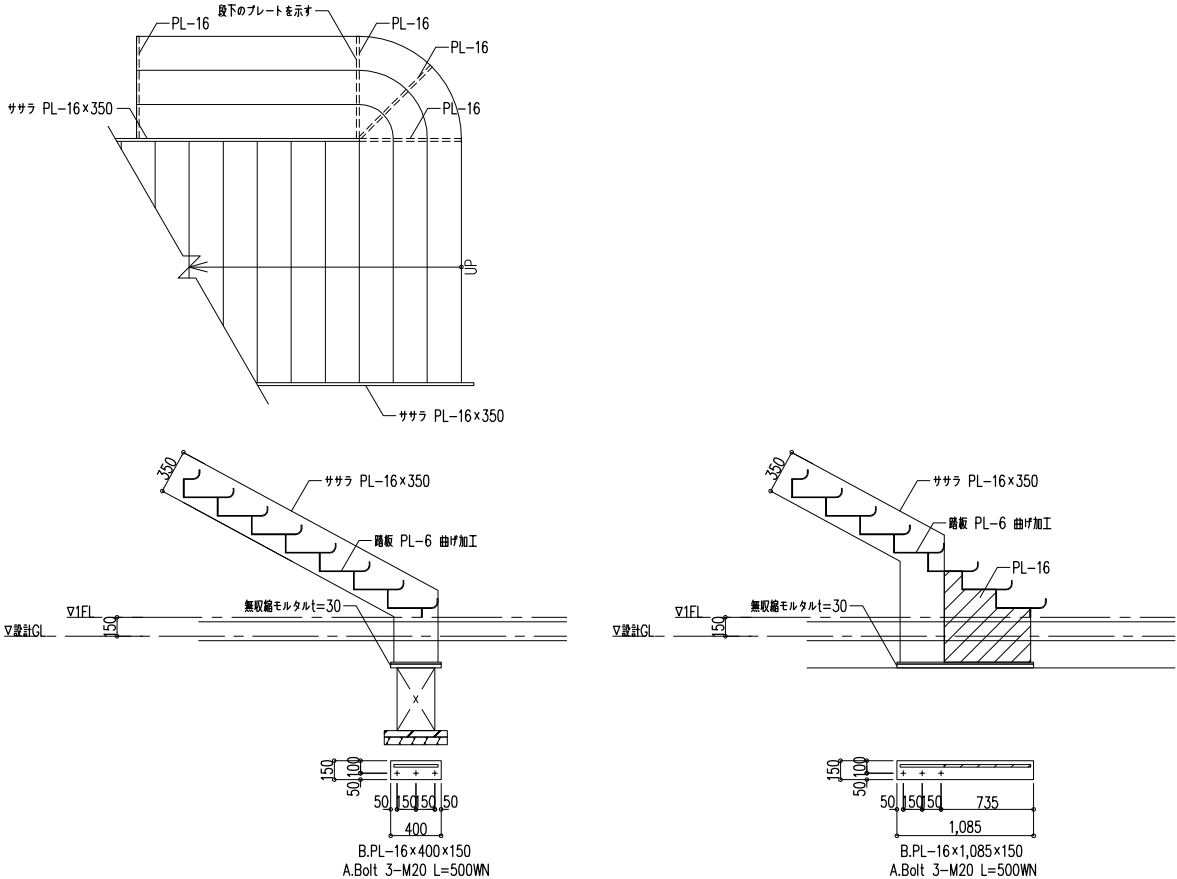
縮尺 A1:1/ 30,A3:1/ 60

雑鉄骨詳細図

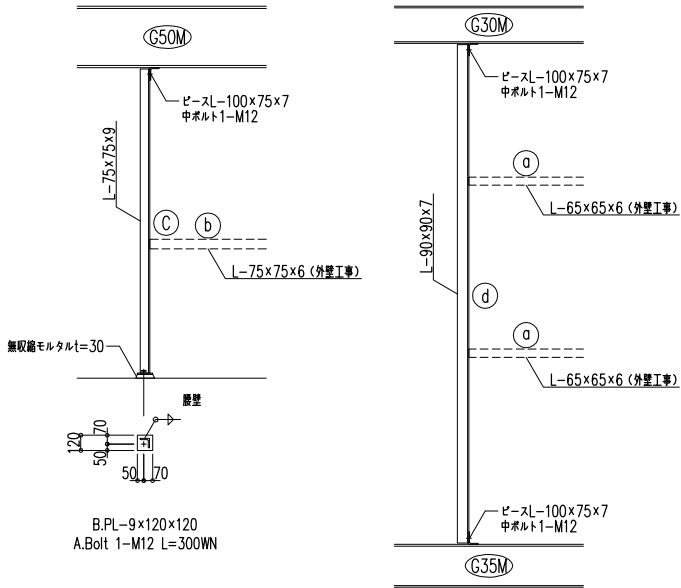
バスケットゴール受け



内部階段



壁開口補強



代表：株式会社エーシーエー設計
一般建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一般建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一般建築士登録 第222108号
構造設計一般建築士登録 第1975号
小林好樹

検査者 湯本桂司

担当 小林

担当 米山

Job No. 24078
工事名

岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

発行日 2025.09.30
図面名称

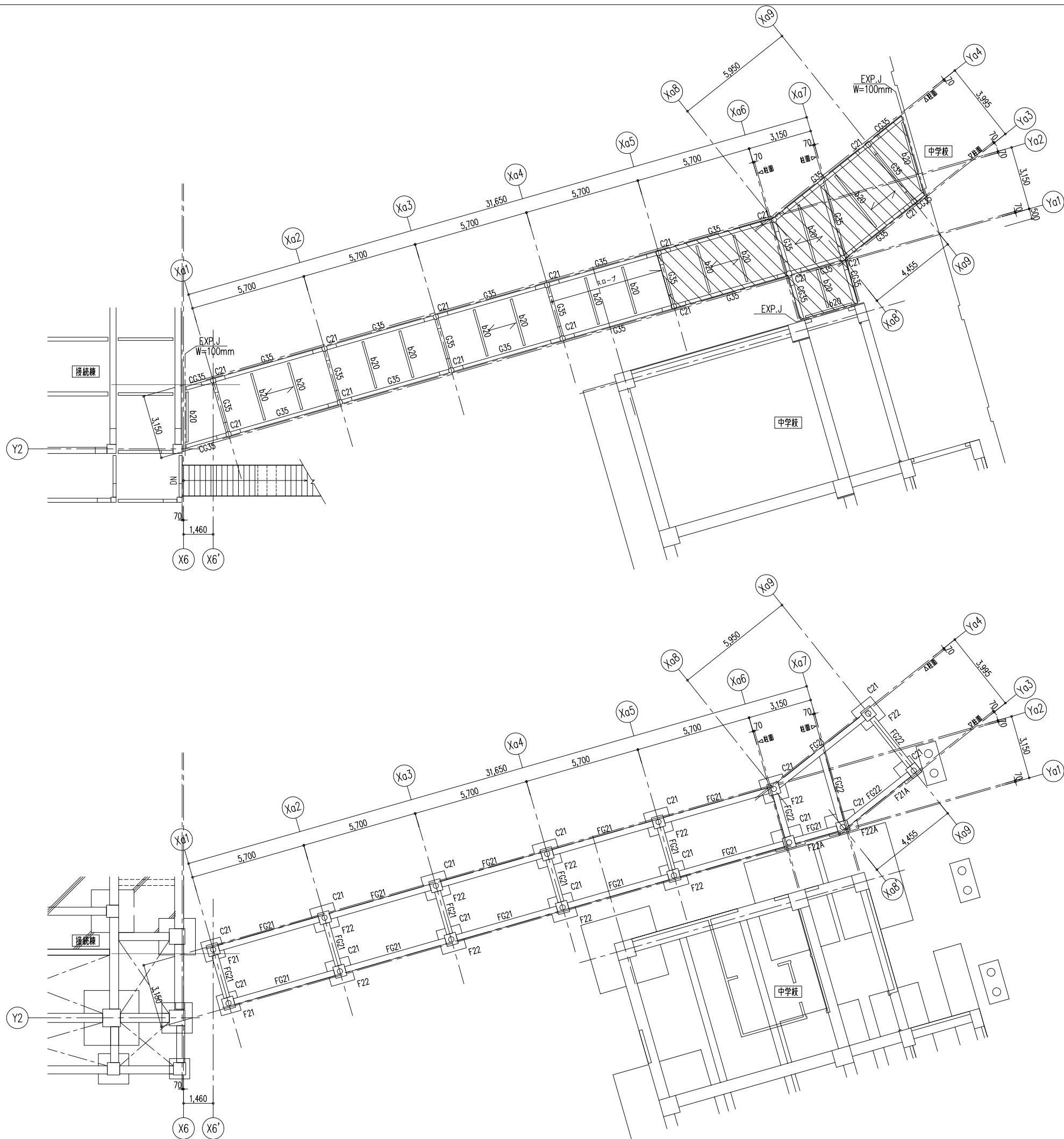
【接続棟】
雑鉄骨詳細図(2)

縮尺 A1:1/ 30,A3:1/ 60

S-025

入札用
25.09.30





2階梁伏図

特記なき限り下記による
・大梁の継手位置は柱芯から600とする
・はデッキ方向を示す
QL99-50-12 コンクリート山土80

コンクリート天端レベル凡例

	コンクリート天端 接続棟2FL-35
	梁天端 接続棟2FL-165
	コンクリート天端 接続棟2FL-270
	梁天端 接続棟2FL-400

1階梁伏図

特記なき限り下記による
・梁天端は接続棟1FL-885とする

代表：株式会社エー・シー・設計
一般建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一般建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一般建築士登録 第222108号
構造設計一般建築士登録 第1975号
小林好樹

検査者 湯本桂司

担当 小林

担当 米山

Job No. 24078
工事名

岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

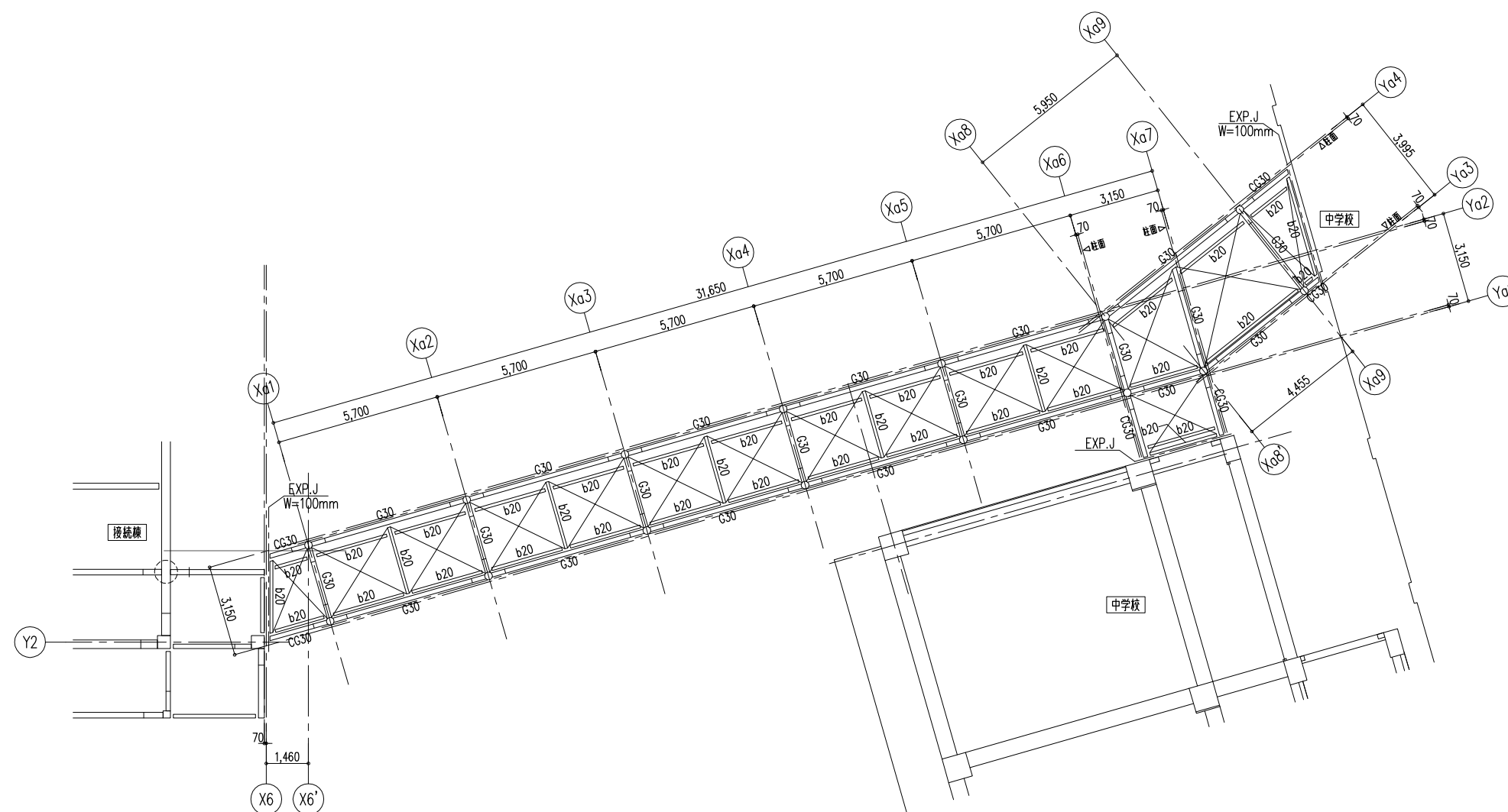
発行日 2025.09.30
図面名称

【渡り廊下(北)】
1階梁伏図, 2階梁伏図

縮尺 A1:1/100, A3:1/200

S-027

入札用
25.09.30



R階梁伏図

特記なき限り下記による

- ・大梁の継手位置は柱芯から600とする
- ・鉄骨天端はRFL-250とする
- ・水平ブレースはM16とする

代表：株式会社エーシーエ設計
一級建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一級建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一級建築士登録 第222108号
構造設計一級建築士登録 第1975号
小林好樹

検査者	湯本桂司
-----	------

担当	小林
----	----

担当	米山
----	----

Job No.	24078
工事名	

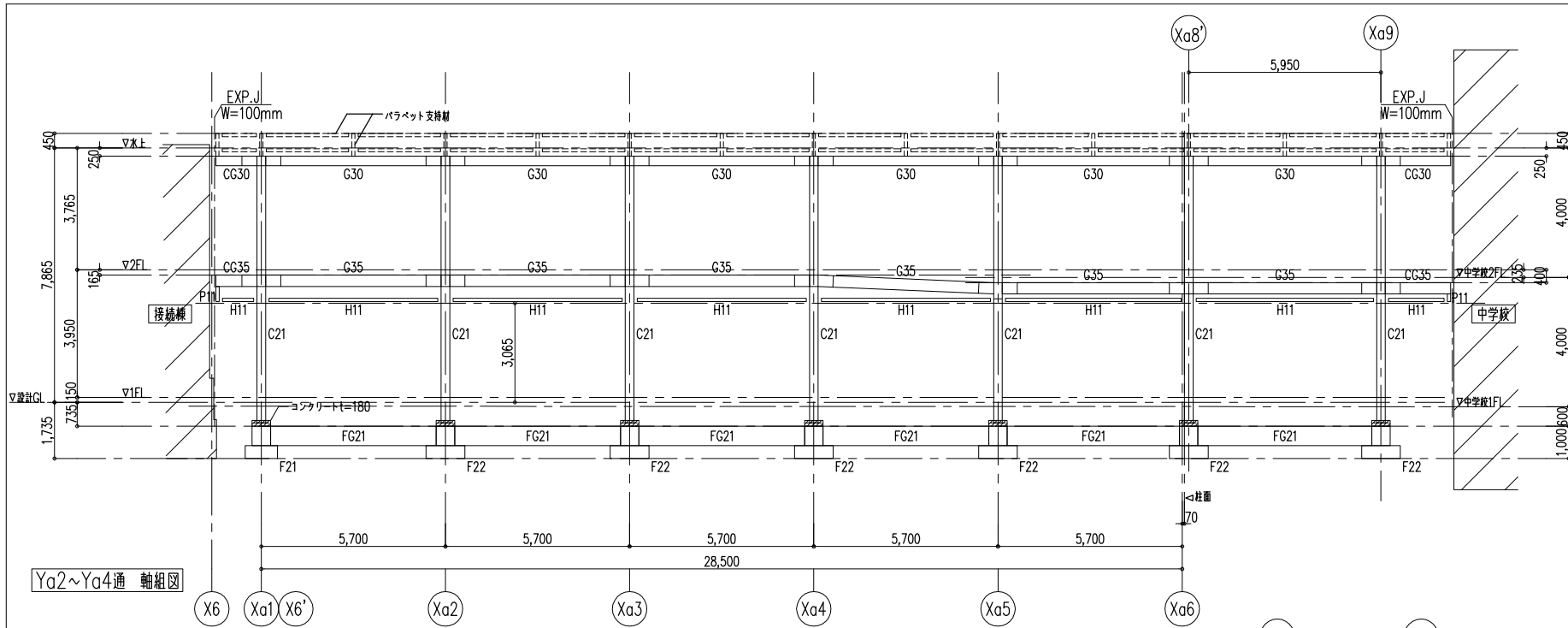
岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

発行日 2025.09.30

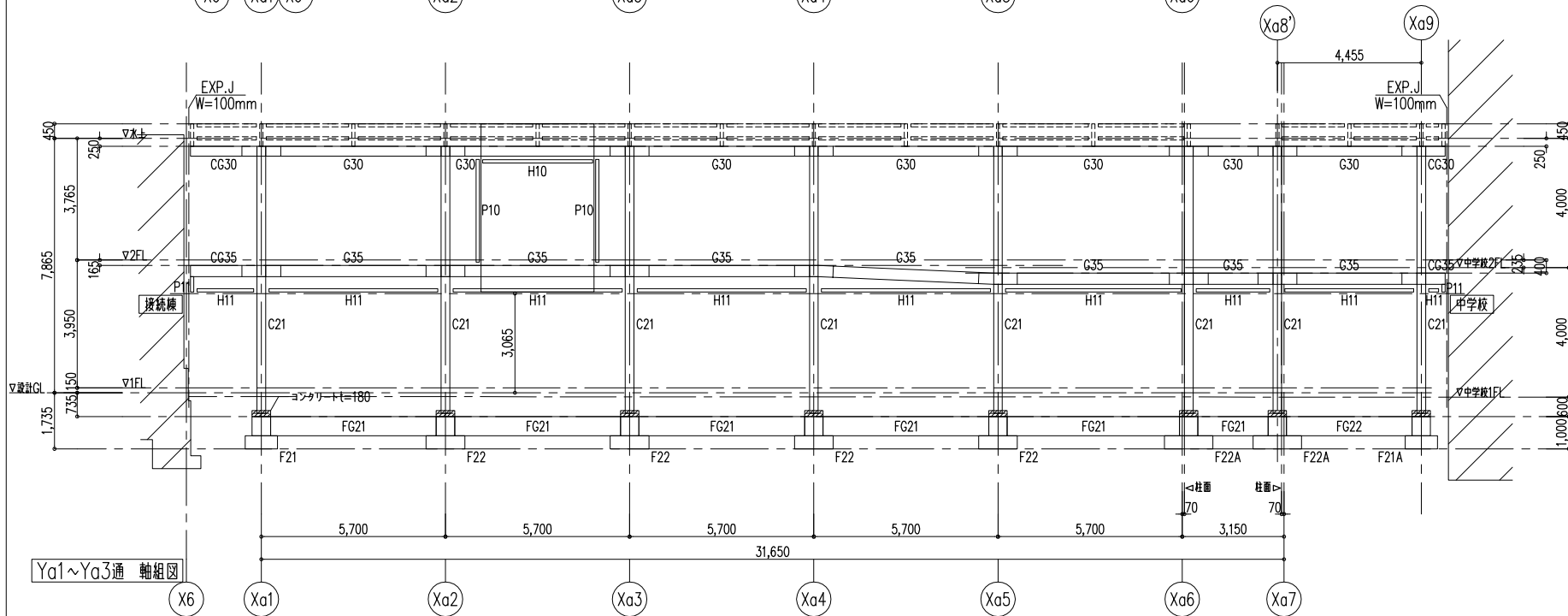
【渡り廊下（北）】
R階梁伏図

縮尺 A1:1/100,A3:1/200

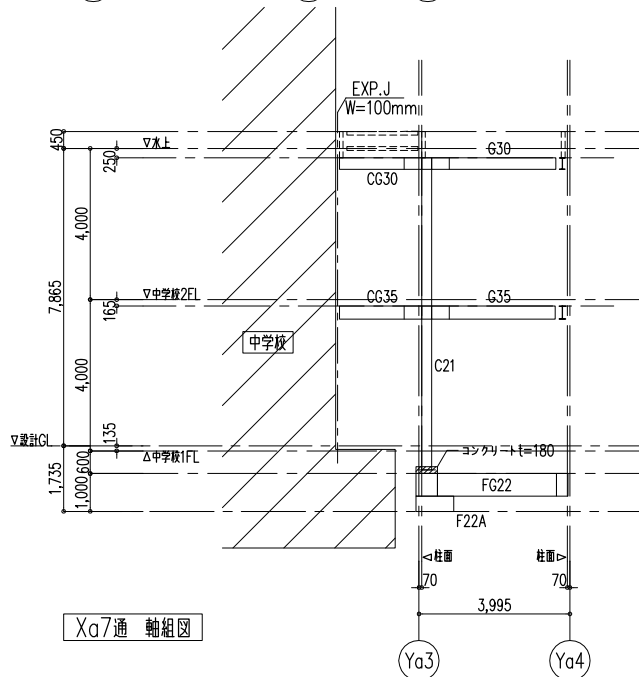
S-028



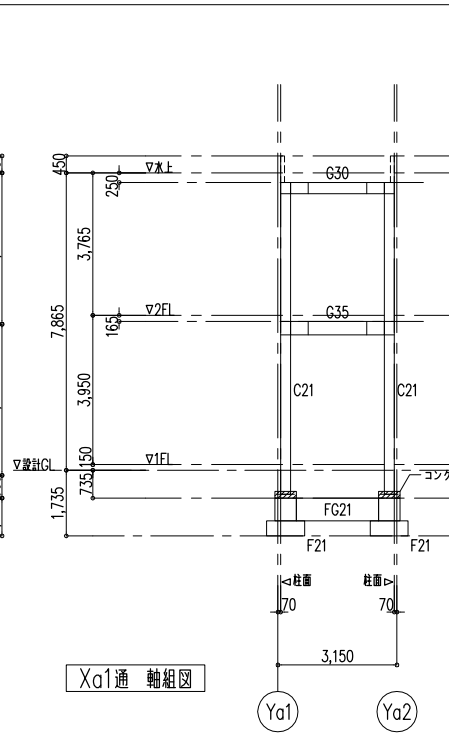
Ya2~Ya4通 軸組図



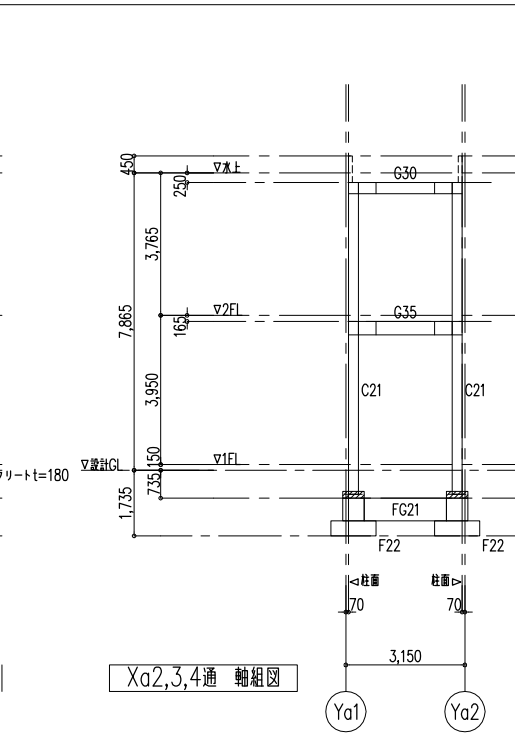
Ya1~Ya3通 軸組図



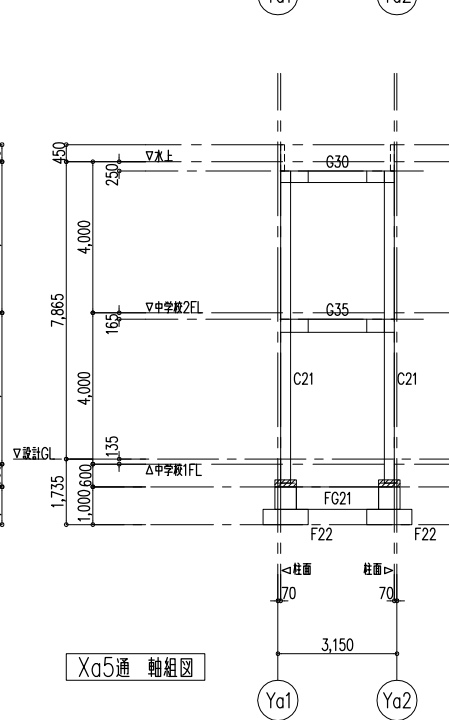
Xa7通 軸組図



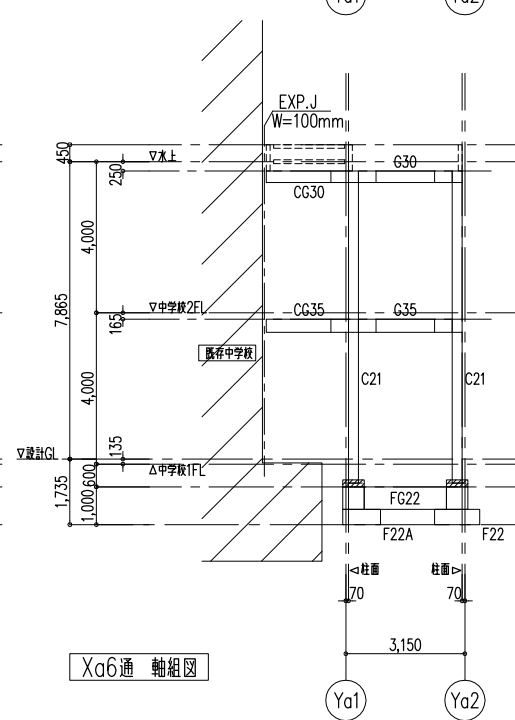
Xa1通 軸組図



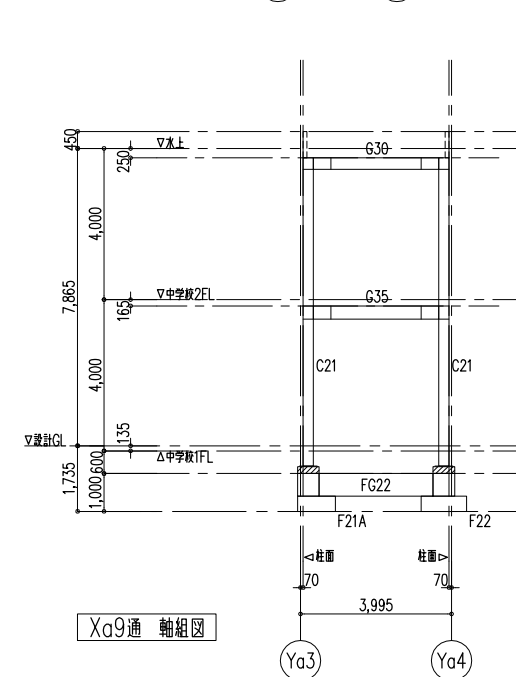
Xa2,3,4通 軸組図



Xa5通 軸組図

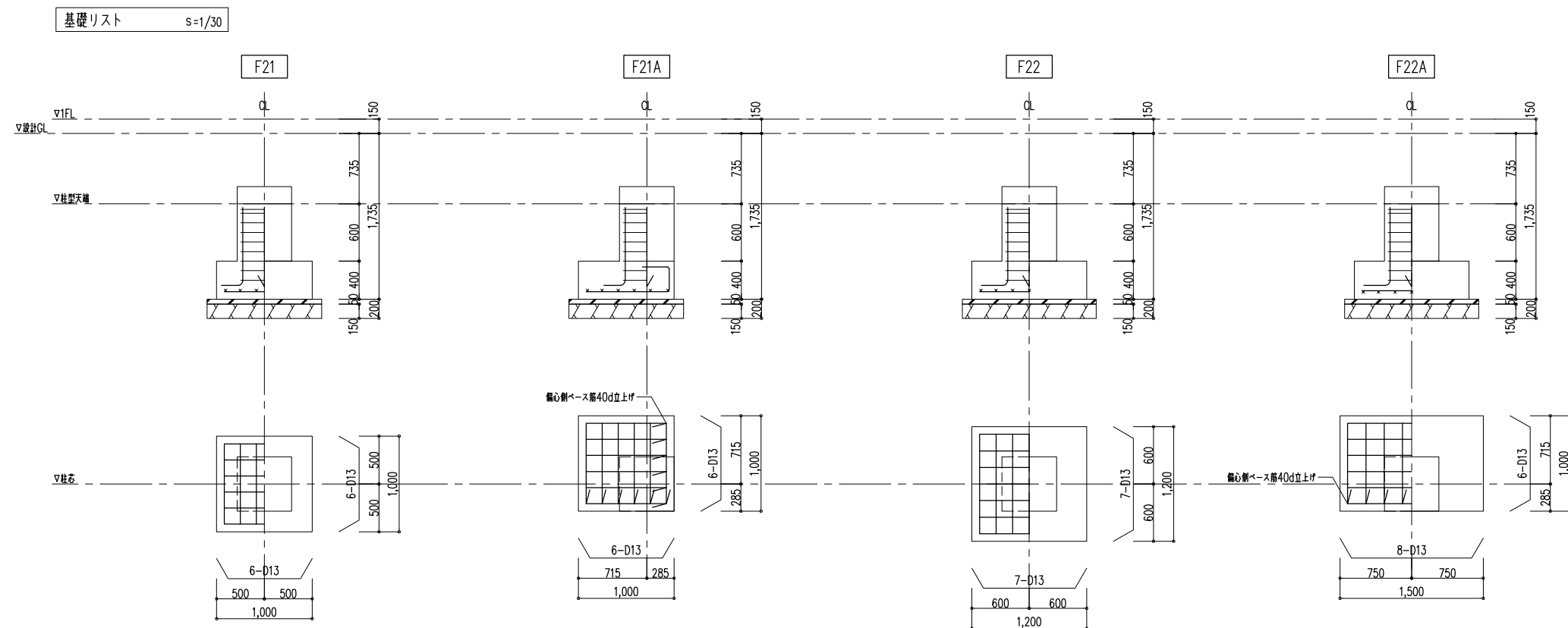


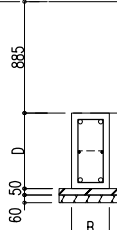
Xa6通 軸組図

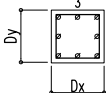


Xa9通 軸組図

特記なき限り下記による
・大梁の裏手位置は柱芯から600とする
・c===== は 100×100×2.3を示す



基礎梁リスト		S=1/30	・巾止筋はD10-@1000以内とする
記号	FG21	FG22	
位置	全断面	全断面	
断面			
B×D	300×600	300×600	
上端筋	2-D22	3-D22	
下端筋	2-D22	2-D22	
腰筋	2-D10	2-D10	
スターラップ	□-D10@200	□-D10@200	

柱型リスト		s=1/30
符号	C21	
上部増打部		
Dx×Dy	570×570	
主筋	8-D16	
H00P	□-D10@150	
断面		
Dx×Dy	570×570	
主筋	8-D16	
H00P	□-D13@150	

小梁ジョイントタイプ

■バックスタフナはGPL同等とす。
 但し、200以内の位置にGPLが
 バックスタフナ側にある場合は不要とする。

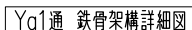
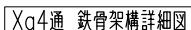
(A) バックスタフナ ■ GPL

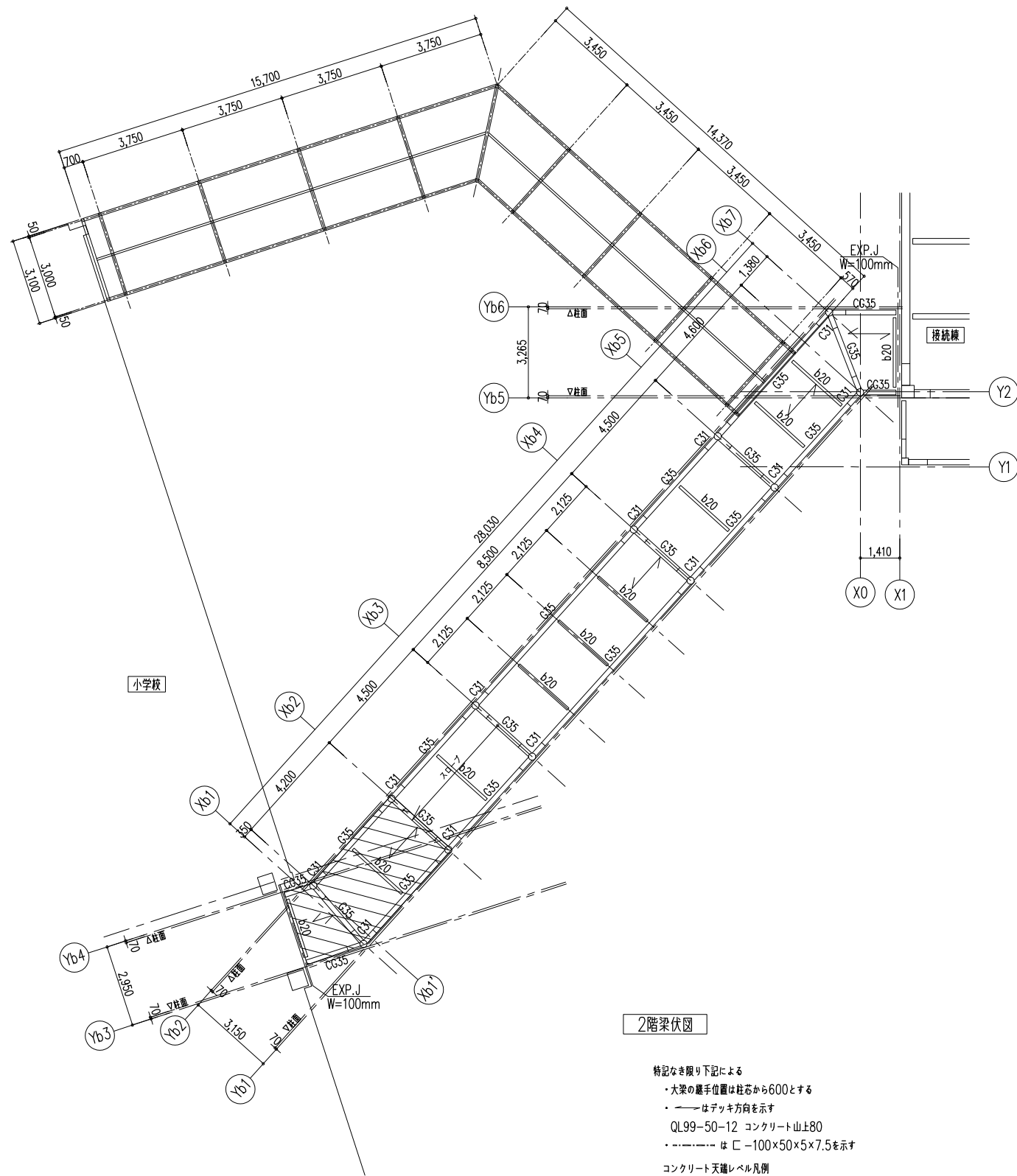
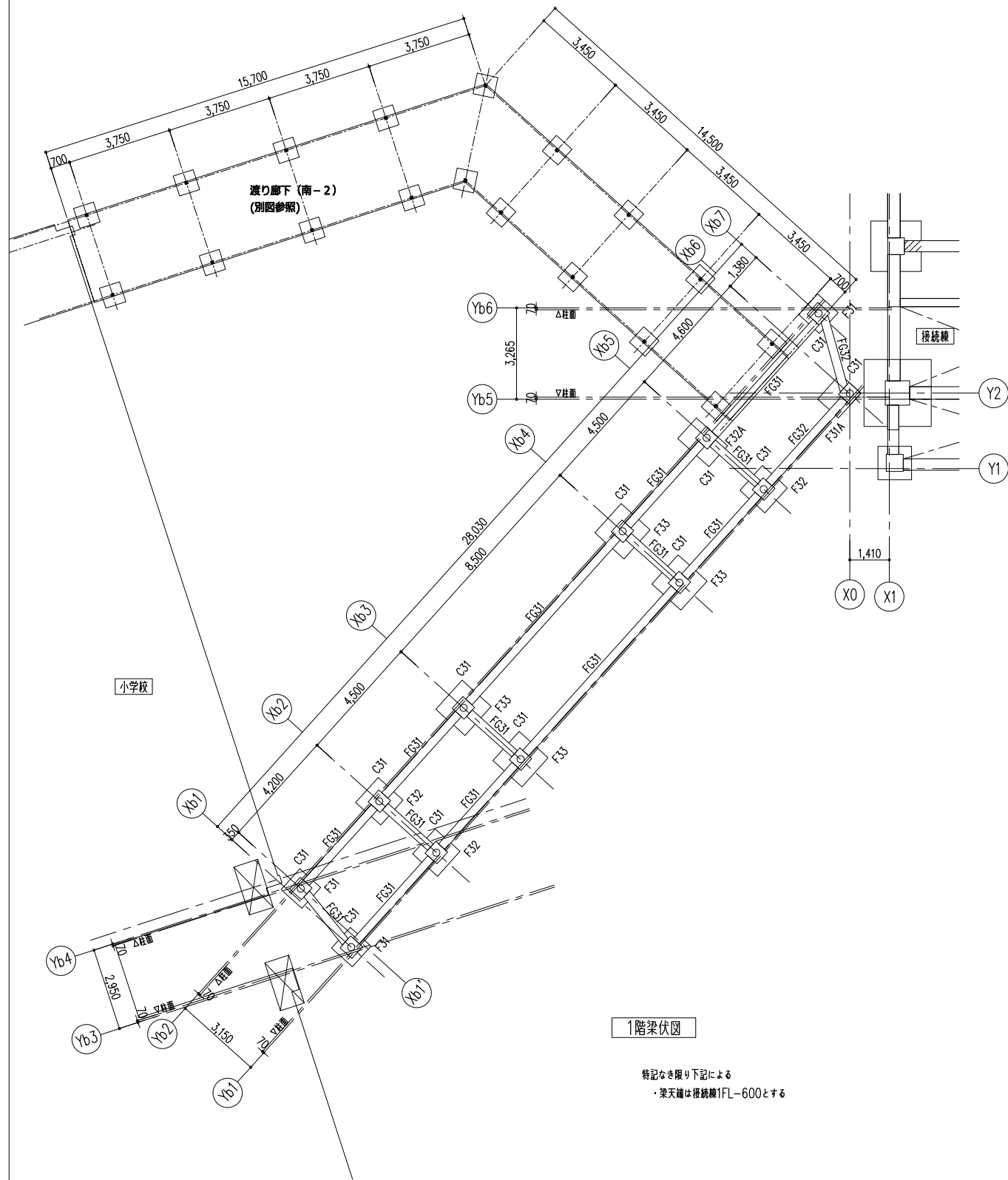
(B) バックスタフナ ■ GPL

(B') バックスタフナ ■ GPL

(C) バックスタフナ ■ 2SPL

取り付付材の
 クエリ厚保以上





代表：株式会社エーシーエー設計
一般建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一般建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一般建築士登録 第222108号
構造設計一般建築士登録 第1975号
小林好樹

検査者 湯本桂司

担当 小林

担当 米山

Job No. 24078
工事名

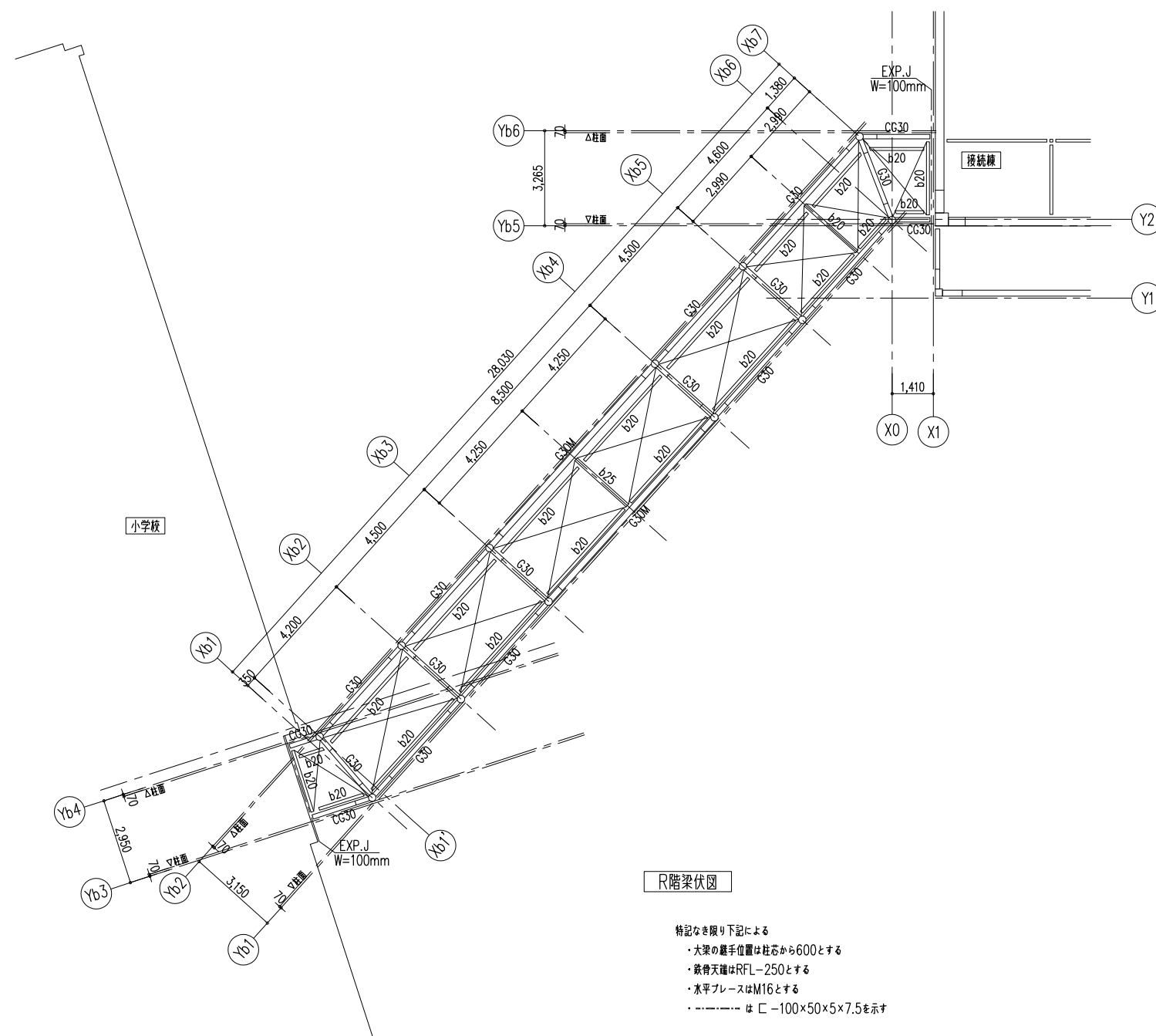
岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

発行日 2025.09.30
図面名称

【渡り廊下 (南-1)】
1階梁伏図, 2階梁伏図

縮尺 A1:1/100, A3:1/200

S-032 入札用
25.09.30



代表：株式会社イーシーエ設計
一級建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一級建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一級建築士登録 第222108号
構造設計一級建築士登録 第1975号
小林好樹

検査者	湯本桂司
-----	------

担当	小林
----	----

担当	米山
----	----

Job No.	24078
工事名	

岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

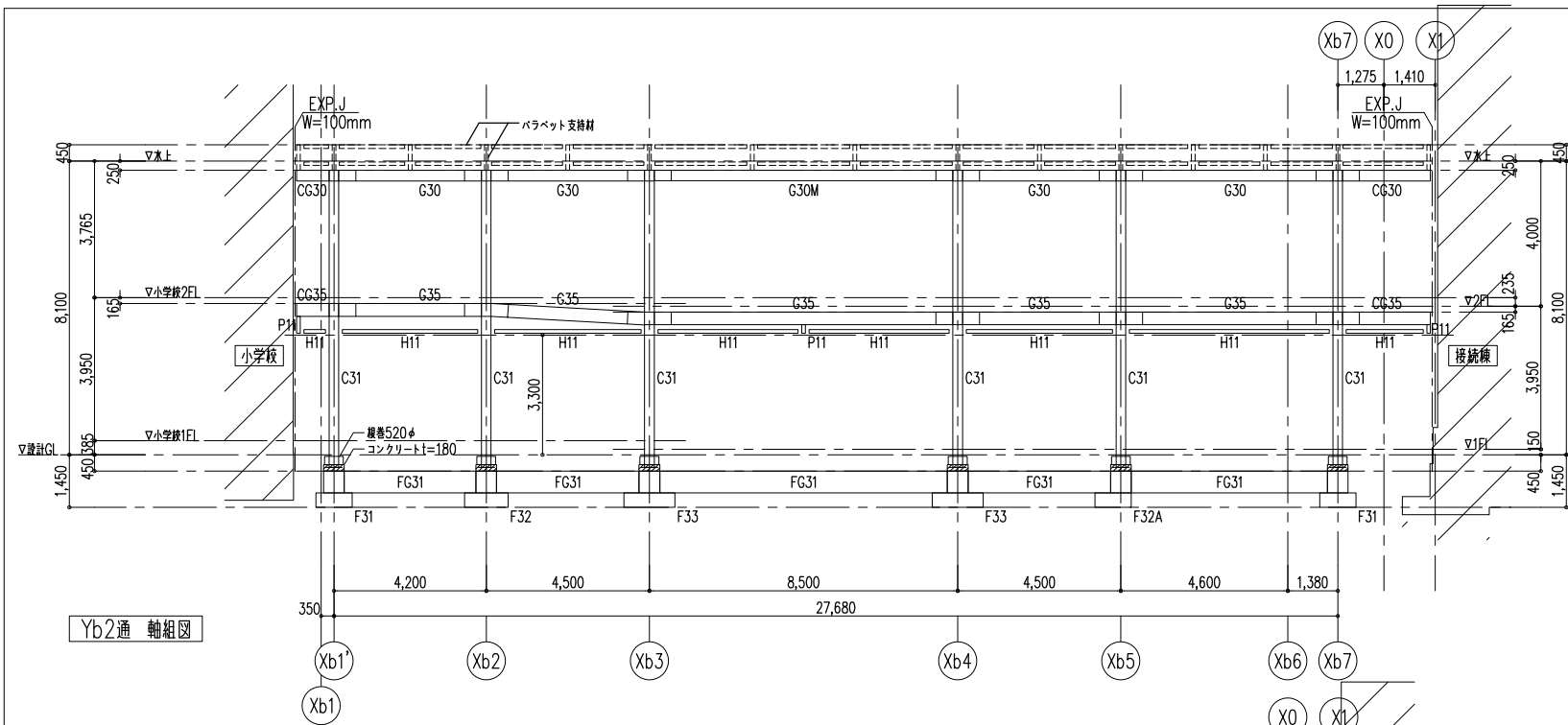
発行日 2025.09.30

図面名称

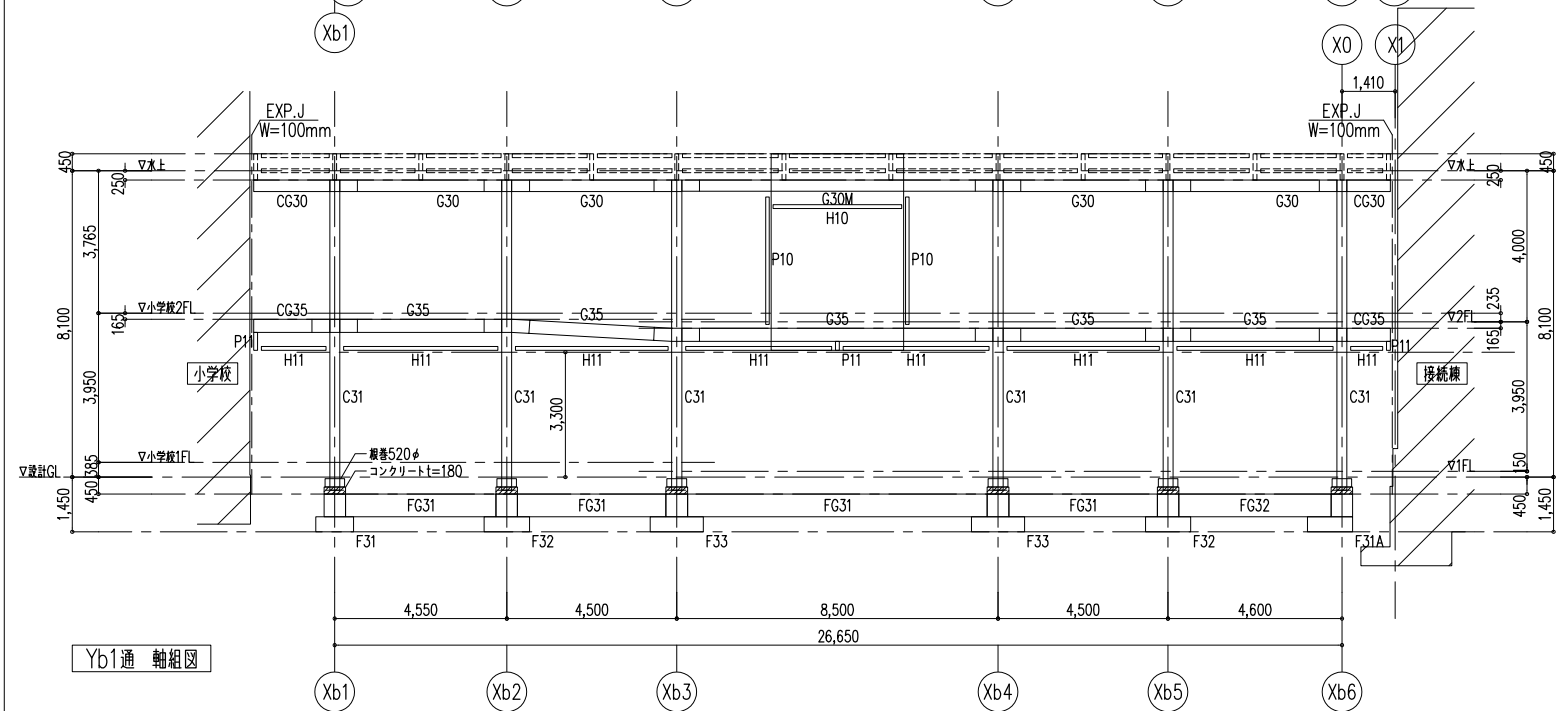
【渡り廊下（南-1）】
R階梁伏図

縮尺 A1:1/100,A3:1/200

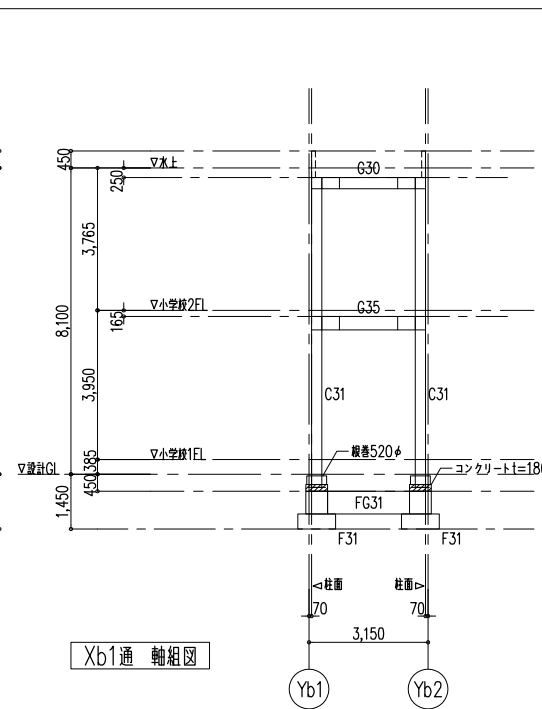
S-033



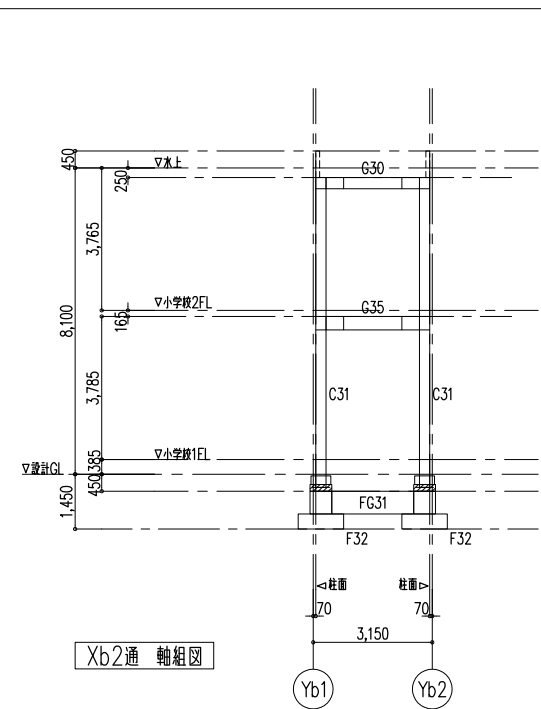
Yb2通 軸組図



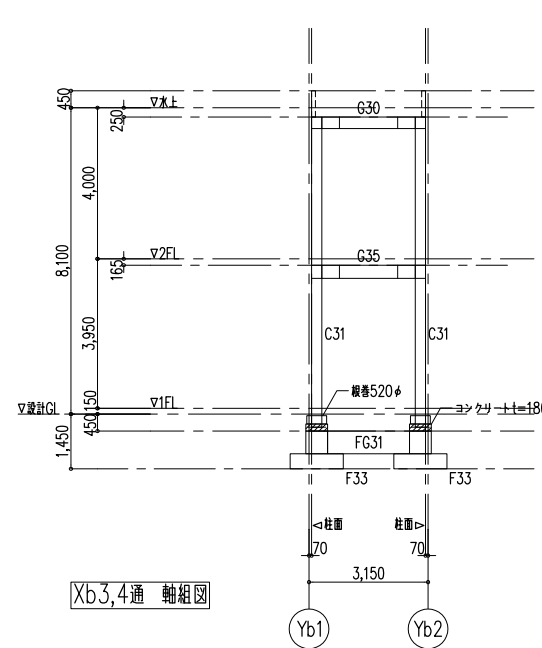
Yb1通 軸組図



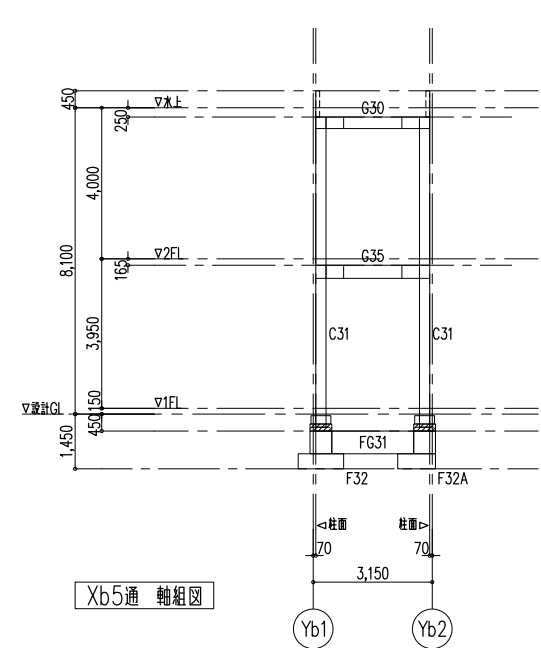
Xb1通 軸組図



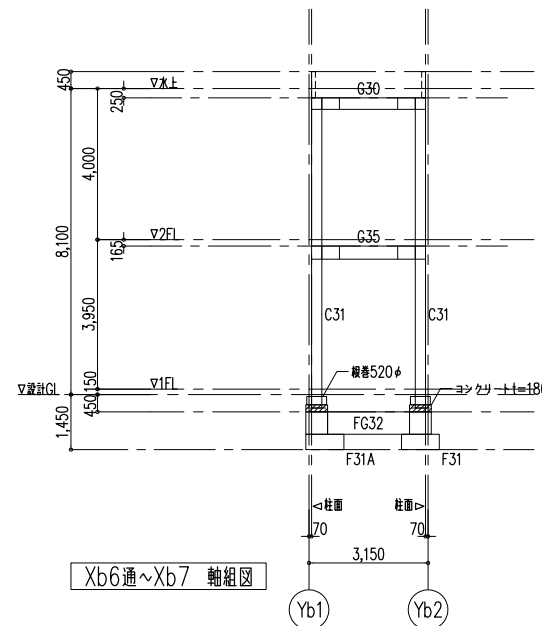
Xb2通 軸組図



Xb3,4通 軸組図



Xb5通 軸組図



Xb6通~Xb7 軸組図

特記なき限り下記による
・大梁の裏手位置は柱芯から600とする
・c===== は ロ=100×100×2.3を示す

代表：株式会社エー・シー・エー設計
一般建築士事務所登録
(長野県) M第 77312 号

管理建築士 一級建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一級建築士登録 第222108号
構造設計一級建築士登録 第1975号
小林好子樹

検査者 湯本桂司

担当 小林

担当 米山

Job No. 24078
工事名

岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

発行日 2025.09.30
図面名称

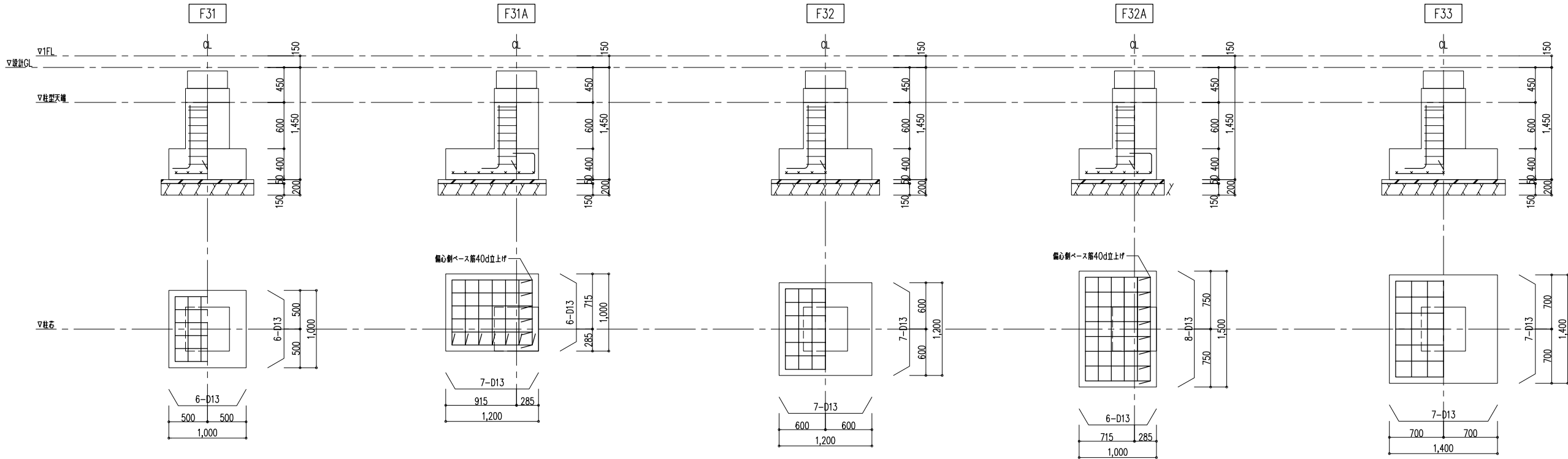
【渡り廊下(南-1)】
軸組図

縮尺 A1:1/100,A3:1/200

S-034 入札用
25.09.30

基礎リスト

S=1/30



基礎梁リスト

S=1/30

・巾止筋#D10-@1000以内とする

記号	FG31	FG32
位置	全断面	全断面
断面		
B×D	300×600	300×600
上端筋	2-D22	3-D22
下端筋	2-D22	2-D22
腰筋	2-D10	2-D10
スターラップ	□-D10@200	□-D10@200

柱型リスト

S=1/30

符号	C31
根巻	
Dx×Dy	520*
主筋	6-D13
HOOP	○-D10@100
上部増打部	
Dx×Dy	570×570
主筋	8-D16
HOOP	□-D10@150
断面	
Dx×Dy	570×570
主筋	8-D16
HOOP	□-D13@150

鉄骨部材リスト

・特記なき部材はSS400とする
・梁継手はSCSS-H97による
・通しダイアフラムはSN490Cとし、内ダイアフラムはSN490Bとする

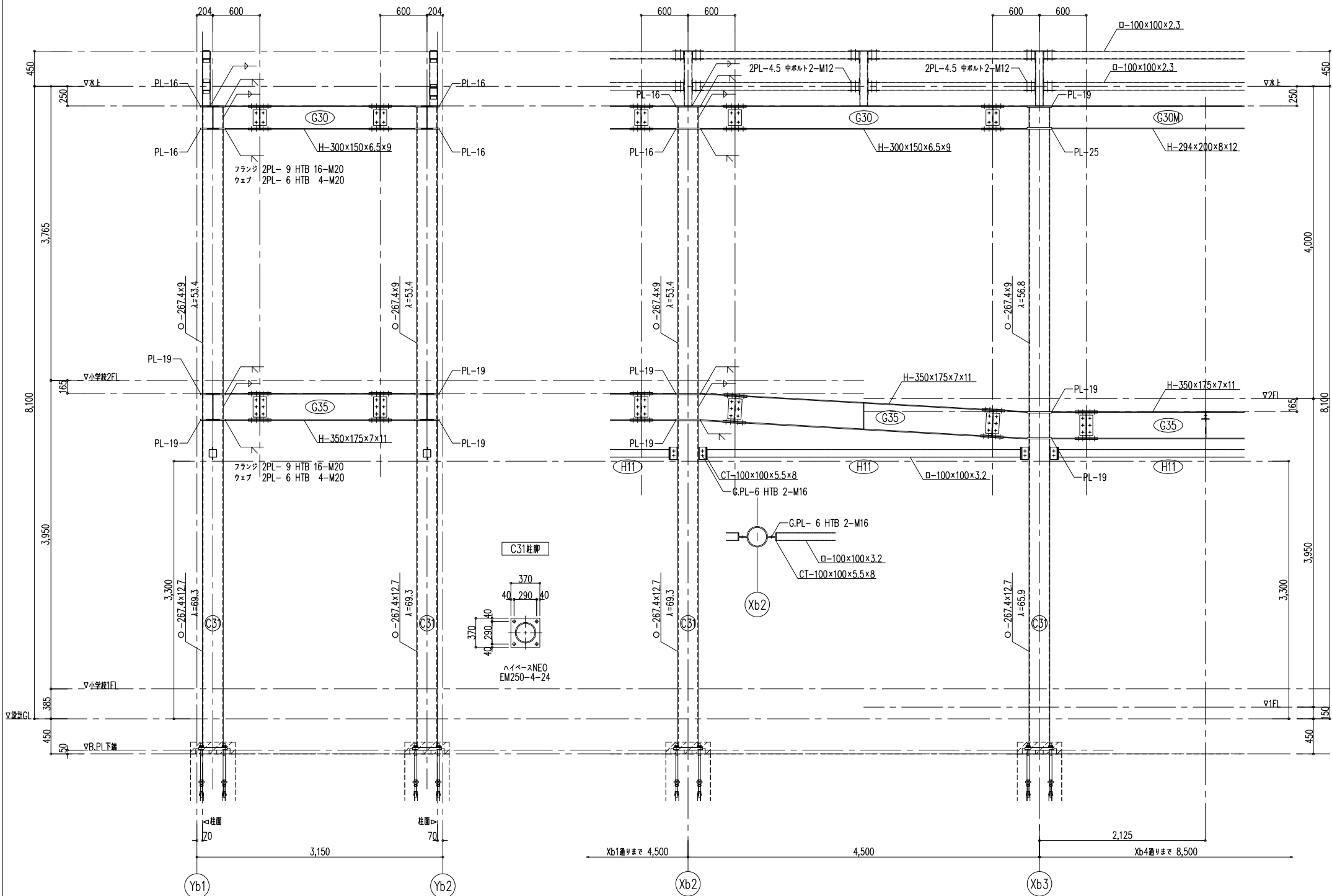
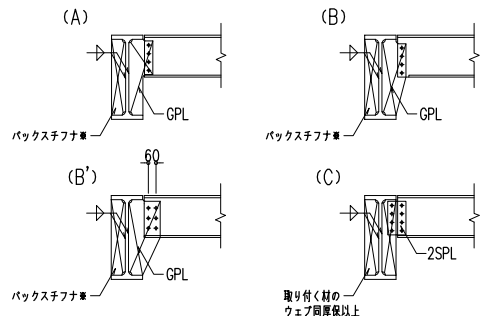
・厚さ40mmを超える通しダイアフラムはTMCP鋼とする

・<◎>は標準◎60以外の場合を示す

大梁リスト（片持ち梁リスト）						柱リスト			小梁リスト						
符 号	部 材	フランジ継手		ウェブ継手		符 号	部 材	ベースプレート		符 号	部 材	タイプ	ウェブ継手		
		添 板（外）	H T B	添 板	H T B			アンカーボルト	GPL				HTB	備 考	
															添 板（内）
G30・CG30 (SN400B)	H-300×150×6.5×9	2PL- 9×150×290 4PL- 9× 60×290	4×4-M20	2PL- 6×200×170	2×2-M20 <◎120>	2C31 (STK400)	○-267.4×9		b20 b25	H-200×100×5.5×8 H-250×125× 6×9	B' B	G.PL- 6 G.PL- 6	2-M16 3-M16		
G30M (SN400B)	H-294×200×8×12	2PL- 9×200×410 4PL- 9× 80×410	4×6-M20	2PL- 9×200×170	2×3-M20	1C31 (STK400)	○-267.4×12.7 (溶融亜鉛めっき)	ハイベースNEO EM250-4-24							
G35・CG35 (SN400B)	H-350×175× 7×11	2PL- 9×175×290 4PL- 9× 70×290	4×4-M20	2PL- 6×260×170	2×3-M20 <◎90>				H10 H11	□-100×100×4.5 □-100×100×3.2	B' B'	G.PL- 6 G.PL- 6	2-M16 2-M16	小ロフサギ CT-100×100×5.5×8 小ロフサギ CT-100×100×5.5×8	
						P10	□-100×100×4.5	小ロフサギ CT-100×100×5.5×8 G.PL-6 HTB 2-M16							
						P11	□-100×100×3.2	架下に剛接合							

小梁ジョイントタイプ

※バックスタフナはGPL同厚とする。
但し、200以内の位置にGPLが
バックスタフナ側にある場合は不要とする。



Xb2通 鉄骨架構詳細図

Ya1通 鉄骨架構詳細図

Y1-300通 鉄骨架構詳細図

代表：株式会社エーシー設計
一般建築士事務所登録
(長野) M第 77312 号

管理建築士 一級建築士登録
第222107号 湯本桂司

設計者
一級建築士登録 第222108号
構造設計一級建築士登録 第1975号
小林好樹

検査者 湯本桂司

担当 小林

担当 米山

Job No. 24078
工事名

岡谷市川岸学園整備 第2期
(接続棟建設)
建築主体工事

発行日 2025.09.30
図面名称

【渡り廊下(南-1)】
鉄骨部材リスト
鉄骨架構詳細図

縮尺 A1:1/100,A3:1/200

S-036

入札用
25.09.30